

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等			科目			単位数	報告課題回数	定期試験回数
国語			現代の国語			2	6	2
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	1	0	1					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名					
教科書	東京書籍	現国・703	現代の国語					
副教材等	-	-	-					
学習目標								
<p>国語学習を通じて、言葉そのものを正しく捉え、対象や概念を正しく表現できる一方で、その言葉の背景世界や行間まで意識することで豊かな言葉の力を育み、「言葉による見方・考え方を働かせる。そのために「現代の国語」では以下の観点を学習目標とし、文章の論理的読解手法や、表現方法、分析方法などの現代に必要な知識や考え方を指導する。</p> <p>(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。【知識・技能】                  (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】                  (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】                  以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
①読解編1 p18～23「水の東西」/Column p24～25「評論の型」/探究編1 p152～155「本を紹介する」/探究編2 p160～165「手順を整理して正確に伝える」 ②読解編2 p33～39「言葉は世界を切り分ける」/Column p166～169「探究学習へのアプローチ」/探究編3 p170～177「発想を広げて課題を見つける」/探究編4 p178～185「新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる」				④読解編4 p76～82「真の自立とは」/Column p92～94「文章を読み比べるために」/探究編7 p205～209「異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く」 ⑤読解編5 p103～111「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」/探究編8 p210～215「情報を整理しながら話し合う」/探究編9 p216～223「論証してレポートを書く」				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	読解編1 p18～23「水の東西」 Column p24～25「評論の型」 探究編1 p152～155「本を紹介する」 探究編2 p160～165「手順を整理して正確に伝える」	【知識・技能】 ①論理的な文章の読解を通じて、主題を正しく把握する方法を理解している。 ②ブックトーク・ビブリオバトルを通じて相手に伝わる表現手法について理解している。 【思考・判断・表現】 ①評論文の基本的な形と一般的な理論展開の流れを理解し判断することができる。 ②手順書の書き方を通じて表形式やフローチャート形式などの実用的表現を理解し適切に使用することができる。			1	1・2	○	
②	読解編2 p33～39「言葉は世界を切り分ける」 Column p166～169「探究学習へのアプローチ」 探究編3 p170～177「発想を広げて課題を見つける」 探究編4 p178～185「新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる」	【知識・技能】 ①探究学習の目標目的を学び、その基本的な方法や考え方などの知識を理解している。 【思考・判断・表現】 ①探究学習を通じて、自分で問題提起を行い、その調査・検証・発表の方法を適切に使うことができる。 ②文章の構造を把握して論理的な文章の構造的読解を理解し、その内容を適切に判断できる。			2	3・4	○	
③	読解編3 p54～63「時間と自由の関係について」 探究編5 p186～193「メディアを適切に使い分けながら、情報を収集する」 探究編6 p194～200「調べた情報を説明資料にまとめる」 Column p201～204「グラフや写真の読み取り方」	【知識・技能】 ①探究学習に関連して、メディアの特性とメディアリテラシーについて正しく理解している。 ②グラフや写真など非言語情報に触れその読解手法を理解し実践することができる。 【思考・判断・表現】 ①キーワードの展開を通読から学び、論の展開方法を理解し、本文の詳細な構造分析をすることができる。			3	5・6		
④	読解編4 p76～82「真の自立とは」 Column p92～94「文章を読み比べるために」 探究編7 p205～209「異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く」	【知識・技能】 ①段落相互の関係など、文脈を構成する言葉を利用して論理的な文章の構造解釈の方法を正しく身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①同一テーマの文章を比較し、主張やデータの使い方の違いを理解し、多角的な視点で本文を理解することができる。 ②様々な意見からそれぞれの立場や考え方の違いを比較考察し、そこから自分の意見につなげる力を身に付けている。			4	7・8	○	
⑤	読解編5 p103～111「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 探究編8 p210～215「情報を整理しながら話し合う」 探究編9 p216～223「論証してレポートを書く」	【知識・技能】 ①報告文(レポート)の体裁や作成の流れを学び、実際に探究学習の成果を作成し発表することができる。 【思考・判断・表現】 ①これまで学んだ論理的な文章の解法をもとに、自分の観点で理解し整理する力を身に付けている。 ②「話し合い」の方法を学び、実際に自分の意見を交換し話し合いを通じて、考え方を高めることができる。			5	9・10	○	
⑥	読解編6 p126～133「暇と退屈の倫理学」 Column p224～228「引用の方法」 探究編10 p229～236「探究したことを発信する」	【知識・技能】 ①引用のルールや効果的な方法を学び、論文や発表用資料の正しい作成法を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①抽象的概念をテーマにした論理的な文章の読解を通じて、概念を論証する方法を適切に使うことができる。 ②「現代の国語」を通じて学んだことの中から1つテーマをとりあげ探究学習の成果として発表することができる。			6	11・12		
学習方法								
【添削指導(報告課題)】								
1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。								
【面接指導(スクリーンング)】								
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。								
【定期試験】								
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。								
評価方法								
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。								

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目				
国語		言語文化				
	単位数	報告課題回数	定期試験回数			
	2	6	2			
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	1	0	1			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載						
教科書	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	東京書籍	言文・701	新編言語文化			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>国語学習を通じて、言葉そのものを正しく捉え、対象や概念を正しく表現できる一方で、その言葉の背景世界や行間まで意識することで豊かな言葉の力を育み、「言葉による見方・考え方」を働かせる。そのために「言語文化」では以下の観点を学習目標とし、日本語の豊かさや奥深さ、そして言語と文化の関連について指導する。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。【知識・技能】</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験		学年末試験				
<p>①随筆 p10～15「さくらさくらさくら」/小説 p24～35「とんかつ」/p45～48「小説の読み方」</p> <p>②古文入門 p122～123「兎のそら寝」/p124～125「古文の言葉と仮名遣い」/p128～129「古語を調べるために」 p134～136「用言の活用」/詩歌 p154～163「折々の歌」/p164～166「和歌」</p>		<p>④詩歌 p62～65「I was born」/小説 p72～87「羅生門」/p88～92言語活動「元になった古典作品と読み比べよう」</p> <p>⑥論語 p238～241「論語―八章」/p242～245「『論語』の注釈を読む」/史話 p248～249「曹公鞍於白馬」(三国志)</p>				
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
					前期	後期
①	現代文編 随筆 p10～15「さくらさくらさくら」 小説 p24～35「とんかつ」/p45～48「小説の読み方」	【知識・技能】 ①随筆の文章的特性を理解し、その読解手法を正しく使うことができる。 【思考・判断・表現】 ②現代の随筆および小説作品を通読し、筆者の情緒的な感性を味わうことができる。 ③小説の基本的な知識を把握し、小説の鑑賞方法や鑑賞のポイントを理解することができる。	1	1・2	○	
②	古文編 古文入門 p122～123「兎のそら寝」/p124～125「古文の言葉と仮名遣い」/p128～129「古語を調べるために」 p134～136「用言の活用」 詩歌 p154～163「折々の歌」/p164～166「和歌」	【知識・技能】 ①古文を通釈するために必要な、基本的な決まり事に関する知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ②古文の通読・音読を通して、古代日本の文化や精神性といった古典そのものの魅力に触れることができる。 ③近代以降の詩歌に触れ、韻文特有の表現から日本の精神文化について考えるきっかけにできる。	2	3・4	○	
③	漢文編 漢文入門 p210～218「訓読の基本」 漢詩 p229「春曉」(孟浩然)・「春曉」(幸田露伴)/p233「春望」(杜甫)/p234「漢詩と日本文学」	【知識・技能】 ①漢文を通釈するのに必要な訓読のルールと基本的な句法の知識を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ②中国の古典である漢文が日本の文化や日本人の精神性に与えた影響を知るきっかけにできる。 ③中国近代詩(唐詩)のルールを学び、代表的な唐詩の解釈から当時の中国文化や精神性を理解している。	3	5・6		
④	現代文編 詩歌 p62～65「I was born」 小説 p72～87「羅生門」/p88～92言語活動「元になった古典作品と読み比べよう」	【知識・技能】 ①和歌や俳句、詩など日本の韻文特有の決まりごとを正しく理解している。 【思考・判断・表現】 ②現代詩の理解を通じ、現代日本の文化や日本人の精神性を見つめ直すことができる。 ③明治以降の小説を読むことで、近代日本の精神性と現代の違いについて考察できる。 ④近代と古典の比較から古典的な日本の精神文化と明治時代以降の日本人の変化を考察できる。	4	7・8	○	
⑤	古文編 古文入門 p126～127「用光と白波」(今鏡) 随筆 p146～148「うつくしきもの」(枕草子) 物語 p170～171「芥川」(伊勢物語)/p203～208「文体の変遷」	【知識・技能】 ①中古文学の代表的な短編3作品を読み、基本文法や古典解釈の方法を正しく身に付けている。 【思考・判断・表現】 ②ジャンルの違う3作品の相互比較から共通点や相異点などを発見し中古文学の特徴を理解できる。 ③様々な文体の知識を学び、豊かな日本語の表現技法を正しく理解し、解釈することができる。	5	9・10	○	
⑥	漢文編 論語 p238～241「論語―八章」/p242～245「『論語』の注釈を読む」 史話 p248～249「曹公鞍於白馬」(三国志)	【知識・技能】 ①中国古典特有の「注釈書」に触れ中国文化の学問的姿勢を正しく把握しその精神性を理解できる。 【思考・判断・表現】 ②古代日本から現代にいたるまで強い影響を与える「論語」から人間の普遍性を理解することができる。 ③日本でも人気のある「三国志」に触れ、中国と日本の文化に共通する価値観について考察することができる。	6	11・12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						



【2024年度】年間指導計画

教科等		科目		単元	単元	単元	
国語		文学国語		4	12	2	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
4	2	0	2				
後援教材(1) 発行元の標準・題名・発行年(2) 発行元・標準		発行元の標準・題名・発行年(2) 発行元・標準		書名			
教科書		東京書籍	文館701	文学国語			
副教材等		-	-	-			
学習目標							
<p>国語学習を通じて、言葉そのものを正しく捉え、対象や概念を正しく表現できる一方で、その言葉の情景世界や行間まで意識することで豊かな言葉の力を育み、「言葉による見方・考え方をめかせる。そのために「文学国語」では、「高文化」「現代の国語」の学習を踏まえ、「思考力・判断力・表現力」の感性・情緒の醸成を育成することで、共感や想像の力を育む。また、文学作品を通じて表現力を高め、作品の創造性から考えようとする多角的な視野を養育することを旨とする。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。【知識・技能】</p> <p>(2)家・共同体の営みに必要とされる力を伸ばすとともに、創造的に考えようとする。他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
<p>【1部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【2部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【3部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【4部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【5部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【6部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【7部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【8部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【9部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【10部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【11部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【12部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【13部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【14部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【15部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【16部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【17部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【18部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【19部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【20部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【21部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【22部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【23部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【24部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【25部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【26部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【27部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【28部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【29部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【30部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【31部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【32部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【33部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【34部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【35部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【36部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【37部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【38部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【39部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【40部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【41部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【42部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【43部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【44部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【45部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【46部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【47部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【48部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【49部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【50部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【51部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【52部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【53部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【54部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【55部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【56部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【57部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【58部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【59部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【60部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【61部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【62部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【63部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【64部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【65部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【66部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【67部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【68部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【69部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【70部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【71部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【72部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【73部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【74部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【75部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【76部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【77部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【78部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【79部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【80部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【81部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【82部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【83部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【84部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【85部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【86部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【87部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【88部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【89部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【90部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【91部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【92部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【93部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【94部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【95部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【96部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【97部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【98部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【99部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p> <p>【100部】随筆1の(8-14)・(15-18)</p>			<p>【1部】随筆1「国語から独立して」(p190-198)・「書かれた風景の中へ」(p199-205)</p> <p>【2部】随筆1「コンニエの母」(p217-222)・文学への道4 記号も言語の一種」(p224)</p> <p>【3部】随筆1「夏の夜」(p226-227)・「編み」(p228-229)・「小遣なる古城のほとり」(p230-231)・「年高」(p236-244)・「参事」(p245)</p> <p>【4部】随筆2「空つばね」(p248-254)・「クレーンという女」(p255-265)</p> <p>【5部】随筆2「父と暮らせば」(p266-280)</p>				
【添削指導(報告課題)】							
学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	前期	後期	
①	<p>【1部】随筆1「書かされた風景の中へ」(p199-205)</p> <p>【2部】随筆1「コンニエの母」(p217-222)</p> <p>【3部】随筆1「夏の夜」(p226-227)</p> <p>【4部】随筆1「小遣なる古城のほとり」(p230-231)</p> <p>【5部】随筆1「年高」(p236-244)</p> <p>【6部】随筆1「参事」(p245)</p>	<p>『文章のメッセージ-近現代文学を俯瞰するⅠ』</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①主要な代表作と作家、主な文章思想などの近現代文学史の基本事項を理解できる。</p> <p>②近現代文学の思想の一致点と相違点を正しく俯瞰できる。</p> <p>③随筆の基本的な形式と一般的な理論展開の流れを理解し判断することができる。</p> <p>④表現や背景から筆者の考えを理解、あるいは共感することができる。</p>	1	1-2	○		
②	<p>【1部】随筆1「書かされた風景の中へ」(p199-205)</p> <p>【2部】随筆1「コンニエの母」(p217-222)</p> <p>【3部】随筆1「夏の夜」(p226-227)</p> <p>【4部】随筆1「小遣なる古城のほとり」(p230-231)</p> <p>【5部】随筆1「年高」(p236-244)</p> <p>【6部】随筆1「参事」(p245)</p>	<p>『近代小説を読むⅠ-近現代文学を俯瞰するⅡ』</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①近代小説の形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>②近代小説の形式や内容の発展や変遷を理解できる。</p> <p>③随筆の基本的な形式と内容の発展や変遷を理解できる。</p> <p>④随筆の基本的な形式と内容の発展や変遷を理解できる。</p>	2	3-4	○		
③	<p>【1部】随筆1「書かされた風景の中へ」(p199-205)</p> <p>【2部】随筆1「コンニエの母」(p217-222)</p> <p>【3部】随筆1「夏の夜」(p226-227)</p> <p>【4部】随筆1「小遣なる古城のほとり」(p230-231)</p> <p>【5部】随筆1「年高」(p236-244)</p> <p>【6部】随筆1「参事」(p245)</p>	<p>『現代小説を読む』</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>②随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>③随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>④随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p>	3	5-6	○		
④	<p>【1部】随筆1「書かされた風景の中へ」(p199-205)</p> <p>【2部】随筆1「コンニエの母」(p217-222)</p> <p>【3部】随筆1「夏の夜」(p226-227)</p> <p>【4部】随筆1「小遣なる古城のほとり」(p230-231)</p> <p>【5部】随筆1「年高」(p236-244)</p> <p>【6部】随筆1「参事」(p245)</p>	<p>『様々な価値観に触れる-創作へのアプローチ』</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①文学のジャンルとその表現の特徴などの知識を正しく理解できる。</p> <p>②随筆の形式や内容の発展や変遷を理解できる。</p> <p>③随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>④随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p>	4	7-8			
⑤	<p>【1部】随筆1「書かされた風景の中へ」(p199-205)</p> <p>【2部】随筆1「コンニエの母」(p217-222)</p> <p>【3部】随筆1「夏の夜」(p226-227)</p> <p>【4部】随筆1「小遣なる古城のほとり」(p230-231)</p> <p>【5部】随筆1「年高」(p236-244)</p> <p>【6部】随筆1「参事」(p245)</p>	<p>『詩に親しむ-短歌と評論』</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①詩の形式や内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>②短歌の形式や内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>③随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>④随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p>	5	9-10			
⑥	<p>【1部】随筆1「書かされた風景の中へ」(p199-205)</p> <p>【2部】随筆1「コンニエの母」(p217-222)</p> <p>【3部】随筆1「夏の夜」(p226-227)</p> <p>【4部】随筆1「小遣なる古城のほとり」(p230-231)</p> <p>【5部】随筆1「年高」(p236-244)</p> <p>【6部】随筆1「参事」(p245)</p>	<p>『名作に触れるⅠ』</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①近代文学の大家、森田に関する文学史上の基本事項を理解できる。</p> <p>②随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>③随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>④随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p>	6	11-12			
⑦	<p>【1部】随筆1「書かされた風景の中へ」(p199-205)</p> <p>【2部】随筆1「コンニエの母」(p217-222)</p> <p>【3部】随筆1「夏の夜」(p226-227)</p> <p>【4部】随筆1「小遣なる古城のほとり」(p230-231)</p> <p>【5部】随筆1「年高」(p236-244)</p> <p>【6部】随筆1「参事」(p245)</p>	<p>『様々な見方・考え方に触れるⅠ-現代小説を読むⅡ』</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①前期の学習を踏まえ随筆の基本事項が理解できている。</p> <p>②前期の学習を踏まえ現代小説の基本事項が理解できている。</p> <p>③随筆で表現された筆者の意見や独自の視点の発展や変遷を理解し判断することができる。</p> <p>④随筆で表現された筆者の意見や独自の視点の発展や変遷を理解し判断することができる。</p>	7	13-14	○		
⑧	<p>【1部】随筆1「書かされた風景の中へ」(p199-205)</p> <p>【2部】随筆1「コンニエの母」(p217-222)</p> <p>【3部】随筆1「夏の夜」(p226-227)</p> <p>【4部】随筆1「小遣なる古城のほとり」(p230-231)</p> <p>【5部】随筆1「年高」(p236-244)</p> <p>【6部】随筆1「参事」(p245)</p>	<p>『詩に親しむ-短歌と評論』</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>②随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>③随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>④随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p>	8	15-16	○		
⑨	<p>【1部】随筆1「書かされた風景の中へ」(p199-205)</p> <p>【2部】随筆1「コンニエの母」(p217-222)</p> <p>【3部】随筆1「夏の夜」(p226-227)</p> <p>【4部】随筆1「小遣なる古城のほとり」(p230-231)</p> <p>【5部】随筆1「年高」(p236-244)</p> <p>【6部】随筆1「参事」(p245)</p>	<p>『様々な見方・考え方に触れるⅡ-多様な形式の作品に触れる』</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①前期の学習を踏まえ随筆の基本事項が理解できている。</p> <p>②随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できている。</p> <p>③随筆で表現された筆者の意見や独自の視点の発展や変遷を理解し判断することができる。</p> <p>④随筆で表現された筆者の意見や独自の視点の発展や変遷を理解し判断することができる。</p>	9	17-18	○		
⑩	<p>【1部】随筆1「書かされた風景の中へ」(p199-205)</p> <p>【2部】随筆1「コンニエの母」(p217-222)</p> <p>【3部】随筆1「夏の夜」(p226-227)</p> <p>【4部】随筆1「小遣なる古城のほとり」(p230-231)</p> <p>【5部】随筆1「年高」(p236-244)</p> <p>【6部】随筆1「参事」(p245)</p>	<p>『名作に触れるⅡ』</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①近代文学の大家、森田に関する文学史上の基本事項を理解できる。</p> <p>②随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>③随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>④随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p>	10	19-20			
⑪	<p>【1部】随筆1「書かされた風景の中へ」(p199-205)</p> <p>【2部】随筆1「コンニエの母」(p217-222)</p> <p>【3部】随筆1「夏の夜」(p226-227)</p> <p>【4部】随筆1「小遣なる古城のほとり」(p230-231)</p> <p>【5部】随筆1「年高」(p236-244)</p> <p>【6部】随筆1「参事」(p245)</p>	<p>『多角的に文学を読む』</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>②随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>③随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>④随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p>	11	21-22			
⑫	<p>【1部】随筆1「書かされた風景の中へ」(p199-205)</p> <p>【2部】随筆1「コンニエの母」(p217-222)</p> <p>【3部】随筆1「夏の夜」(p226-227)</p> <p>【4部】随筆1「小遣なる古城のほとり」(p230-231)</p> <p>【5部】随筆1「年高」(p236-244)</p> <p>【6部】随筆1「参事」(p245)</p>	<p>『近代小説を読むⅡ』</p> <p>【知識・技能】</p> <p>①文学史、横光利一に関する文学史上の基本事項を理解できる。</p> <p>②随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>③随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p> <p>④随筆の基本的な形式と内容の基本的な事項を理解できる。</p>	12	23-24			
学習方法							
【添削指導(報告課題)】							
<p>1 クラウドWebキヤンパス(報告課題サポート)内の「課題支援(チェックテストを含む)」の学習を続けること。</p> <p>2 教科書や資料に添削指導を受け、質問に答えること。</p> <p>3 各回の添削指導後、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>							
【面接指導(スクリーンング)】							
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学習機会とすること。</p> <p>2 教員から面接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力しながら学習に取り組むこと。</p>							
【定期試験】							
<p>1 実施回数 前期1回、後期1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>							
評価方法							
添削指導、面接指導及び定期試験を、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【2024年度】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
国語		国語表現		4	12	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※規定教科書は、発行者の番号・題名、教科書の記号・番号も記載		発行者の番号・題名または印刷者名		教科書の記号・番号		書名
教科書	東京書籍	国表702	国語表現			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的確に理解し効果的に表現できるようになる。そのために「国語表現」では以下の観点で学習目標とし、文章の論理的読解手法、表現方法、分析方法などといった資質・能力を身に付けることを目標とし指導する。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。【知識・技能】                  (2) 論理的に考える力や想像力・創造力・豊かな想像力・表現力、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】                  (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
第1章 分かりやすく説明しよう 情報の整理・伝達(p16～p33) ○接続の言葉 ○SNSでのトラブル回避のために 第2章 身体で表現しよう(p34～p45) ○インプロの魅力ー先の見えにくい時代を生き抜くヒントー 第3章 「問い」を考えよう インタビュー(p46～p59) ○電話のかけ方・メールの書き方○手紙の書き方			第5章 論理的な文章を書こう 小論文(p94～97、p102～p109) ○文章修正ワーク C テーマ分析型小論文 D 自己PR型小論文 ○パラグラフ・ライティングー論理的な文章を書く方法を学ぼうー 第6章 話し合う力をつけよう ファンリレーション(p112～p123) 表現と読書活動(p128～p137) ○広告・PRの表現ー限られた条件のもとで、最大限のパフォーマンスを追求するー			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1章 分かりやすく説明しよう 情報の整理・伝達(p16～p33) ○接続の言葉 ○SNSでのトラブル回避のために	【知識・技能】 ①相手・内容・目的・状況を明確にし、表現することができる。②接続語や情報を伝える順序を考え、適切に表現することができる。 【思考・判断・表現】 ①情報の取捨選択・重みづけを行い、見やすさに配慮して情報を整えることができる。		1	1・2	○
②	第2章 身体で表現しよう(p34～p45) ○インプロの魅力ー先の見えにくい時代を生き抜くヒントー	【知識・技能】 ①情報伝達には言葉以外にも多くの表現方法があることを理解している。②発声や口調、身振り、表情など、それぞれの表現方法の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ①発声や口調、身振り、表情など、それぞれの表現方法の特徴を踏まえて判断し、その場に適切な表現を選択し実行することができる。		2	3・4	○
③	第3章 「問い」を考えよう インタビュー(p46～p59) ○電話のかけ方・メールの書き方 ○手紙の書き方	【知識・技能】 ①目的とテーマを明確にすることができる。②問いを重ねて、隠れた情報や価値観を引き出すことができる。 【思考・判断・表現】 ①目的やテーマに合わせて、さまざまな角度から質問をすることができる。②質問を経て得た情報を適切に仕分け、内容をまとめることができる。		3	5・6	○
④	第3章 「問い」を考えよう(p60～p65) ○「問い」の活用 ○よい質問とは	【知識・技能】 ①「問い」の種類やよい質問がどのようなものかを理解している。 【思考・判断・表現】 ①「問い」を用いて思考や表現を深めることができる。②「問い」を用いて振り返り(リフレクション)を適切に行うことができる。		4	7・8	
⑤	第4章 「自分」を表現しよう 面接・自己PR(p66～p79)	【知識・技能】 ①自分自身や相手をよく知るための手法を身に付けている。②面接・自己PRの特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ①自己PRをする相手や手法に合わせて、「自分」を表現することができる。		5	9・10	
⑥	第5章 論理的な文章を書こう 小論文(p82～p93、p98～p101) A テーマ型小論文 B 課題文型小論文	【知識・技能】 ①「接続」「意見」の特徴を理解している。②さまざまな小論文の型を理解している。 【思考・判断・表現】 ①与えられたテーマや資料をもとに自分の思い・考えを「主張」として組み立て、「根拠」を明確にしながら、「論理的な構成」の文章にまとめることができる。		6	11・12	
⑦	第5章 論理的な文章を書こう 小論文(p94～97、p102～p109) ○文章修正ワーク C テーマ分析型小論文 D 自己PR型小論文 ○パラグラフ・ライティングー論理的な文章を書く方法を学ぼうー	【知識・技能】 ①「接続」「意見」の特徴を理解している。②さまざまな小論文の型を理解している。 【思考・判断・表現】 ①与えられたテーマや資料をもとに自分の思い・考えを「主張」として組み立て、「根拠」を明確にしながら、「論理的な構成」の文章にまとめることができる。		7	13・14	○
⑧	第6章 話し合う力をつけよう ファンリレーション(p112～p123)	【知識・技能】 ①丁寧に、公平に、意見・考えを引き出すことができる。②ファンリレーター役を理解している。 【思考・判断・表現】 ①互いの理解と内容を深め合いながら、話し合いを円滑に進めることができる。		8	15・16	○
⑨	表現と読書活動(p128～p137) ○広告・PRの表現ー限られた条件のもとで、最大限のパフォーマンスを追求するー	【知識・技能】 ①読書活動がもたらす効果を理解している。②広告やPR表現の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ①限られた条件のもとで、最大限のパフォーマンスを追求し、表現することができる。		9	17・18	○
⑩	第7章 情報活用力を身につけよう 広報資料(p140～p153) ○報告書の書き方 ○読者への配慮	【知識・技能】 ①適切な情報かどうかを判断する知識・技能を身に付けている。②情報発信における目的を明確にすることができる。 【思考・判断・表現】 ①読者を想定し、読者にとって有用な内容や、理解しやすい表現を行うことができる。②目的達成のために効果的な内容を取り上げることができる。		10	19・20	
⑪	第8章 説得力のある提案をしよう プレゼンテーション(p154～p167) ○提案書の書き方 ○プレゼンテーションの仕方	【知識・技能】 ①何が求めれば、どうすれば、説得力につながるのかを理解している。②わかりやすさや印象強さを生む方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ①相手や目的、場所に応じて機器や身体表現を効果的に使い分けたり、印象的に伝えることができる。②要点を押さえ、簡潔で読みやすい提案書を書くことができる。		11	21・22	
⑫	第9章 表現を楽しもう 創作(p168～p183) ○レトリック	【知識・技能】 ①見たことや感じたこと、考えたことを、言葉を用い、表現技法も取り入れながら、書き出すことができる。②さまざまなジャンルの作品の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ①自分ならではの世界観を創り出し、形にすることができる。②発想の方法を参考に、表現の幅を広げ創作することができる。		12	23・24	
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラスWebサイト(「報告課題サポート」内の「講座課題(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクーリング)】						
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とする。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						



【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
地理歴史		地理総合		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	1	0	1			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	46 帝国	地総703	高等学校 新地理総合			
副教材等	46 帝国	地総702	新詳高等地図			
学習目標						
<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。【知識・技能】</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、満かん養われる日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
第1部 第1章 地図と地理情報システム 第2章 結び付きを深める現代世界 第2部 第1章 生活文化の多様性と国際世界(1～2節)			第2部 第1章 世界文化の多様性と国際世界(5節) 第2章 地球的課題と国際協力			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	前期 後期
①	第1部 第1章 地図と地理情報システム 第2章 結び付きを深める現代世界	【知識・技能】 ①地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①地図や地理情報システムの位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決することができる。	1	1・2	○	
②	第2部 第1章 生活文化の多様性と国際世界 1節 世界地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活	【知識・技能】 ①世界の人の生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解することができる。	2	3・4	○	
③	第2部 第1章 生活文化の多様性と国際世界 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活	【思考・判断・表現】 ①世界の人の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	3	5・6		
④	第2部 第1章 世界文化の多様性と国際世界 5節 世界の産業と人々の生活	【知識・技能】 ①産業の発展が、人々の生活に与えた影響について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①産業のグローバル化について、地域の影響について考察し、表現することができる。	4	7・8	○	
⑤	第2部 第2章 地球的課題と国際協力	【知識・技能】 ①地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	5	9・10	○	
⑥	第3部 第1章 自然環境と災害 第2章 生活圏の調査と地域の展望	【知識・技能】 ①自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	6	11・12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクーリング)】						
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
地理歴史		地理探究		3	9	2
面接指導						
規定回数(1)	メテアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
3	1	0	2			
※規定教科書は、発行者の番号・題名、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・題名または出版社名	教科書の記号・番号	書名		
教科書	帝国書院	地探702	新詳地理探究			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての「読解・能力」を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1)地理に関する諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性・傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)地理に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連性、位置や分布、場所・人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統的・地理的・地誌的、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。【思考力・判断力・表現力】</p> <p>(3)地理に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して誰(か)も棄される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
<p>①p.6-7 地球環境と人間 / p.8-31 地形 / p.32-41 気候</p> <p>②p.42-61 気候 / p.62-67 日本の自然環境 / p.68-79 地球環境問題</p>			<p>⑤p.146-153 交通・通信 / p.154-159 観光 / p.160-165 貿易と経済圏 / p.166-169 人口 / p.170-177 人口問題 / p.178-183 村落と都市</p> <p>⑥p.184-187 村落と都市 / p.188-197 都市・居住問題 / p.198-201 衣食住 / p.202-211 民族・宗教と民族問題 / p.212-220 国家の領域と領土問題</p> <p>⑦p.221-225 地域区分 / p.226-227 地域の考察方法 / p.228-237 中国 / p.238-243 韓国 / p.244-253 ASEAN諸国 / p.254-261 インド</p>			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	p.6-7 地球環境と人間 p.8-31 地形 p.32-41 気候	【知識・技能】 ①地球上の地形や気候・生態系にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①地球上の地形や気候・生態系にはどのような傾向や規則性があり、それらは人々の生活や人間活動にどのような影響を与えているのか、場所や人間と自然との関わりなどに着目して考察することができる。	1	1-2	○	
②	p.42-61 気候 p.62-67 日本の自然環境 p.68-79 地球環境問題	【知識・技能】 ①地球上の気候・生態系にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。また、日本の自然環境について、その特徴を理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①地球上の地形や気候・生態系にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球の課題とどのように関わっているのか、場所や人間と自然との関わりなどに着目して考察することができる。また、日本の自然環境と自然災害の関係について考察することができる。	2	3-4	○	
③	p.80-97 農林水産業 p.98-103 食料問題 p.104-115 エネルギー・鉱山資源	【知識・技能】 ①資源・エネルギーの開発や、農林水産業など産業の発達にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①資源・エネルギーの開発や、農林水産業など産業の発達にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球の課題とどのように関わっているのか、場所や他地域との結びつきなどに着目して考察することができる。	3	5-6		
④	p.116-121 資源・エネルギー問題 p.122-139 工業 p.140-145 第3次産業	【知識・技能】 ①資源・エネルギーの開発や、工業・第3次産業など産業の発達にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①資源・エネルギーの開発や、工業・第3次産業など産業の発達にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球の課題とどのように関わっているのか、場所や他地域との結びつきなどに着目して考察することができる。	4	7-8		
⑤	p.146-153 交通・通信 p.154-159 観光 p.160-165 貿易と経済圏 p.166-169 人口 p.170-177 人口問題 p.178-183 村落と都市	【知識・技能】 ①交通・通信網の整備や観光・貿易の発展、また人口や村落・都市にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①交通・通信網の整備や観光・貿易の発展、また人口・村落・都市にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球の課題とどのように関わっているのか、場所や他地域との結びつきなどに着目して考察することができる。	5	9-10	○	
⑥	p.184-187 村落と都市 p.188-197 都市・居住問題 p.198-201 衣食住 p.202-211 民族・宗教と民族問題 p.212-220 国家の領域と領土問題	【知識・技能】 ①人口や村落・都市、また生活文化や民族・宗教にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①人口や村落・都市、また生活文化や民族・宗教にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球の課題とどのように関わっているのか、場所や他地域との結びつきなどに着目して考察することができる。	6	11-12		
⑦	p.221-225 地域区分 p.226-227 地域の考察方法 p.228-237 中国 p.238-243 韓国 p.244-253 ASEAN諸国 p.254-261 インド	【知識・技能】 ①自然環境・文化・政治・経済などの指標をもとに地域を区分する方法を理解している。中国・韓国・ASEAN諸国・インドについて、自然環境や歴史・生活文化・産業などを項目ごとに整理し理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①世界のさまざまな地域について、位置や分布、地域の特徴などに着目して考察することができる。また、それぞれの地域では、どのような地域的特色や地球の課題がみられ、どのような地域の構造や変化がみられるのか、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目して考察することができる。	7	13-14	○	
⑧	p.262-269 西アジアと中央アジア p.270-279 北アフリカとサハラ以南アフリカ p.278-289 EU諸国 p.290-295 ロシア	【知識・技能】 ①西アジアと中央アジア・北アフリカとサハラ以南アフリカ・EU諸国・ロシアについて、自然環境や歴史・生活文化・産業などを項目ごとに整理し、理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①それぞれの地域では、どのような地域的特色や地球の課題がみられ、どのような地域の構造や変化がみられるのか、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目して考察することができる。	8	15-16		
⑨	p.296-307 アメリカ合衆国 p.308-315 ラテンアメリカ p.316-322 オーストラリアとニュージーランド p.323-327 将来の国土のあり方 p.328-335 持続可能な日本の国土像の探究	【知識・技能】 ①アメリカ合衆国・ラテンアメリカ・オーストラリアとニュージーランドについて、自然環境や歴史・生活文化・産業などを項目ごとに整理し、理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ①それぞれの地域では、どのような地域的特色や地球の課題がみられ、どのような地域の構造や変化がみられるのか、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目して考察することができる。また、これまでの地理学習の集大成として、日本の強みや課題を整理し、持続可能性を踏まえた将来の国土の在り方について、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目して探究することができる。	9	17-18		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクリーニング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						



【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
地理歴史		歴史総合		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	1	0	1			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	81 山川	歴総707	歴史総合 近代から現代へ			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。【知識・技能】</p> <p>(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
第Ⅰ部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界 第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第3章 明治維新と日本の立憲体制 第4章 帝国主義の展開とアジア			第Ⅱ部 第6章 経済危機と第二次世界大戦 第7章 戦後の日本秩序と日本の改革 第Ⅲ部 第8章 冷戦と世界経済			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	前期 後期
①	第Ⅰ部 第1章 結びつく世界 第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	【知識・技能】 ①16～17世紀のヨーロッパの世界進出、特にアジア諸地域との結びつきを理解することができる。 ②18世紀のヨーロッパの再編とアメリカ世界の成立について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ③19世紀の世界諸地域の発展とグローバル化について考察することができる。	1	1・2	○	
②	第Ⅰ部 第3章 明治維新と日本の立憲体制 第4章 帝国主義の展開とアジア	【知識・技能】 ①明治維新と日本の立憲体制について理解することができる。 ②帝国主義における欧米諸国の対立について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ③欧米諸国との関わりの中から、20世紀初頭におけるアジアの変動を考察することができる。	2	3・4	○	
③	第Ⅱ部 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 第6章 経済危機と第二次世界大戦	【知識・技能】 ①第一次世界大戦と戦後世界の情勢について理解することができる。 ②戦間期の動向(軍備制限と平和共存)について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ③1910～20年代の歴史的事項と経済状況から当時の世界の動向を考察することができる。	3	5・6		
④	第Ⅱ部 第6章 経済危機と第二次世界大戦 第7章 戦後の日本秩序と日本の改革	【知識・技能】 ①戦間期の動向(世界恐慌とファシズムの台頭)について理解することができる。 ②第二次世界大戦に至る過程と日本の関わりについて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ③世界恐慌から第二次世界大戦までの歴史的事項から日本を中心とした戦後の動向について考察することができる。	4	7・8	○	
⑤	第Ⅲ部 第8章 冷戦と世界経済	【知識・技能】 ①戦後の欧米諸国の動向とアジア・アフリカの独立と台頭について理解することができる。 ②冷戦構造とその崩壊について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ③冷戦期の世界の動向を踏まえ、日本の経済的発展による繁栄とその影響について考察することができる。	5	9・10	○	
⑥	第三部 第9章 グローバル化する世界 第10章 現代の世界	【知識・技能】 ①冷戦構造の崩壊による新しい国際秩序の形成について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ②現代の課題について世界的視点と日本の視点から考察することができる。	6	11・12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクリーニング)】						
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						



【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
地理歴史		世界史探究		3	9	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる視聴回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
3	1	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名		教科書の記号・番号		書名
教科書	第一学習社	世探707	高等学校 世界史探究			
副教材等	-	-	-			

学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次々と育成することを目指す。

(1)世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。【知識・技能】

(2)世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】

(3)世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

以上を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
<p>①p.22～61 第2編 諸地域の歴史的特質の形成 第2章 古代文明の歴史的特質 / 第3章 諸地域の歴史的特質 第1節～第3節</p> <p>②p.62～85 第2編 諸地域の歴史的特質の形成 第3章 諸地域の歴史的特質 第4節～第6節</p>	<p>③p.124～147 第3編 諸地域の交流・再編 第3章 アジア諸地域とヨーロッパの再編</p> <p>④p.152～181 第4編 諸地域の結合・変容 第2章 世界市場の形成と諸地域の結合</p> <p>⑤p.182～207 第4編 諸地域の結合・変容 第3章 帝国主義とアジオリズムの高揚</p>

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題	Web授業	定期試験範囲	
			回数	回数	前期	後期
①	p.22～61 第2編 諸地域の歴史的特質の形成 第2章 古代文明の歴史的特質 第3章 諸地域の歴史的特質 第1節 西アジアと地中海周辺の諸国家 第2節 仏教の成立とヒンドゥー教 第3節 南アジアと東南アジアの諸国家	<p>【知識・技能】</p> <p>①西アジア文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解している。</p> <p>②西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教の成立などを基に、西アジアと地中海周辺の諸国家の歴史的特質を理解している。</p> <p>③仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家などを基に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>②南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色、東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p>	1	1・2	○	
②	p.62～85 第2編 諸地域の歴史的特質の形成 第3章 諸地域の歴史的特質 第4節 秦・漢と遊牧国家 第5節 唐と近隣諸国の動向 第6節 キリスト教とイスラームを基盤とした国家の形成	<p>【知識・技能】</p> <p>①秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。</p> <p>②キリスト教とイスラームを基盤とした国家の形成などを基に、ヨーロッパと西アジアにおけるキリスト教とイスラームを基盤とした国家の歴史的特質を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>②ヨーロッパと西アジアにおけるキリスト教とイスラームを基盤とした国家の形成の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴を多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p>	2	3・4	○	
③	p.90～109 第3編 諸地域の交流・再編 第2章 結びつくユーラシアと諸地域 第1節 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播 第2節 ヨーロッパ封建社会とその展開 第3節 宋の社会とモンゴル帝国の拡大	<p>【知識・技能】</p> <p>①西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりや構造的に理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p>	3	5・6		

④	<p>p.110～123 第3編 諸地域の交流・再編 第2章 結びつくユーラシアと諸地域 第4節 15～16世紀のアジア海域での交易の興隆 第5節 明と東アジアの動向 第6節 スペインとポルトガルの活動</p>	<p>【知識・技能】 ①アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、諸地域の貿易の発展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ①諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p>	4	7-8	
⑤	<p>p.124～147 第3編 諸地域の交流・再編 第3章 アジア諸地域とヨーロッパの再編</p>	<p>【知識・技能】 ①西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向を基に、アジア諸地域の特質を構造的に理解している。 ②宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想などを基に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ①アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、諸帝国の統治の特徴、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、宗教改革の意義、大西洋沿岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p>	5	9-10	○
⑥	<p>p.152～181 第4編 諸地域の結合・変容 第2章 世界市場の形成と諸地域の結合</p>	<p>【知識・技能】 ①産業革命と環大西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 ②国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ①大西洋沿岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p>	6	11-12	○
⑦	<p>p.182～207 第4編 諸地域の結合・変容 第3章 帝国主義とナショナリズムの高揚</p>	<p>【知識・技能】 ①第2次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。 ②第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ＝ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ①列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p>	7	13-14	○
⑧	<p>p.208～223 第4編 諸地域の結合・変容 第4章 第二次世界大戦と諸地域の変容</p>	<p>【知識・技能】 ①世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ＝ワシントン体制の動揺などを基に、国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。 ②第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序、冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを基に、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ①世界恐慌と国際協調体制の動揺に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②第二次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p>	8	15-16	
⑨	<p>p.228～259 第5編 地球世界の課題 第2章 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 第3章 国際秩序の変容と経済のグローバル化 第4章 科学技術の高度化と知識基盤社会</p>	<p>【知識・技能】 ①アジア・アフリカ諸国の独立と新興独立国の結束、先進国の経済成長と南北問題、集団安全保障と冷戦の展開、平和共存と多極化の進展などを基に、1950～60年代にかけての冷戦の展開と第二次世界大戦後に独立した国々に残された課題などを理解している。 ②アメリカ合衆国の覇権の動揺、資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換、アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南北問題、冷戦終結と地域紛争の頻発、経済のグローバル化などを基に、1970年代以降の世界の政治・経済のあり方の変容を理解している。 ③原子力の利用や宇宙探査などの科学技術、医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理、人工知能と労働のあり方の変容、情報通信技術の発達と知識の普及などを基に、知識基盤社会の展開と課題を理解している。 【思考・判断・表現】 ①1950～60年代にかけての諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、冷戦の展開とその特徴、第三世界台頭の背景やその影響などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②1970年代以降の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、アメリカ合衆国の覇権の動揺の要因、資源ナショナリズムの動きと先進工業国における産業構造の転換の特徴、新興工業地域の経済成長と格差拡大の影響、冷戦終結後の国際情勢などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ③科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、現代の科学技術や文化の歴史的な特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p>	9	17-18	
<b>学習方法</b>					
<p>【添削指導（報告課題）】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴（チェックテストを含む）」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導（スクーリング）】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>					
<b>評価方法</b>					
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」（35％）、「思考・判断・表現」（35％）、「主体的に学習に取り組む態度」（30％）で評価する。					

【2024年度】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
公民		公共		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	1	0	1			
3. 授業科目番号・発行者の番号・題名・教科書(科目番号・発行元)	発行者の番号・題名・教科書(科目番号・発行元)	教科書の記号・番号	書名			
教科書	190・東法	公共・712	公共			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 現代の諸課題を捉え、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる能力を身に付けることができる。【知識・技能】</p> <p>(2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力、合意形成や社会参画を担い入れながら構想したことを議論することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) よりよい社会の実現を担い、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して蓄積される、現代社会に生きる人間としての在り方・生き方についての自覚や、公共的な空間に生きる民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大膽さについての自覚などを深めることができる。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
第1編 公共の扉をひらくために 「公共」の見取り図 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方 第3章 公共的な空間における基本原理と日本国憲法			第2編 よりよい社会の形成に参画するために 「経済」の見取り図 第2章 経済のしくみ 第3章 変化する日本経済 第4章 豊かな生活の実現			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	第1編 公共の扉をひらくために 「公共」の見取り図 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方	<p>【知識・技能】</p> <p>① 自らの体験などを振り返ることを通じて、自らを成長させる人間としての在り方・生き方について理解している。</p> <p>② 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れられたりすることを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。</p> <p>③ 自分自身が、主体的によりよい公共的な空間を作り出していくこととする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。</p> <p>④ 選択・判断の手掛かりとして、行為の前提となる個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の前提となる公正などの義務を重視する考え方について理解している。</p> <p>⑤ 現代の諸課題について自らも他者と共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、上記に示す考え方を活用することを通して、行為者自らの人間としての在り方・生き方について探求することや、よく生きようとしていく上で重要であることについて理解し、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>⑥ 人間としての在り方・生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>② 倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の前提となる公正などの義務を重視する考え方を活用し、自らも他者と共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方・生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	1	1・2	○	
②	第3章 公共的な空間における基本原理と日本国憲法	<p>【知識・技能】</p> <p>① 個人の権利や利益を公平・公正に調整することを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。</p> <p>② 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	2	3・4	○	
③	第2編 よりよい社会の形成に参画するために 「政治」の見取り図 第1章 日本の政治機構と政治参加	<p>【知識・技能】</p> <p>① 法や規範の意義及び役割について、国会・内閣の機能と役割や関係性について、世界の政治体制とそれ以外の政治体制について、裁判所の機能と役割、人権を保障するための仕組みについて、司法参加の意義などに関わる現実社会の事例や課題について理解している。</p> <p>② 地方自治、政治参加と公正な世帯の形成などに関わる現実社会の事例や課題について理解している。</p> <p>③ 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 日本の政治機構と政治参加について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論することができる。</p>	3	5・6		
④	「経済」の見取り図 第2章 経済のしくみ	<p>【知識・技能】</p> <p>① 経済活動と経済主体、市場経済の機能と限界について、現代の企業の在り方と課題について、国民経済全体を捉える国民所得などの指標、景気変動と物価の動きについて、財政及び租税の役割、金融の働きなどに関わる現実社会の事例や課題について理解している。</p> <p>② 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 経済活動に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。</p>	4	7・8	○	
⑤	第3章 変化する日本経済 第4章 豊かな生活の実現	<p>【知識・技能】</p> <p>① 戦後の日本経済の推移、中小企業、農業問題、公害の防止と環境保全、エネルギーと循環型社会などに関わる現実社会の事例や課題について理解している。</p> <p>② 日本経済の諸課題について、政府は法律の制定や政策の実施によって、課題解決に向けてどのような役割を果たしているかを理解している。</p> <p>③ 多様な立場及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事例や課題について理解している。</p> <p>④ 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 日本経済、消費生活、労働問題、社会保障に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。</p>	5	9・10	○	
⑥	「国際」の見取り図 第5章 国際政治のしくみと動向 第6章 国際経済のしくみと動向 第7章 国際社会の現状と課題	<p>【知識・技能】</p> <p>① 国家主権、領土などに関わる現実社会の事例や課題について、人権保障が世界でどのように広がってきたか、国際連合の役割と課題について、第二次世界大戦後の国際社会の動向、冷戦終結後の国際社会の動向について、人権・民権・難民問題について、核兵器の廃絶などの課題、国際平和に向けた世界の取り組みについて、我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事例や課題について理解している。</p> <p>② 復興と国際分業、外需減退のリスクと国際収支について、戦後国際経済の枠組みとその変化について、経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の事例や課題について理解している。</p> <p>③ ETPやUSMCAなどの地域統合の進展、南北問題や新興市場国などの国際関係、地球環境問題をはじめとする地球規模の諸課題、国際貿易を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事例や課題を理解している。</p> <p>④ 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 国際政治、国際経済、国際社会に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。</p>	6	11・12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
1. フラワーWebチャット「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。						
2. 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期間内に提出すること。						
3. 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクーリング)】						
1. 自ら学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とする。						
2. 教師から直接指導を受けた後、他の生徒と議論や協力しながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1. 実用試験						
前期1回、後期に1回実施する。						
2. 出題範囲						
報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】年間指導計画

教 科 等		科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
倫理		倫理		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	1	0	1			
※検定教科書は、発行者の番号・題名・教科書の記号・番号を記載				書 名		
教科書	東京書籍	倫理701	倫理			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関する情報を調べまとめる技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)自立した人間として他者と共によりよく生きる自分の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して蓄積される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「知識及び技能」、「思考・判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の仲度を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
P8～P81 第1編 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 1章 人間の心のあり方 2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ 1節 哲学すること 2節 キリシヤの思想 3節 宗教と社会 4節 キリスト教 5節 イスラーム 6節 仏教 7節 中国の思想 8節 芸術			P121～P198 3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ 6節 人間観・言語観の問いなおし 7節 他者・自然とのかかわり 4章 国際社会に生きる日本人としての自覚 1節 日本人の精神風土 2節 仏教と日本人の思想形成 3節 儒教と日本人の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本人の近代化			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	前期 後期
①	P8～P42 第1編 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 1章 人間の心のあり方 2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ 1節 哲学すること 2節 キリシヤの思想	【知識・技能】 ①個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自分の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方について理解することができる。 ②幸福、愛、徳などに着目して、人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観について理解することができる。その際、人生における宗教や芸術のもつ意義についても理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。	1	1・2	○	
②	P43～P81 3節 宗教と社会 4節 キリスト教 5節 イスラーム 6節 仏教 7節 中国の思想 8節 芸術	【知識・技能】 ①善、正義、義務などに着目して、社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観について理解することができる。 ②真理、存在などに着目して、世界と人間の在り方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。	2	3・4	○	
③	P82～P120 3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ 1節 近代と人間観の精神 2節 近代思想の展開 3節 人格の尊厳と人倫の思想 4節 社会変革の思想 5節 理性への疑念	【知識・技能】 ①古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、人間としての在り方生き方に関する情報を読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。	3	5・6		
④	P121～P156 6節 人間観・言語観の問いなおし 7節 他者・自然とのかかわり 4章 国際社会に生きる日本人としての自覚 1節 日本人の精神風土	【知識・技能】 ①古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解することができる。 ②古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関する情報を読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。	4	7・8	○	
⑤	P157～P198 2節 仏教と日本人の思想形成 3節 儒教と日本人の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本人の近代化	【知識・技能】 ①古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解することができる。 ②古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関する情報を読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。	5	9・10	○	
⑥	P199～P235 7節 国際社会に生きる日本人の自覚 第2編 現代の諸課題と倫理	【知識・技能】 ①古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解することができる。 ②古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関する情報を読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。	6	11・12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラウドWebシステム(「報告課題サポート」内の「課題視聴(チェックテストを含む)」)の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクーリング)】						
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
政治・経済		政治・経済		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	1	0	1			
※規定教科書は、発行者の番号・題名、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・題名または出版社名	教科書の記号・番号	書名		
教科書	東京書籍	政経701	政治・経済			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究し解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)社会の在り方に關する現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手段となり得る概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を身に付けている。【思考・判断・表現力】</p> <p>(3)よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深めている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
P4～P79 第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原則 2節 日本国憲法の基本原則 3節 日本の政治機構			P119～P203 第2章 現代日本の経済 3節 日本経済の発展と現状 第3章 現代日本の諸課題 第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲前期	定期試験範囲後期
①	P4～P47 第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原則 2節 日本国憲法の基本原則	【知識・技能】 ①政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。	1	1・2	○	
②	P48～P79 3節 日本の政治機構 4節 現代政治の特質と課題	【知識・技能】 ①政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 ②現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。	2	3・4	○	
③	P80～P118 第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済 2節 現代経済のしくみ	【知識・技能】 ①経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①経済活動の福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。	3	5・6		
④	P119～P155 3節 日本経済の発展と現状 4節 福祉社会と日本経済の課題	【知識・技能】 ①経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 ②現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。	4	7・8	○	
⑤	P156～P203 第3章 現代日本の諸課題 第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治	【知識・技能】 ①国際社会の変遷、人権、国家主権、領土(領海、領空を含む。)などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。	5	9・10	○	
⑥	P204～P254 第2章 現代の国際経済 第3章 国際社会の諸課題	【知識・技能】 ①貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協定の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 ②現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。	6	11・12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクーリング)】						
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技術を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【2024年度】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
数学		数学 I		3	9	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
3	1	0	2			
<small>※規定教科書は、発行者の番号・期号、教科書の記号・番号を記載</small>		<small>発行者の番号・期号または出版社名</small>		<small>教科書の記号・番号</small>		
教科書	東京書籍	702	数学 I Standard			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表し、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)数学のよさを認識し、数学を活用しようとするとともに、粘り強く考え数学的論理に基づいて判断しようとし、問題解決の過程を振り返り、考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
1章 数と式 1節 式の計算 2節 実数 3節 1次不等式			3章 2次関数 2節 2次方程式と2次不等式 4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 2節 三角比の拡張			
【添削指導(報告課題)】						
学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
① 1章 数と式 1節 式の計算	【知識・技能】 ①二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。		1	1・2	○	
② 1章 数と式 2節 実数 3節 1次不等式	【知識・技能】 ①数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすることができる。 ②不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察することができる。 ②日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用することができる。		2	3・4	○	
③ 2章 集合と論証 1節 集合 2節 命題と論証	【知識・技能】 ①集合と命題に関する基本的な概念を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。		3	5・6		
④ 3章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ	【知識・技能】 ①二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 ②二次関数の最大値や最小値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。		4	7・8		
⑤ 3章 2次関数 2節 2次方程式と2次不等式	【知識・技能】 ①二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解することができる。また、二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。		5	9・10	○	
⑥ 4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比	【知識・技能】 ①鋭角の三角比の意味と相互関係について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。		6	11・12	○	
⑦ 4章 図形と計量 2節 三角比の拡張	【知識・技能】 ①三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。		7	13・14	○	
⑧ 4章 図形と計量 3節 三角形の応用	【知識・技能】 ①正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。		8	15・16		
⑨ 5章 データの分析 1節 データの分析 2節 データの分析の応用 3節 仮説検定	【知識・技能】 ①分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解することができる。 ②コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 ③具体的な事象において仮説検定の考え方を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 ②目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 ③不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。		9	17・18		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。						
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。						
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクリーニング)】						
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。						
2 教員から面接指導を受けた後、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。						
2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						



【2024年度】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
数学		数学Ⅱ		4	12	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数	(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0		2		
授業科目名・発行者の名称・版数、教科書の区分・巻号を記載	発行者の名称・区分・形式・出版年	教科書の記号・巻号	書名			
教科書	東京書籍	数Ⅱ702	数学Ⅱ Standard			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1)いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び積分・微分の考え方についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したとき、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする態度を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)数の範囲・性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明確・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って総合的・定量的に考察したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論議に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
P8～P67 1章 方程式・式と証明 1節 多項式・分数式の計算 3節 高次方程式			P118～P176 3章 三角関数 1節 三角関数 2節 加法定理 4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数			
【添削指導(報告課題)】						
学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期	
① P10～P23 1章 方程式・式と証明 1節 多項式・分数式の計算	【知識・技能】 ①三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 ②多項式の加法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算をすることができる。 【思考・判断・表現】 ①式の計算の方法を自ら学習した数や式の計算と関連付けながら考察することができる。	1	1-2	○		
② P24～P39 1章 方程式・式の証明 2節 2次方程式	【知識・技能】 ①数や乗数まで拡張する意義を理解し、乗数の四則計算をすることができる。 ②二次方程式の解の判別及び解と係数の関係について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。	2	3-4	○		
③ P40～P62 1章 方程式・式の証明 3節 高次方程式 4節 式と証明	【知識・技能】 ①因式分解について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①数式の性質や式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。	3	5-6	○		
④ P70～P89 2章 図形と方程式 1節 点と直線	【知識・技能】 ①直線を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表すことができる。 【思考・判断・表現】 ①座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。	4	7-8			
⑤ P90～P102 2章 図形と方程式 2節 円	【知識・技能】 ①座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。 【思考・判断・表現】 ①平面上の円を、2次方程式を用いて表現し、円と直線の位置関係について考察することができる。	5	9-10			
⑥ P103～P113 2章 図形と方程式 3節 軌跡と領域	【知識・技能】 ①軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。 ②簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。 【思考・判断・表現】 ①数量と図形との関係などに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報技術を用いて軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	6	11-12			
⑦ P120～P144 3章 三角関数 1節 三角関数	【知識・技能】 ①角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解することができる。 ②三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 ③三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。	7	13-14	○		
⑧ P145～P155 3章 三角関数 2節 加法定理	【知識・技能】 ①三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。 ②二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	8	15-16			
⑨ P162～P176 4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数	【知識・技能】 ①指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 ②指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①(ア)指数と対数を相互に関連付けて考察すること。 (イ)指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察すること。 (ウ)二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	9	17-18	○		
⑩ P177～P192 4章 指数関数・対数関数 2節 対数関数	【知識・技能】 ①対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができる。 ②対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 ②二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	10	19-20			
⑪ P200～P226 5章 微分と積分 1節 微分の考え	【知識・技能】 ①微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 ②導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①関数とその導関数の関係について考察することができる。 ②関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	11	21-22			
⑫ P227～P247 5章 微分と積分 2節 積分の考え	【知識・技能】 ①不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察すること。	12	23-24			
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラウドWebキャンパス「報告課題レポート」内の「課題視聴(チェックテストを含む)」の学習を続けること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組む。期間内に提出すること。</p> <p>3 名前の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解決に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とする。</p> <p>2 教員から直接指導を受けた後、他の生徒と議論や協力しながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実時間 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【2024年度】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
数学		数学Ⅲ		3	9	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
3	1	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版者名	教科書の記号・番号	書名		
教科書	東京書籍	数Ⅲ702	数学Ⅲ Standard			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 【知識・技能】</p> <p>(2) 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論議に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
1章 関数と極限 1節 関数 2節 数列の極限 3節 関数の極限			3章 微分的应用 1節 関数の増減 2節 微分のいろいろな応用 4章 積分とその応用 1節 不定積分			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	1章 関数と極限 1節 関数 2節 数列の極限	【知識・技能】 ①数列の極限について理解し、数列 $\{r^n\}$ の極限などを基に簡単な数列の極限を求めることができる。 ②無限級数の収束、発散について理解し、無限等比級数などの簡単な無限級数の和を求めることができる。 ③簡単な分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 ④合成関数や逆関数の意味を理解し、簡単な場合についてそれらを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察することができる。		1	1・2	○
②	1章 関数と極限 3節 関数の極限	【知識・技能】 ①関数の値の極限について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①既に学習した関数の性質と関連付けて、簡単な分数関数と無理関数のグラフの特徴を多面的に考察することができる。		2	3・4	○
③	2章 微分 1節 微分法	【知識・技能】 ①微分可能性、関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求めることができる。 ②念関数の導関数について理解し、それを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①導関数の定義に基づき、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を考察することができる。		3	5・6	
④	2章 微分 2節 いろいろな関数の導関数	【知識・技能】 ①三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解し、それらを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①関数の連続性と微分可能性、関数とその導関数や二次導関数の関係について考察することができる。		4	7・8	
⑤	3章 微分的应用 1節 関数の増減	【知識・技能】 ①導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をいかたりすることができる。 【思考・判断・表現】 ①いろいろな関数の値の増減を調べ、極大・極小、グラフの凹凸の関係を考察することができる。		5	9・10	○
⑥	3章 微分的应用 2節 微分のいろいろな応用	【知識・技能】 ①導関数を用いて、関数の最大値、最小値を求めたりすることができる。 ②微分法を用いて、不等式の証明、方程式の実数解の個数、速度や加速度、近似値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。		6	11・12	○
⑦	4章 積分とその応用 1節 不定積分	【知識・技能】 ①不定積分及び定積分の基本的な性質についての理解を深め、それらを用いて不定積分や定積分を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①関数の式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりして、いろいろな関数の不定積分や定積分を求める方法について考察することができる。		7	13・14	○
⑧	4章 積分とその応用 2節 定積分	【知識・技能】 ①置換積分法及び部分積分法について理解し、簡単な場合について、それらを用いて不定積分や定積分を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①極限や定積分の考えを基に、立体の体積や曲線の長さなどを求める方法について考察することができる。		8	15・16	
⑨	4章 積分とその応用 3節 面積・体積・長さ	【知識・技能】 ①定積分を利用して、いろいろな曲線で囲まれた図形的面積や立体の体積及び曲線の長さなどを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①微分と積分との関係に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。		9	17・18	
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラークWebチャット(「報告課題サポート」内の「講座視聴(テキストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
数学		数学A		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	1	0	1			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	東京書籍	702	数学A Standard			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとするとともに、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
1章 場合の数と確率 1節 集合と場合の数 2節 確率とその基本性質			2章 図形の性質 1節 三角形と比 2節 円の性質 3節 空間図形			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	1章 場合の数と確率 1節 集合と場合の数	<p>【知識・技能】</p> <p>①集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解することができる。</p> <p>②具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。</p>	1	1・2	○	
②	1章 場合の数と確率 2節 確率とその基本性質	<p>【知識・技能】</p> <p>①確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。</p>	2	3・4	○	
③	1章 場合の数と確率 3節 いろいろな確率	<p>【知識・技能】</p> <p>①独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。</p> <p>②条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。</p>	3	5・6		
④	2章 図形の性質 1節 三角形と比	<p>【知識・技能】</p> <p>①三角形に関する基本的な性質について理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。</p>	4	7・8		○
⑤	2章 図形の性質 2節 円の性質 3節 空間図形	<p>【知識・技能】</p> <p>①円に関する基本的な性質について理解することができる。</p> <p>②空間図形に関する基本的な性質について理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。</p>	5	9・10		○
⑥	3章 数学と人間の活動 1節 数える 2節 はかる 3節 遊ぶ	<p>【知識・技能】</p> <p>①数量や図形に関する概念など人間の活動との関わりについて理解することができる。</p> <p>②数学的な話題、数理的なゲームやパズルなどを通して、数学と文化との関わりについての理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。</p> <p>②パズルなどに数学的な要素を見いだし、目的に応じて数学を活用して考察することができる。</p>	6	11・12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		
数学		数学B		
		単位数	報告課題回数	定期試験回数
		2	6	2
面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
2	1	0	1	
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名
教科書	東京書籍	数B702	数学B Standard	
副教材等	-	-	-	

学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。【知識・技能】
  - (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】
  - (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
- 以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。

定期試験範囲

一学期末試験

学年末試験

P8～P57 1章 数列 1節 数列 3節 漸化式と数学的帰納法	2節 いろいろな数列	P82～P130 2章 統計的な推測 3節 正規分布 3章 数学と社会生活 1節 数学的モデル化 3節 確率モデル	4節 統計的な推測 2節 関数モデル
-------------------------------------------	------------	--------------------------------------------------------------------------	-----------------------

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
					前期	後期
①	P10～P40 1章 数列 1節 数列 2節 いろいろな数列	【知識・技能】 ①等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 ②いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。 ②事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。	1	1・2	○	
②	P42～P55 1章 数列 3節 漸化式と数学的帰納法	【知識・技能】 ①漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。 ②数学的帰納法について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。	2	3・4	○	
③	P60～P81 2章 統計的な推測 1節 標本調査 2節 確率分布	【知識・技能】 ①標本調査の考え方について理解を深めることができる。 ②確率変数と確率分布について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。	3	5・6		
④	P82～P109 2章 統計的な推測 3節 正規分布 4節 統計的な推測	【知識・技能】 ①二項分布と正規分布の性質や特徴について理解することができる。 ②正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。	4	7・8	○	
⑤	P114～P130 3章 数学と社会生活 1節 数学的モデル化 2節 関数モデル 3節 確率モデル	【知識・技能】 ①社会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①日常の事象や社会の事象において、数・量・形やそれらの関係に着目し、理想化したり単純化したりして、問題を数学的に表現することができる。 ②数学化した問題の特徴を見だし、解決することができる。	5	9・10	○	
⑥	P131～P140 3章 数学と社会生活 4節 幾何モデル 5節 フェルミ推定	【知識・技能】 ①日常の事象や社会の事象などを数学化し、数理的に問題を解決する方法を知ることができる。 【思考・判断・表現】 ①問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察することができる。 ②解決過程を振り返り、そこで用いた方法を一般化して、他の事象に活用することができる。	6	11・12		

学習方法

【添削指導(報告課題)】

- 1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
- 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
- 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。

【面接指導(スクリーニング)】

- 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
- 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

【定期試験】

- 1 実施回数  
前期に1回、後期に1回実施する。
- 2 出題範囲  
報告課題の内容を中心とする。

評価方法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
数学		数学C		2	6	2	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	1	0	1				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名		教科書の記号・番号			書名
教科書	東京書籍	数C702	数学C Standard				
副教材等	-	-	-				
学習目標							
<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル 2節 ベクトルの応用			2章 平面上の曲線 1節 2次曲線 3章 複素数平面 1節 複素数平面 2節 媒介変数表示と極座標 2節 図形への応用				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル	【知識・技能】 ①平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。		1	1・2	○	
②	1章 ベクトル 2節 ベクトルの応用	【知識・技能】 ①ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。		2	3・4	○	
③	1章 ベクトル 3節 空間におけるベクトル	【知識・技能】 ①座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用することができる。		3	5・6		
④	2章 平面上の曲線 1節 2次曲線 2節 媒介変数表示と極座標	【知識・技能】 ①放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解することができる。 ②曲線の媒介変数表示について理解することができる。 ③極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることについて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察することができる。		4	7・8	○	
⑤	3章 複素数平面 1節 複素数平面 2節 図形への応用	【知識・技能】 ①複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解することができる。 ②ド・モアブルの定理について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①複素数平面における図形の移動などと関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察することができる。		5	9・10	○	
⑥	4章 数学的な表現の工夫 1節 統計グラフに表す 2節 行列に表す 3節 離散グラフに表す	【知識・技能】 ①日常の事象や社会の事象などを、図、表、統計グラフなどを用いて工夫して表現することの意義を理解することができる。 ②日常の事象や社会の事象などを、離散グラフや行列を用いて工夫して表現することの意義を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①図、表、統計グラフ、離散グラフ及び行列などを用いて、日常の事象や社会の事象などを数学的に表現し、考察することができる。		6	11・12		
学習方法							
【添削指導(報告課題)】							
<p>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>							
【面接指導(スクーリング)】							
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>							
【定期試験】							
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>							
評価方法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2024年度 】 年間指導計画

教 科 等		科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科		科学と人間生活		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
8	4	0	4			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名		教科書の記号・番号		書 名
教科書		104・数研		科人・704		科学と人間生活
副教材等		-		-		-
学習目標						
<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1)自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究しようとしている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとするともに、科学に対する興味・関心を高めている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験				学年末試験		
序編 科学技術の発展 第1編 物質の科学				第3編 光や熱の科学 第4編 宇宙や地球の科学		
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	序編 科学技術の発展	【知識・技能】 ①科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現することができる。		1	1・2	○
②	第1編 物質の科学	【知識・技能】 ①身近な材料に関する観察、実験などをおこない、金属やプラスチックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解している。 ②衣料と食品に関する観察、実験などを行い、身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について、日常生活と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①物質の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。		2	3・4	○
③	第2編 生命の科学	【知識・技能】 ①ヒトの生命現象に関する観察、実験などを行い、ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて理解している。 ②微生物に関する観察、実験などを行い、微生物の働きを人間生活と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①生命の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。		3	5・6	
④	第3編 光や熱の科学	【知識・技能】 ①光に関する観察、実験などを行い、光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解することができる。 ②熱に関する観察、実験などを行い、熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について、日常生活と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①光や熱の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。		4	7・8	○
⑤	第4編 宇宙や地球の科学	【知識・技能】 ①天体に関する観察、実験などを行い、太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて、人間生活と関連付けて理解することができる。 ②自然景観と自然災害に関する観察、実験などを行い、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①宇宙や地球の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。		5	9・10	○
⑥	終編 これからの科学と人間生活 資料編 将来×サイエンス Newspaper 未来をひらくSCIENCE	【知識・技能】 ①これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深めている。 【思考・判断・表現】 ①これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察し表現することができる。		6	11・12	
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクーリング)】						
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】 年間指導計画

教 科 等		科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
理科		物理基礎		2	6	2	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
8	4	0	4				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書 名				
教科書	183・第一	物基・709	高等学校 物理基礎				
副教材等	-	-	-				
学習目標							
<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究しようとしている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
第Ⅰ章 第1節 物体の運動 第2節 力と運動の法則			第Ⅱ章 熱とエネルギー 第Ⅲ章 第1節 波の性質 第2節 音波				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第Ⅰ章 第1節 物体の運動 (教科書p.12~49)	<p>【知識・技能】</p> <p>①身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法を身に付けている。</p> <p>②物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①速度が変化する物体の直線運動に関する実験などを行い、速度と時間との関係を見いだして理解するとともに、物体が直線運動する場合の加速度を表現することができる。</p>			1	1・2	○
②	第Ⅰ章 第2節 力と運動の法則 (教科書p.50~87)	<p>【知識・技能】</p> <p>①物体に様々な力が働くことを理解することができる。</p> <p>②物体に働く力のつり合いを理解することができる。</p> <p>③物体が落下する際の運動の特徴及び物体に働く力と運動との関係について理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①物体に一定の力を加え続けたときの運動に関する実験などを行い、物体の質量、物体に働く力、物体に生じる加速度の関係を見いだして理解するとともに、運動の三法則を表現することができる。</p>			2	3・4	○
③	第Ⅰ章 第3節 仕事と力学的エネルギー (教科書p.88~113)	<p>【知識・技能】</p> <p>①運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①力学的エネルギーに関する実験などを行い、力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて表現することができる。</p>			3	5・6	
④	第Ⅱ章 熱とエネルギー (教科書p.116~135)	<p>【知識・技能】</p> <p>①熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①熱に関する実験などを行い、熱の移動及び熱と仕事の交換について表現することができる。</p>			4	7・8	○
⑤	第Ⅲ章 第1節 波の性質 第2節 音波 (教科書p.138~191)	<p>【知識・技能】</p> <p>①波の性質について、直線状に伝わる場合を理解することができる。</p> <p>②弦の振動、音波の性質を理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①気柱の共鳴に関する実験などを行い、気柱の共鳴と音源の振動数を関連付けて表現することができる。</p>			5	9・10	○
⑥	第Ⅳ章 第1節 静電気と電流 第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用 (教科書p.194~241)	<p>【知識・技能】</p> <p>①物質によって抵抗率が異なることを理解することができる。</p> <p>②発電、送電及び電気の利用について、基本的な仕組みを理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①電気抵抗に関する実験などを行い、同じ物質からなる導体でも長さや断面積によって電気抵抗が異なることを見いだして表現することができる。</p>			6	11・12	
学 習 方 法							
【添削指導(報告課題)】							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</li> <li>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</li> <li>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</li> </ol>							
【面接指導(スクーリング)】							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</li> <li>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</li> </ol>							
【定期試験】							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</li> <li>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</li> </ol>							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
理科		物理		4	12	2	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
16	9	0	7				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書名				
教科書	東京書籍	物理701	物理				
副教材等	-	-	-				
学習目標							
<p>物理的な事象・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。【知識・技能】</p> <p>(2) 実験、観察などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
①1編 さまざまな運動 1章 平面内の運動・2章 剛体のつり合い(P8～P42) ②1編 さまざまな運動 3章 運動量・4章 円運動(P43～P84) ③1編 さまざまな運動 5章 単振動・6章 万有引力(P85～P120)				⑦3編 電気と磁気 1章 電場と電位(P231～P274) ⑧3編 電気と磁気 2章 電流(P275～P302) ⑨3編 電気と磁気 3章 電流と磁場(P303～P326)			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲		
					前期	後期	
①	1編 さまざまな運動 1章 平面内の運動・2章 剛体のつり合い (P8～P42)	【知識・技能】 ①速度と加速度の関係について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②水平投射及び斜方投射された物体の運動を直線運動と関連付けて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①大きさのある物体のつり合いに関する実験を通して探究し、剛体のつり合い条件について理解し、規則性や関係性を見いだして表現できる。	1	1・2	○		
②	1編 さまざまな運動 3章 運動量・4章 円運動 (P43～P84)	【知識・技能】 ①運動量と力積の関係について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②円運動をする物体に働く力などについて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①物体の衝突や分裂に関する実験を通して探究し、運動量保存の法則を理解し、規則性や関係性を見いだして表現できる。	2	3・4	○		
③	1編 さまざまな運動 5章 単振動・6章 万有引力 (P85～P120)	【知識・技能】 ①単振動に働く力を理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②万有引力の法則及び万有引力による物体の運動について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①振り子に関する実験を通して探究し、単振動の規則性を見いだして理解するとともに、単振動をする物体の様子を表現できる。 ②惑星の観測に基づいて、惑星の運動に関する法則を理解し、それを説明することができる。	3	5・6	○		
④	1編 さまざまな運動 7章 気体分子の運動 (P121～P158)	【知識・技能】 ①気体分子の運動と圧力との関係について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②気体の内部エネルギーについて、気体分子の運動と関連付けて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①気体の状態変化に関する実験などを通して探究し、熱、仕事及び内部エネルギーの関係を理解し、気体の状態変化における規則性や関係性を見いだして表現できる。	4	7・8			
⑤	2編 波 1章 波の伝わり方・2章 音 (P159～P188)	【知識・技能】 ①波の伝わり方・波の干渉と回折について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②音の干渉と回折・ドップラー効果について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①波の表し方について理解し、横波、縦波の波の伝わり方を表現できる。	5	9・10			
⑥	2編 波 3章 光 (P189～P230)	【知識・技能】 ①光の伝わり方・回折と干渉について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①光の回折と干渉に関する実験を通して探究し、光の回折と干渉を光波の性質と関連付けて理解し、規則性や関係性を見いだして表現できる。	6	11・12			



⑦	3編 電気と磁気 1章 電場と電位 (P231~P274)	【知識・技能】 ①電荷が相互に及ぼしあう力について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②電界と電位との関係を静電気による位置エネルギーと関連付けて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ③コンデンサーの性質を踏まえて、電気容量を電界や電位差と関連付けて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①電荷が相互に及ぼしあう力を理解し、様々な状態の電界を表現できる。	7	13・14	○
⑧	3編 電気と磁気 2章 電流 (P275~P302)	【知識・技能】 ①直列回路における電流・電圧・抵抗の関係を理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②並列回路における電流・電圧・抵抗の関係を理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①電気回路に関する実験を通して探究し、電気回路における規則性や関係性を見いだして表現できる。	8	15・16	○
⑨	3編 電気と磁気 3章 電流と磁場 (P303~P326)	【知識・技能】 ①電流がつくる磁界の様子を理解することができる。 ②電流が磁界から受ける力について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①電流が磁界から受ける力に関する実験を通して探究し、電流・磁界・力の関係性を見いだして表現できる。	9	17・18	○
⑩	3編 電気と磁気 4章 電磁誘導と電磁波 (P327~P372)	【知識・技能】 ①電磁誘導の性質について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②電磁波の性質とその利用について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①電磁誘導に関する実験を通して探究し、磁束の変化と誘導起電力の向きや大きさとの関係を見いだして表現できる。	10	19・20	
⑪	4編 原子 1章 電子と光 (P373~P394)	【知識・技能】 ①電子の電荷と質量について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②電子や光の粒子性と波動性について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①電子や光の粒子性に関する実験を通して探究し、電子の粒子性に関する規則性や関係性を見いだして表現できる。	11	21・22	
⑫	4編 原子 2章 原子と原子核 終章 (P395~P457)	【知識・技能】 ①原子の構造及びスペクトルと電子のエネルギー準位について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②原子核の構成、原子核の崩壊及び核反応について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ③素粒子の存在について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①原子核の崩壊及び核反応の発展性について探究し、エネルギー問題について考え、その結果を表現することができる。	12	23・24	

#### 学習方法

##### 【添削指導(報告課題)】

- 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
- 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
- 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。

##### 【面接指導(スクーリング)】

- 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
- 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

##### 【定期試験】

- 1 実施回数  
前期に1回、後期に1回実施する。
- 2 出題範囲  
報告課題の内容を中心とする。

#### 評価方法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科		化学基礎		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
8	4	0	4			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	183・第一	化基・711	高等学校 化学基礎			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究しようとしている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 第2節 原子の構造と元素の周期表			第2章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式 第2節 酸と塩基の反応			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素	<p>【知識・技能】</p> <p>①粒子の熱運動と温度との関係、粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①化学と人間生活との関わりについての観察、実験などを通して、物質を対象とする科学である化学の特徴について理解するとともに、実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付けている。</p>		1	1・2	○
②	第1章 物質の構成 第2節 原子の構造と元素の周期表	<p>【知識・技能】</p> <p>①原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解することができる。</p>		2	3・4	○
③	第1章 物質の構成 第3節 物質と化学結合	<p>【知識・技能】</p> <p>①イオンの生成を電子配置と関連付けて理解するとともに、イオン結合及び共価結合でできた物質の性質を理解している。</p> <p>②共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解することができる。</p> <p>③金属の性質及び金属結合を理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①物質の構成について、観察、実験などを通して探究し、物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現することができる。</p>		3	5・6	
④	第2章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式	<p>【知識・技能】</p> <p>①物質量と化学反応式、化学反応について、物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解することができる。</p> <p>②化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①物質の変化とその利用について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現することができる。</p>		4	7・8	○
⑤	第2章 物質の変化 第2節 酸と塩基の反応	<p>【知識・技能】</p> <p>①酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①物質の変化とその利用について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現することができる。</p>		5	9・10	○
⑥	第2章 物質の変化 第3節 酸化還元反応	<p>【知識・技能】</p> <p>①酸化と還元が電子の授受によることを理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①物質の変化とその利用について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現することができる。</p>		6	11・12	
学習方法						
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <p>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p> <p>【定期試験】</p> <p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【2024年度】年間指導計画

教科等		科目				
理科	化学			単位数	報告課題回数	定期試験回数
				4	12	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
16	9	0	7			
教科書		書名				
第一学習社	化学708	高等学校 化学				
学習目標						
<p>化学的な事象・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技術を身に付けることができる。【知識・技能】</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)化学的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
①第1章 物質の状態 第1節 物質の状態変化(P6～P19)／第2節 気体の性質(P20～P37) ②第1章 物質の状態 第3節 固体の構造(P38～P53)／第4節 溶液の性質(P54～P83) ③第2章 物質の変化と平衡 第1節 化学反応と熱・光(P86～P109)			⑦第3章 無機物質 第1節 周期表と元素の性質(P194～P199)／第2節 非金属元素(P200～P219) ⑧第3章 無機物質 第3節 典型金属元素(P220～P233)／第4節 遷移元素(P234～P259) ⑨第4章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴(P262～P271)／第2節 脂肪族炭化水素(P272～P289)			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲前期	定期試験範囲後期
①	第1章 物質の状態 第1節 物質の状態変化(P6～P19) 第2節 気体の性質(P20～P37)	【知識・技能】 ①物質の高気圧、臨界点を分子間力や化学結合と関連付けて理解している。また、状態変化に伴うエネルギーの出入り及び状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解している。 ②気体の体積と圧力や温度との関係を理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の状態について、観察、実験などを通して探究し、物質の状態とその変化における規則性や関係性を見いだして表現できる。	1	1・2	○	
②	第1章 物質の状態 第3節 固体の構造(P38～P53) 第4節 溶液の性質(P54～P83)	【知識・技能】 ①結晶格子の概念及び結晶の構造を理解している。 ②溶解の仕組みを理解している。また、溶解度を溶解平衡と関連付けて理解している。 ③溶液とその性質に関する実験などを行い、身近な現象を通して溶媒と溶液の性質の違いを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①物質の状態と平衡について、観察、実験などを通して探究し、物質の状態とその変化、溶液と平衡における規則性や関係性を見いだして表現できる。	2	3・4	○	
③	第2章 物質の変化と平衡 第1節 化学反応と熱・光(P86～P109)	【知識・技能】 ①化学反応と熱や光に関する実験などを行い、化学反応における熱及び光の発生や吸収は、反応前後における物質の持つ化学エネルギーの差からまいることを理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化について、観察、実験などを通して探究し、化学反応とエネルギーにおける規則性や関係性を見いだして表現できる。	3	5・6	○	
④	第2章 物質の変化と平衡 第2節 電池・電気分解(P110～P129)	【知識・技能】 ①電気エネルギーを取り出す電池の仕組みを酸化還元反応と関連付けて理解している。 ②外部から加えた電気エネルギーによって電気分解が起こることを、酸化還元反応と関連付けて理解している。また、その反応に関与した物質の変化量と電気量との関係を理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化について、観察、実験などを通して探究し、化学反応とエネルギーにおける規則性や関係性を見いだして表現できる。	4	7・8		
⑤	第2章 物質の変化と平衡 第3節 化学反応の速さ(P130～P147) 第4節 化学平衡(P148～P165)	【知識・技能】 ①反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解している。 ②可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化と平衡について、観察、実験などを通して探究し、化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見いだして表現できる。	5	9・10		
⑥	第2章 物質の変化と平衡 第5節 電離平衡(P166～P191)	【知識・技能】 ①水のイオン積、pH及び弱酸や弱塩基の電離平衡について理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化と平衡について、観察、実験などを通して探究し、化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見いだして表現できる。	6	11・12		
⑦	第3章 無機物質 第1節 周期表と元素の性質(P194～P199) 第2節 非金属元素(P200～P219)	【知識・技能】 ①典型元素に関する実験などを行い、典型元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①無機物質について、観察、実験などを通して探究し、典型元素の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。	7	13・14	○	
⑧	第3章 無機物質 第3節 典型金属元素(P220～P233) 第4節 遷移元素(P234～P259)	【知識・技能】 ①典型元素に関する実験などを行い、典型元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解することができる。 ②遷移元素の単体と化合物の性質を理解している。 【思考・判断・表現】 ①無機物質について、観察、実験などを通して探究し、典型元素、遷移元素の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。	8	15・16	○	
⑨	第4章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴(P262～P271) 第2節 脂肪族炭化水素(P272～P289)	【知識・技能】 ①脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①有機化合物について、観察、実験などを通して探究し、有機化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。	9	17・18	○	
⑩	第4章 有機化合物 第3節 酸素を含む脂肪族化合物(P290～P315) 第4節 芳香族化合物(P316～P343)	【知識・技能】 ①官能基をもつ脂肪族化合物に関する実験などを行い、その構造、性質及び反応について理解することができる。 ②芳香族化合物の構造、性質及び反応について理解している。 【思考・判断・表現】 ①有機化合物について、観察、実験などを通して探究し、有機化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。	10	19・20		
⑪	第5章 高分子化合物 第1節 高分子化合物(P346～P347) 第2節 天然高分子化合物(P348～P383)	【知識・技能】 ①天然高分子化合物の構造や性質について理解している。 【思考・判断・表現】 ①高分子化合物について、観察、実験などを通して探究し、高分子化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。	11	21・22		
⑫	第5章 高分子化合物 第3節 合成高分子化合物(P384～P405)	【知識・技能】 ①合成高分子化合物の構造、性質及び合成について理解している。 【思考・判断・表現】 ①高分子化合物について、観察、実験などを通して探究し、高分子化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。	12	23・24		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】 1 クラウドWebシステム「報告課題レポート」内の「課題視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とする。						
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力しながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。						
2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
理科		生物基礎		2	6	2	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
8	4	0	4				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名				
教科書	183・第一	生基・710	高等学校 生物基礎				
副教材等	-	-	-				
学習目標							
<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究しようとしている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとするとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上(1)から(3)を踏まえ、生徒の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指す。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
顕微鏡観察(教科書p.14~17) 第1編第1章(教科書p.18~53) 第1編第2章(教科書p.54~91)			第2編第3章第2節(p.116~141) 第3編第4章(p.142~183)				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期   後期
①	顕微鏡観察(教科書p.14~17) 第1編第1章(教科書p.18~53)	<p>【知識・技能】</p> <p>①様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解するとともに、生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解することができる。</p> <p>②生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解するとともに、光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現することができる。</p>			1	1・2	○
②	第1編第2章(教科書p.54~91)	<p>【知識・技能】</p> <p>①DNAの構造に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を見いだして理解するとともに、塩基の相補性とDNAの複製を関連付けて理解することができる。</p> <p>②遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだして理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現することができる。</p>			2	3・4	○
③	第2編第3章第1節(p.92~115)	<p>【知識・技能】</p> <p>①体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解するとともに、体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。</p> <p>②ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現することができる。</p>			3	5・6	
④	第2編第3章第2節(p.116~141)	<p>【知識・技能】</p> <p>①免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現することができる。</p>			4	7・8	○
⑤	第3編第4章(p.142~183)	<p>【知識・技能】</p> <p>①植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解するとともに、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現することができる。</p>			5	9・10	○
⑥	第3編第5章(p.184~217)	<p>【知識・技能】</p> <p>①生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解するとともに、生態系の保全の重要性を認識することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを行い、生態系における生物の種多様性を見いだして理解するとともに、生物の種多様性と生物間関係性とを関連付けて理解することができる。</p> <p>②生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現することができる。</p>			6	11・12	
学習方法							
【添削指導(報告課題)】							
<p>1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>							
【面接指導(スクーリング)】							
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>							
【定期試験】							
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>							
評価方法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【2024年度】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科		生物		4	12	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
16	9	0	7			
※特定教科書は、発行元の番号・題名、教科書の記号・番号を記載	発行元の番号・題名または出版者名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	第一学習社	生物705	高等学校 生物			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上(1)から(3)を踏まえ、生徒の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指す。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
第1編第1章(教科書p.14~59) 第1編第2章(教科書p.60~89) 第2編第3章(教科書p.90~123)			第3編第7章(教科書p.208~233) 第4編第8章第1節①~④(教科書p.234~257) 第4編第8章第1節⑤~⑧、第2節(教科書p.258~283)			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	前期 後期
①	第1編 第1章 生物の進化(教科書p.14~59)	【知識・技能】 ①生物の起源と細胞の進化に関する資料に基づいて、生命の起源に関する考えを理解するとともに、細胞の進化を地球環境の変化と関連付けて理解している。 ②遺伝子の変化に関する資料に基づいて、突然変異と生物の形質の変化との関係を見いだして理解している。 ③交配実験の結果などの資料に基づいて、遺伝子の組合せが変化することを見いだして理解している。 【思考・判断・表現】 ①進化の仕組みに関する観察、実験などを行い、遺伝子頻度の変化する要因を見いだして科学的に探究している。	1	1・2	○	
②	第1編 第2章 生物の系統と進化(教科書p.60~89)	【知識・技能】 ①生物の遺伝情報に関する資料に基づいて、生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列との関係を見いだして理解している。 ②変異に関する資料に基づいて、人類の系統と進化を形態的特徴などと関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①系統と進化に関する観察、実験などを行い、分類階級や分子系統から見た生物の進化について科学的に探究している。	2	3・4	○	
③	第2編 第3章 細胞と分子(教科書p.90~123)	【知識・技能】 ①生物物質と細胞に関する資料に基づいて、細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①生命現象とタンパク質に関する観察、実験などを行い、タンパク質の機能を生命現象と関連付けて科学的に探究している。	3	5・6	○	
④	第2編 第4章 代謝(教科書p.124~157)	【知識・技能】 ①呼吸に関する資料に基づいて、呼吸をエネルギーの流れと関連付けて理解している。 ②光合成に関する資料に基づいて、光合成をエネルギーの流れと関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①光合成に関する観察、実験などを行い、植物の光合成色素の色とRf値、光合成色素の種類の関係について科学的に探究している。	4	7・8		
⑤	第3編 第5章 遺伝情報とその発現 第6章 遺伝子の発現調節と発生 第1節(教科書p.158~181)	【知識・技能】 ①DNAの複製に関する資料に基づいて、DNAの複製の仕組みを理解すること、また、遺伝子発現に関する資料に基づいて、遺伝子の発現の仕組みを理解している。 ②遺伝子の発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを見いだして理解すること、また、転写の調節をそれに関するタンパク質と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①遺伝情報とその発現に関する観察、実験などを行い、セントラルドグマやその仕組みについて科学的に探究している。	5	9・10		
⑥	第3編 第6章 遺伝子の発現調節と発生 第2節(教科書p.182~207)	【知識・技能】 ①発生に関わる遺伝子の発現に関する資料に基づいて、発生の過程における分化を遺伝子発現の調節と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①クニなど動物の変容に関する観察、実験などを行い、動物の変容条件や発生過程について科学的に探究している。	6	11・12		
⑦	第3編 第7章 遺伝子を用いた技術とその応用 (教科書p.208~233)	【知識・技能】 ①遺伝子を用いた技術について、その原理と有用性を理解している。 【思考・判断・表現】 ①細胞への遺伝子導入に関する観察、実験などを行い、遺伝子の組み換えやその発現について科学的に探究している。	7	13・14	○	
⑧	第4編 第8章 動物の反応と行動 第1節①~④(教科書p.234~257)	【知識・技能】 ①刺激の受容と反応に関する資料に基づいて、外界の刺激を受容し神経系を介して反応する仕組み、関与する細胞の特性と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①視覚に関する観察、実験などを行い、ヒトの盲点の形や入光量・遠近の調節について科学的に探究している。	8	15・16	○	
⑨	第4編 第8章 動物の反応と行動 第1節⑤~⑧、第2節(教科書p.258~283)	【知識・技能】 ①動物の行動に関する資料に基づいて、行動を神経系の働きと関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①動物の行動に関する観察、実験などを行い、習得の行動と学習についてその原理を科学的に探究している。	9	17・18	○	
⑩	第4編 第9章 植物の成長と環境応答(教科書p.284~321)	【知識・技能】 ①植物の環境応答に関する資料に基づいて、刺激に対する応答やその方向性について理解している。 【思考・判断・表現】 ①植物の環境応答に関する観察、実験などを行い、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見いだして科学的に探究している。	10	19・20		
⑪	第5編 第10章 生態系のしくみと人間生活の関わり 第1節(教科書p.322~351)	【知識・技能】 ①個体群間の相互作用に関する資料に基づいて、生物群集が維持される仕組みや個体群間の関係性を見いだして理解している。 【思考・判断・表現】 ①個体内の相互作用に関する観察、実験などを行い、個体群が維持される仕組みや個体間の関係性を見いだして科学的に探究している。	11	21・22		
⑫	第5編 第10章 生態系のしくみと人間生活の関わり 第2節 第3節(教科書p.352~381)	【知識・技能】 ①生態系の物質生産と物質循環に関する資料に基づいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連付けて理解している。 ②生態系と人間生活に関する資料に基づいて、人間生活が生態系に及ぼす影響を見いだして理解している。 【思考・判断・表現】 ①草本植物群集に関する観察、実験などを行い、陸上条件による草本植物の生産構造の違いについて科学的に探究している。	12	23・24		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後、疑問点などあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から遠隔指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数</p> <p>前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲</p> <p>報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科		地学基礎		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
8	4	0	4			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	東京書籍	地基701	地学基礎			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上(1)から(3)を踏まえ、生徒の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指す。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
1編 私たちの大地(P14～P49) 2編 私たちの空と海(P52～P73)			4編 私たちの地球の歴史(P98～P127) 5編 地球に生きる私たち(P130～P147)			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	後期
①	1編 私たちの大地 1章 大地とその動き 2章 火山活動と地震 (P14～P49)	【知識・技能】 ①地球内部の層構造とその状態を理解している。 ②プレートの分布と運動について理解しているとともに、大地形の形成と地質構造をプレートの運動と関連付けて理解している。 ③火山活動や地震に関する資料に基づいて、火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①地球の形や大きさに関する観察、実験などを行い、地球の形の特徴と大きさを見いだして科学的に探究している。	1	1・2	○	
②	2編 私たちの空と海 1章 地球の熱収支 2章 大気と海水の運動 (P52～P73)	【知識・技能】 ①気圧や気温の鉛直方向の変化などについての資料に基づいて、大気の特徴を見いだして理解しているとともに、太陽放射の受熱量と地球放射の放熱量が釣り合っていることを理解している。 ②大気と海水の運動に関する資料に基づいて、大気と海洋の大循環について理解しているとともに、緯度により太陽放射の受熱量が異なることなどから、地球規模で熱が輸送されていることを見いだして理解している。 【思考・判断・表現】 ①地球の熱収支に関する観察、実験などを行い、高度による地球大気気圧と温度変化の関係及び緯度による太陽放射エネルギーの違いについて科学的に探究している。	2	3・4	○	
③	3編 私たちの宇宙の誕生 1章 宇宙の構造と進化 (P76～P95)	【知識・技能】 ①宇宙の誕生、太陽系の誕生と生命を生み出す条件を備えた地球の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ①惑星形成に関する観察などを行い、太陽系の形成過程や惑星ごとの特徴について科学的に探究している。	3	5・6		
④	4編 私たちの地球の歴史 1章 地層と化石の観察 2章 古生物の変遷と地球環境 (P98～P127)	【知識・技能】 ①地球環境の変化に関する資料に基づいて、大気の変化と生命活動の相互の関わりを見いだして理解している。 【思考・判断・表現】 ①地層や化石に関する観察などを行い、地質時代が古生物の変遷に基づいて区分されることを科学的に探究している。	4	7・8	○	
⑤	5編 地球に生きる私たち 1章 日本の自然の恵みと防災 (P130～P147)	【知識・技能】 ①日本の自然環境を理解し、それらがもたらす恩恵や災害など自然環境と人間生活との関わりについて認識している。 【思考・判断・表現】 ①自然環境の観察などを行い、得られる恩恵や災害などの関係について科学的に探究している。	5	9・10	○	
⑥	終1章 地球環境の考え方 終2章 自然環境の変動 終3章 これからの地球環境 (P148～P169)	【知識・技能】 ①地球規模の自然環境に関する資料に基づいて、地球環境の変化を見いだしてその仕組みを理解しているとともに、それらの現象と人間生活との関わりについて認識している。 【思考・判断・表現】 ①地球環境に関する観察、実験などを行い、人間活動と環境変動についての関係を科学的に探究している。	6	11・12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

**【 2024年度 】 年間指導計画**

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
保健体育		体育 I		2	2	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
10	6	0	4			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	50・大修館	保体701	現代高等保健体育			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習課程を通して、体と心を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成する。</p> <p>(1)スポーツの始まりと変遷や、現代のスポーツが社会や環境にもたらす大きな影響を理解し、スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から自己の関わり方を考え深めることができる。【知識・技能】</p> <p>(2)スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝えることができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解することや、課題を発見するために意見交換などの学習に自ら進んで取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
1単元 スポーツの発祥と発展(教科書P136~147) 1. スポーツの始まりと変遷 2. 文化としてのスポーツ 3. オリンピックとパラリンピックの意義			1単元 スポーツの発祥と発展(教科書P148~156) 4. スポーツが経済に及ぼす効果 5. スポーツの高潔さとドーピング 6. スポーツと環境			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	スポーツの発祥と発展①	<p>【知識・技能】</p> <p>①スポーツの始まりと変遷について理解し、スポーツの発展が人々に恩恵をもたらしている一方で、様々な課題も生じていることを理解することができる。</p> <p>②近代オリンピックの成り立ちについて理解し、オリンピックとパラリンピックの価値や意義、理念について理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①運動と比較し文化としてのスポーツの特徴と多様なかわり方によるスポーツの変容について説明することができる。</p>		1	1・2	○
②	スポーツの発祥と発展②	<p>【知識・技能】</p> <p>①スポーツが経済活動でどのように重要な役割を担っているか、スポーツにかかわる広範な業種から構成されるスポーツ産業による効果、スポーツイベント等による経済波及効果が経済活動に大きな影響を及ぼしていることを理解することができる。</p> <p>②スポーツにかかわる人々の増加に伴う、環境や社会に対する影響について理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①スポーツの持つ価値、スポーツが環境や社会にもたらす影響について習得した知識を活用し、スポーツの高潔さを脅かすドーピング等の課題やその要因について理解し、なぜドーピングがスポーツを破壊する行為になるのかを具体的に説明することができる。</p> <p>②スポーツが環境や社会に及ぼす影響について習得した知識を活用し、スポーツが持続可能な発展につながるよりよい解決策を思考し判断することで説明することができる。</p>		2	3・4	○
学習方法						
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <p>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p> <p>【定期試験】</p> <p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
保健体育		体育Ⅱ		2	2	2	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
10	6	0	4				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名				
教科書	大修館書店	保体701	現代高等保健体育				
副教材等	-	-	-				
学習目標							
<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しもうととしている。【主体的に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
2単元 運動・スポーツの学び方 1.スポーツにおける技能と体力(P158～159) 2.スポーツにおける技術と戦術(P160～161) 3.技能の上達過程と練習(P164～165)			2単元 運動・スポーツの学び方 4.効果的な動きのメカニズム(P168～169) 5.体カトレーニング(P172～175) 6.運動やスポーツでの安全の確保(P176～177)				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	2単元 運動・スポーツの学び方 1.スポーツにおける技能と体力(P158～159) 2.スポーツにおける技術と戦術(P160～161) 3.技能の上達過程と練習(P164～165)	【知識・技能】 ①運動・スポーツにおける技能について型や上達課程にみる段階や停滞現象について理解できる。 ②戦術・作戦・戦略や効果的な練習方法について理解できる。 【思考・判断・表現】 ①技能の型の違いやそれぞれの練習のしかた、どのようなステップを経て上達するか説明できる。 ②技能や体力を高めるときに気を付けるべき点や、技能が上達するとどのような特徴が見られるかをあげることができる。			1	1・2	○
②	2単元 運動・スポーツの学び方 4.効果的な動きのメカニズム(P168～169) 5.体カトレーニング(P172～175) 6.運動やスポーツでの安全の確保(P176～177)	【知識・技能】 ①動きのメカニズムやさまざまなトレーニングの方法について理解できる。 ②運動・スポーツで起こるけがや事故とその予防について理解できる。 【思考・判断・表現】 ①体の動きについてや目的に応じたトレーニングの方法について説明できる。 ②スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、発生原因や予防方法を説明できる。			2	3・4	○
学習方法							
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評価方法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							



【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
保健体育		体育Ⅲ		3	3	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
15	9	0	6			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	大修館書店	保体701	現代高等保健体育			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。</p> <p>(1)生涯にわたって健康で豊かな生活を送るために、スポーツと継続的に関わり、ライフステージやライフスタイルに応じてスポーツライフを設計する知識を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けようとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>(3)健康・安全を確保して、運動における競争や協働の経験を通して、ライフスタイルに応じたスポーツを生涯にわたって継続して親しもうとしている。【主体的に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
【運動やスポーツでの安全の確保】(教科書176～177ページ) 【生涯スポーツの見方・考え方】(教科書182～183ページ) 【ライフスタイルに応じたスポーツ】(教科書186～187ページ)			【スポーツを推進する取り組み】(教科書190～191ページ) 【豊かなスポーツライフの創造】(教科書194～195ページ) 【体のつくりと働き】(教科書口絵1～4ページ)(教科書170)			
【添削指導(報告課題)】						
学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
					前期	後期
①	【運動やスポーツでの安全の確保】(教科書176～177ページ) 【生涯スポーツの見方・考え方】(教科書182～183ページ) 【ライフスタイルに応じたスポーツ】(教科書186～187ページ)	【知識・技能】 ①スポーツ活動中に起こるけがや事故について知識を深めることができる。 ②社会の変化に伴ってスポーツの役割がどのように変化したのか理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①スポーツ障害やけが、事故の予防法を身に付け、説明することができる。 ②ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を説明することができる。	1	1・2	○	
②	【スポーツを推進する取り組み】(教科書190～191ページ) 【豊かなスポーツライフの創造】(教科書194～195ページ)	【知識・技能】 ①オリンピックを通して、スポーツの施策や地域スポーツへの影響を考え知識を深めることができる。 ②これまでとこれからのスポーツライフの違いを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①身近な地域におけるスポーツ推進の取り組みについて例をあげることができる。 ②豊かなスポーツライフを創造していくための課題について取り上げ、個々や社会全体で何が求められるか発表することができる。	2	3・4		○
③	【体のつくりと働き】(教科書口絵1～4ページ) (教科書170)	【知識・技能】 ①体のつくりと働きについて知識を深めることができる。 ②運動と脳のかかわりを理解し、知識を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①体の動きに対して脳のどの部位が関わっているか例をあげて、実践することができる。	3	5・6		○
学習方法						
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						

## 評価方法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
保健体育		保健 I		1	3	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
1	0	0	1			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	大修館	保体701	現代高等保健体育			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。【知識・技能】  (2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えようとしている。【思考・判断・表現】  (3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】  以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
<p>1単元 現代社会と健康(教科書P6～35)</p> <p>1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた  3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防  5. がんの治療と回復 6. 運動と健康 7. 食事と健康  8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康  11. 薬物乱用と健康</p>			<p>1単元 現代社会と健康(教科書P36～58)</p> <p>12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復  15. 現代の感染症 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズとその予防  18. 健康に関する意思決定・行動選択 19. 健康に関する環境づくり  2単元 安全な社会生活(教科書P60～74)</p> <p>1. 事故の現状と発生要因 2. 安全な社会の形成 3. 交通における安全  4. 応急手当の意義とその基本 5. 日常的な応急手当 6. 心肺蘇生法</p>			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	前期 後期
①	現代社会と健康①	<p>【知識・技能】</p> <p>①国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていることを理解することができる。  ②がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧、糖尿病などの生活習慣病のリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であると理解している。  ③健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解することができる。  【思考・判断・表現】</p> <p>①ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解することができる。  ②生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用して考えることができる。  ③喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策面から分析することができる。</p>	1	1・2	○	
②	現代社会と健康②	<p>【知識・技能】</p> <p>①感染症は時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることを理解できるようにする。  ②精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物学的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることを理解している。  【思考・判断・表現】</p> <p>①精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理することができる。</p>	2	3・4	○	
③	安全な社会生活	<p>【知識・技能】</p> <p>①事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していることや、事故の発生には周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることを理解できる。  ②適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できる。  【思考・判断・表現】</p> <p>①交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価することができる。  ②応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用することができる。</p>	3	5・6	○	
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。  2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。  3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。  2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数  前期に1回、後期に1回実施する。  2 出題範囲  報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
保健体育		保健Ⅱ		1	3	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
1	0	0	1			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名		
教科書	大修館書店	保体・701	現代高等保健体育			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとしている。【主体的に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
<p>3単元 生涯を通じる健康</p> <p>1.ライフステージと健康(P76~77) 2.思春期と健康(P78~79)</p> <p>3.性意識と性行動の選択(P80~81) 4.妊娠・出産と健康(P82~83)</p> <p>5.避妊法と人工妊娠中絶(P84~85) 6.結婚生活と健康(P88~89)</p> <p>7.中高年期と健康(P90~91)</p>			<p>3単元 生涯を通じる健康</p> <p>8.働くことと健康(P92~93) 9.労働災害と健康(P94~95) 10.健康的な職業生活(P96~97)</p> <p>4単元 健康を支える環境づくり</p> <p>1.大気汚染と健康(P100~101) 2.水質汚濁、土壌汚染と健康(P102~103)</p> <p>3.環境と健康にかかわる対策(P104~105)</p> <p>4.ごみの処理と上下水道の整備(P106~107)</p> <p>4単元 健康を支える環境づくり</p> <p>5.食品の安全性(P110~111) 6.食品衛生にかかわる活動(P112~113)</p> <p>7.保健サービスとその活用(P116~117) 8.医療サービスとその活用(P118~119)</p> <p>9.医薬品の制度とその活用(P120~121) 10.さまざまな保健活動や社会対策(P124~125)</p> <p>11.健康に関する環境づくりと社会参加(P126~127)</p>			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	後期
①	<p>3単元 生涯を通じる健康</p> <p>1.ライフステージと健康(P76~77)</p> <p>2.思春期と健康(P78~79)</p> <p>3.性意識と性行動の選択(P80~81)</p> <p>4.妊娠・出産と健康(P82~83)</p> <p>5.避妊法と人工妊娠中絶(P84~85)</p> <p>6.結婚生活と健康(P88~89)</p> <p>7.中高年期と健康(P90~91)</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>①思春期における体の変化や家族計画の意義と適切な避妊法について理解できる。</p> <p>②心身の発達と結婚生活、また加齢の変化について理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①性行動の選択についての例や妊娠出産に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる。</p> <p>②人工妊娠中絶が及ぼす影響について説明できる。</p>	1	1・2	○	
②	<p>3単元 生涯を通じる健康</p> <p>8.働くことと健康(P92~93)</p> <p>9.労働災害と健康(P94~95)</p> <p>10.健康的な職業生活(P96~97)</p> <p>4単元 健康を支える環境づくり</p> <p>1.大気汚染と健康(P100~101)</p> <p>2.水質汚濁、土壌汚染と健康(P102~103)</p> <p>3.環境と健康にかかわる対策(P104~105)</p> <p>4.ごみの処理と上下水道の整備(P106~107)</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>①働くことの意義や労働災害について理解できる。</p> <p>②大気汚染・水質汚濁・土壌汚染の原因と健康影響について理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①労働災害を防止するために必要なことや余暇の意義について説明できる。</p> <p>②複合的な環境汚染の発生のしくみやごみの処理の現状と課題について説明できる。</p>	2	3・4	○	
③	<p>4単元 健康を支える環境づくり</p> <p>5.食品の安全性(P110~111)</p> <p>6.食品衛生にかかわる活動(P112~113)</p> <p>7.保健サービスとその活用(P116~117)</p> <p>8.医療サービスとその活用(P118~119)</p> <p>9.医薬品の制度とその活用(P120~121)</p> <p>10.さまざまな保健活動や社会対策(P124~125)</p> <p>11.健康に関する環境づくりと社会参加(P126~127)</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>①食品の安全性や製造者の役割について理解できる。</p> <p>②保健行政の役割や医療保険の仕組みについて理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①食品の安全性に関する今日的課題について説明できる。</p> <p>②保健サービスの活用の例や行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。</p>	3	5・6	○	
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
芸術		音楽 I		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
8	4	0	4			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名		
教科書	教育出版	音 I・701	音楽 I Tutti +			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。【思考力・判断力・表現力】</p> <p>(3)主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしてしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
①楽典(p.46,146,149) ②西洋音楽史 ③日本歌曲を歌おう ④西洋音楽の源流を耳でたどろう ⑤ドイツ歌曲の魅力			①楽典(p.146-148) ②アイルランド民謡に親しもう ③日本音楽史 ④私たちの郷土の音楽 ⑤民謡のいろいろ「会津磐梯山」			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	①楽典(p.46) ②楽典(p.146) ③西洋音楽史(p.108~113) ④日本歌曲を歌おう (p.14~15,149(一部楽典))	【知識・技能】 ①曲想と音楽の構造や歌詞との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように旋律をつくるかについて思いや意図をもつことができる。		1	1・2	○
②	①楽典(p.149) ②西洋音楽の源流を耳でたどろう (p.114~117) ③ドイツ歌曲の魅力(p.28~29)	【知識・技能】 ①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①音色、旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。		2	3・4	○
③	①声という大切な楽器(p.12) ②世界の声の音楽、楽器の音楽 (p.106~107) ③イタリアの民謡や歌曲 (p.22~23、 p.147,149(一部楽典))	【知識・技能】 ①言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。		3	5・6	
④	①楽典(p.146~148) ②アイルランド民謡に親しもう (p.38,148(一部楽典))	【知識・技能】 ①言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。		4	7・8	○
⑤	①私たちの郷土の音楽(p.46~47) ②日本音楽史(p.96~99) ③民謡のいろいろ「会津磐梯山」 (p.47,49)	【知識・技能】 ①曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類と特徴について理解している。 【思考・判断・表現】 ①音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。		5	9・10	○
⑥	①ピアノの歩みとその音楽 (p.118~119) ②A.ヴァイヴァルディとバロック音楽 (p.83,110ページ,149、 p152(一部楽典)) ③ベートーヴェン最後の交響曲 (p.124~125,148(一部楽典))	【知識・技能】 ①曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。		6	11-12	
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラウドWebキャス「報告課題レポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。						
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。						
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクーリング)】						
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。						
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数						
前期に1回、後期に1回実施する。						
2 出題範囲						
報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
芸術		美術 I		2	6	2	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
8	4	0	4				
※検定教科書は、発行者の番号・題名・教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・題名または出版社名		教科書の記号・番号		書名	
教科書	日本文教出版	美 I 702	高校生の美術1				
副教材等	-	-	-				
学習目標							
<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。【知識・技能】</p> <p>(2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養おうとしている。【主体的に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
報告課題1・2回目 (絵画・彫刻①、②)			報告課題4・5回目 (デザイン①、②)				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	絵画・彫刻 ①	<p>【知識・技能】</p> <p>①意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成することができる。</p> <p>②表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。</p> <p>③表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すことができる。</p>			1	1・2	○
②	絵画・彫刻 ②	<p>【知識・技能】</p> <p>①意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成することができる。</p> <p>②表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。</p> <p>③表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すことができる。</p>			2	3・4	○
③	絵画・彫刻 ③	<p>【知識・技能】</p> <p>①意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成することができる。</p> <p>②表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。</p> <p>③表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すことができる。</p>			3	5・6	
④	デザイン ①	<p>【知識・技能】</p> <p>①意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成することができる。</p> <p>②デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。</p> <p>③表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すことができる。</p>			4	7・8	○
⑤	デザイン ②	<p>【知識・技能】</p> <p>①意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成することができる。</p> <p>②デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。</p> <p>③表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すことができる。</p>			5	9・10	○
⑥	映像メディア	<p>【知識・技能】</p> <p>①意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成することができる。</p> <p>②色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。</p> <p>③表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表すことができる。</p>			6	11・12	
学習方法							
【添削指導(報告課題)】							
<p>1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>							
【面接指導(スクーリング)】							
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>							
【定期試験】							
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>							
評価方法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
芸術		書道 I		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
8	4	0	4			
※検定教科書は、発行者の番号・発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名		
教科書	2東書	書 I 701	書道 I			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
1 書写から書道へ 2 漢字の書 漢字の成立と変遷 古典に基づく学習 楷書			4 草書 隷書 篆書 5 仮名の書			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	書写から書道へ	<p>【知識・技能】</p> <p>①用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。</p> <p>②目的や用途に即した効果的な表現、楷書と仮名や行書と仮名の調和した線質による表現を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①中学校書写で学んだ漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した効果的な表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。</p>		1	1・2	○
②	漢字の書 漢字の成立と変遷 古典に基づく学習 楷書	<p>【知識・技能】</p> <p>①日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。</p> <p>②楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①漢字の書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p> <p>②楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p>		2	3・4	○
③	行書	<p>【知識・技能】</p> <p>①行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>②線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。</p> <p>③行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。</p> <p>②行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p>		3	5・6	
④	草書 隷書 篆書	<p>【知識・技能】</p> <p>①草書・隷書・篆書の各古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>②線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①草書・隷書・篆書の各古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。</p>		4	7・8	○
⑤	仮名の書	<p>【知識・技能】</p> <p>①日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立について理解している。</p> <p>②用具・用材の特徴と表現効果との関わり、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①仮名の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。</p> <p>②仮名の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p>		5	9・10	○
⑥	漢字仮名交じりの書 篆刻・刻字	<p>【知識・技能】</p> <p>①日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立について理解している。</p> <p>②用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。</p>		6	11・12	
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 名前の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】年間指導計画

教 科 等		科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
外国語		英語コミュニケーション I		3	9	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
12	7	0	5			
※検定教科書は、発行者の番号・規格、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・規格または出版社名	教科書の記号・番号	書 名		
教科書	東京書籍	CI701	All Aboard! English Communication I			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、自分の考えやチームの意見を話すこと[発表]、書くことの五つの領域別の言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1)必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(2)必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりしようとする事ができる。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>(4)基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。【知識・技能】</p> <p>(5)基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。【知識・技能】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
報告課題1・2回目 (Warm-Up ①②③~Lesson 3)			報告課題5・6・7回目 (Lesson 6~Lesson 8)			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	Warm-Up ①②③ Pre-Lesson 1・2 Lesson 1	【知識・技能】 Warm Up①②③:教室で使う表現の理解・辞書の使い方が理解できる。 【思考・判断・表現】 Pre-Lesson 1・2:自分の名前・性格・日常の行動などを相手に伝えることができる。 (be動詞・一般動詞) Lesson 1:自分の考えや好み、その理由などを伝える(過去形)ことができる。		1	1・2	○
②	Lesson 2 Lesson 3	【思考・判断・表現】 Lesson2:好きな動物について、考えや好み、理由などを伝え合う(進行形)ことができる。 Lesson3:自分ができること・できないことについて情報や考えを伝え合う(助動詞)ことができる。		2	3・4	○
③	Lesson 4	【思考・判断・表現】 Lesson4:自分が行ってみたい場所やしたいことについて情報や考え、気持ちを伝え合う(to不定詞)ことができる。		3	5・6	
④	Lesson 5 Reading 1	【知識・技能】 Lesson5:将来の夢や先週末に楽しんだことについて、考えや気持ち、情報を伝え合う(動名詞)ことができる。 Reading1:英語で書かれたShort Storiesを読み、それぞれの場面の心情を読み取ることができる。		4	7・8	
⑤	Lesson 6	【思考・判断・表現】 Lesson6:好きな絵の紹介とその理由について情報や考え、気持ちを話して伝え合う(受け身)ことができる。		5	9・10	○
⑥	Lesson 7	【思考・判断・表現】 Lesson7:アンネ・フランクについて学び、関心のある人物について自分で調べた事柄を用いて、考えなどを伝え合う(比較表現)ことができる。		6	11・12	○
⑦	Lesson 8	【思考・判断・表現】 Lesson8:ロボットカフェについて学び、ロボットについて自分で調べた事柄を用いて、人の生活を豊かにするロボットのアイデアを提案する(現在完了形)ことができる。		7	13・14	○
⑧	Lesson 9	【思考・判断・表現】 Lesson9:プラスチックごみによる環境汚染の問題について学び、調べた事柄を整理・理解する。自分で調べた事柄を用いて自分たちにできることを伝え合う(名詞を後ろから説明する分詞)ことができる。		8	15・16	
⑨	Lesson 10 Reading 2	【知識・技能】 Reading2:The Wizard of Ozの内容を読み取り、場面や登場人物の心情を読み取ることができる。 【思考・判断・表現】 Lesson10:海外の文化や社会を理解する手段について自分で調べた事柄を用いて考えや情報を話して伝え合う(関係代名詞who, which)ことができる。		9	17・18	
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						





【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
外国語		英語コミュニケーションⅢ		4	12	2		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
16	9	0	7					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載				書名				
教科書	東京書籍	CⅢ701	All Aboard! English Communication Ⅲ					
副教材等	—	—	—					
学習目標								
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(2)必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>(4)日常的な話題について、使用する語句や文、事柄の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。【知識・技能】</p> <p>(5)日常的な話題について、使用する語句や文、事柄の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。【知識・技能】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験			学年末試験					
Lesson1～Lesson3(P4～27)			Lesson6～Lesson8(P64～83)					
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	Lesson1 Gifts to Barcelona(P4～P11)	<p>【知識・技能】</p> <p>① to不定詞/動名詞を用いた文の形・意味を理解している。また、海外の有名な建築物について学んだり、建築物について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>② to不定詞/動名詞の理解をもとに、海外の有名な建築物について学んだり、建築物を紹介するレポート番組を作るにあたり、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合ったり、原稿を書いて発表したりする技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 海外の有名な建築物に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、建築物を紹介するレポート番組を作るにあたり、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合うことができる。</p>			1	1・2	○	
②	Lesson2 Akkamui(P12～P19)	<p>【知識・技能】</p> <p>① 現在完了形を用いた文の形・意味を理解している。また、北海道のエゾモンガやアイヌの人々について学んだり、生き物について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>② 現在完了形の理解をもとに、北海道のエゾモンガやアイヌの人々について学んだり、生き物について調べた事柄を用いて、写真を示しながら情報や感想などを話して伝え合ったり、原稿を書いて発表したりする技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 北海道のエゾモンガやアイヌの人々に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、生き物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や感想などを話したり書いたりして伝え合うことができる。</p>			2	3・4	○	
③	Lesson3 Your True Colors(P20～P27)	<p>【知識・技能】</p> <p>① 使役動詞を用いた文の形・意味を理解している。また、衣服の働きと自己表現としてのファッションについて学んだり、ファッションやスタイルについて調べたり考えたりした事柄を整理・理解している。</p> <p>② 使役動詞の理解をもとに、衣服の働きと自己表現としてのファッションについて学んだり、ファッションやスタイルについて調べたり考えたりした事柄を用いて、インタビューをするための原稿を書いてインタビューをしたり、インタビューに答えたりする技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 衣服の働きと自己表現としてのファッションに関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ファッションやスタイルについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合うことができる。</p>			3	5・6	○	

④	Lesson4 Our Future Food? (P28~P37)	<p>【知識・技能】</p> <p>① 受け身を用いた文の形・意味を理解している。また、昆虫食について学んだり、食糧問題について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>② 受け身の理解をもとに、昆虫食について学んだり、食糧問題について調べた事柄などを用いてミニディベートをするとき、意見や情報などを話して伝え合ったり、論議についての意見を書いたりして、ミニディベートを行う技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 昆虫食に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、食糧問題について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、意見や情報などを話したり書いたりしてミニディベートを行うことができる。</p>	4	7-8		
⑤	Lesson5 Madagascar(P38~P47)	<p>【知識・技能】</p> <p>① 関係代名詞who, which, thatを用いた文の形・意味を理解している。また、マダガスカルについて学んだり、地域の自然の特徴について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>② 関係代名詞who, which, thatの理解をもとに、マダガスカルについて学んだり、地域の自然の特徴について調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合ったり、原稿を書いてプレゼンテーションをする技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① マダガスカルの自然と人々の生活に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、地域の自然の特徴について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり原稿を書いたりしてプレゼンテーションを行うことができる。</p>	5	9-10		
⑥	Reading1 The Fun They Had(P48~P53)	<p>【知識・技能】</p> <p>① 英語で書かれたThe Fun They Hadの内容を理解している。</p> <p>② 英語で書かれたThe Fun They Hadの内容を読み取る技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 英語で書かれたThe Fun They Hadの内容に関する問いに答えることができる。また、英語で書かれたThe Fun They Hadを、各場面の状況や登場人物の心情が、聞いている者に伝わりやすいように読む要点を捉えている。</p>	6	11-12		
⑦	Lesson6 The Mystery of the Terracotta Warriors (P54~P63)	<p>【知識・技能】</p> <p>① 関係代名詞(who, which)の非制限用法を用いた文の形・意味を理解している。また、古代中国を統一した秦の始皇帝の業績と彼が残した兵馬俑について学んだり、訪れてみたい史跡について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>② 関係代名詞(who, which)の非制限用法の理解をもとに、古代中国を統一した秦の始皇帝の業績と彼が残した兵馬俑について学んだり、訪れてみたい史跡について調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合ったり、まとまりのあるパラグラフを書いて発表したりする技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 古代中国を統一した秦の始皇帝の業績と彼が残した兵馬俑に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、訪れてみたい史跡について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したりまとまりのあるパラグラフを書いて発表することができる。</p>	7	13-14		○
⑧	Lesson7 Green Challengers(P64~P73)	<p>【知識・技能】</p> <p>① 比較表現を用いた文の形・意味を理解している。また、地球温暖化と再生可能エネルギーについて学んだり、再生可能エネルギーへの投資金額などのグラフから読み取った事柄を整理・理解している。</p> <p>② 比較表現の理解をもとに、地球温暖化と再生可能エネルギーについて学んだり、再生可能エネルギーへの投資金額のグラフから読み取った事柄などを用いて、情報や考えなどを話して伝え合ったり、原稿を書いてプレゼンテーションをする技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 地球温暖化と再生可能エネルギーに関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、再生可能エネルギーへの投資金額のグラフから読み取った事柄などを用いて、再生可能エネルギーについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり原稿を書いたりして、プレゼンテーションを行うことができる。</p>	8	15-16		○
⑨	Lesson8 Witnesses of War(P74~P83)	<p>【知識・技能】</p> <p>① 名詞を後ろから説明する分詞を用いた文の形・意味を理解している。また、原爆投下により破壊された広島島の路面電車とその運転士だった女子生徒の経験を通して、平和の大切さについて学んだり、訪れた場所や経験したことなどについてまとめた事柄を整理・理解している。</p> <p>② 名詞を後ろから説明する分詞の理解をもとに、原爆投下により破壊された広島島の路面電車とその運転士だった女子生徒の経験を通して、平和の大切さについて学んだり、訪れた場所や経験したことなどについてまとめた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合ったり、まとまりのあるパラグラフを書いて発表したりする技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 原爆投下により破壊された広島島の路面電車とその運転士だった女子生徒の経験や平和の大切さに関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、訪れた場所や経験したことなどについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したりまとまりのあるパラグラフを書いて発表することができる。</p>	9	17-18		○
⑩	Lesson9 The Wonders of Lightning(P84~P95)	<p>【知識・技能】</p> <p>① 仮定法過去を用いた文の形・意味を理解している。また、雷や異常気象について学んだり、電気自動車への切り替えについて調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>② 仮定法過去の理解をもとに、雷や異常気象について学んだり、電気自動車への切り替えについて調べた事柄を用いて、意見や情報などを話して伝え合ったり、論議についての意見を書いたりして、ミニディベートを行う技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 雷の発生のおよび予測方法、地球温暖化との関係などに関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、電気自動車への切り替えについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、意見や情報などを話したりして、ミニディベートを行うことができる。</p>	10	19-20		
⑪	Lesson10 Katherine's Long Journey(P96~P105)	<p>【知識・技能】</p> <p>① 関係代名詞whoseを用いた文の形・意味を理解している。また、人種差別的な壁を越えて、米国の宇宙開発に貢献したアフリカ系アメリカ人数学者、キャサリン・ジョンソンについて学んだり、社会に影響を与えた人物について自分で調べてまとめた事柄を整理・理解している。</p> <p>② 関係代名詞whoseの理解をもとに、人種差別的な壁を越えて、米国の宇宙開発に貢献したアフリカ系アメリカ人数学者、キャサリン・ジョンソンについて学んだり、社会に影響を与えた人物について自分で調べてまとめた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合ったり、まとまりのあるエッセイを書いて発表したりする技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 人種差別的な壁を越えて、米国の宇宙開発に貢献したアフリカ系アメリカ人数学者、キャサリン・ジョンソンに関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、社会に影響を与えた人物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したりまとまりのあるエッセイを書いて発表することができる。</p>	11	21-22		
⑫	Reading2 Table for Two(P106~P111)	<p>【知識・技能】</p> <p>① 英語で書かれたTable for Twoの内容を理解している。</p> <p>② 英語で書かれたTable for Twoの内容を読み取る技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 英語で書かれたTable for Twoの内容に関する問いに答えている。また、英語で書かれたTable for Twoを、各場面の状況や登場人物の心情が、聞いている者に伝わりやすいように読む要点を捉えている。</p>	12	23-24		

学習方法

【添削指導(報告課題)】

- 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「課題視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
- 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
- 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。

【面接指導(スクーリング)】

- 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
- 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

【定期試験】

- 1 実施回数  
前期に1回、後期に1回実施する。
- 2 出題範囲  
報告課題の内容を中心とする。

評価方法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。



【2024年度】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
外国語		論理・表現Ⅱ		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる高頻回Web(2)	放送番組(3)	(1)-(2)-(3)			
8	4	0	4			
※指定教科書名・発行者の番号・版数、教科書の発行年・発行元		教科書の記号・番号		書名		
教科書	東京書籍	論Ⅱ701	NEW FAVORITE English Logic and Expression II			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらをつなげた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどの適切に理解したり適切に表現したりし合うことに関するコミュニケーションを図る興味・意欲を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1)必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(2)必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>(4)日常的な話題について、使用する語句や文、事柄の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して詳しく話して伝え合うことができる。【知識・技能】</p> <p>(5)日常的な話題について、使用する語句や文、事柄の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。【知識・技能】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
Unit1 Lesson1 ~ Lesson8(p8~39)			Unit2 Lesson1 ~ Lesson5 (p58~77)			
【添削指導(報告課題)】						
学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	授業時間前開閉	定期	後期
① (P8~P23) Unit 1 Lesson 1 友だちを紹介する Unit 1 Lesson 2 日本での初期投資 Unit 1 Lesson 3 種類についてのスピーチ Unit 1 Lesson 4 フォルダラー	Lesson1【知識・技能】①訂正する、心配する、感謝するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、訂正する、心配する、感謝するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson1【思考・判断・表現】①場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、発言や情報などを訂正したり、自分や相手について心配したり、相手に感謝したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson2【知識・技能】①聞く、繰り返す、言い換えるなどの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、聞く、繰り返す、言い換えるなどの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson3【思考・判断・表現】①場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、聞き手との関係、理由を表現したり、発言や情報などを繰り返したり、言い換えるなどして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson4【知識・技能】①注意を引く、同意を求めるときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、注意を引く、同意を求めるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson5【思考・判断・表現】①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、聞き手の注意を引いたり、同意を求めたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson4【知識・技能】①聞く、繰り返す、言い換えるなどの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、聞く、繰り返す、言い換えるなどの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson4【思考・判断・表現】①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、自分の望みを伝えたり、相手のすばらしいところを褒めたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	1	1・2	○		
② (P24~P39) Unit 1 Lesson 5 イベントに誘う Unit 1 Lesson 6 困難を乗り越えたい Unit 1 Lesson 7 翻訳についてのスピーチ Unit 1 Lesson 8 遠征販売で商品展開	Lesson5【知識・技能】①誘う、説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、誘う、説明するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson5【思考・判断・表現】①場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、相手を誘ったり、詳細を説明したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson6【知識・技能】①聞き手、依頼するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、聞き手、依頼するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson6【思考・判断・表現】①場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、相手の発言などについて聞き直したり、相手に依頼したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。②学んだ知識を用いて、聞き手、依頼するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson7【思考・判断・表現】①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、自己を要約したり、文章をわかりやすくするために言い換えたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson8【知識・技能】①聞いたことを伝える、説明する、控えめに依頼するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、聞いたことを伝える、説明する、控えめに依頼するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson8【思考・判断・表現】①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、自己を要約したり、文章をわかりやすくするために言い換えたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	2	3・4	○		
③ (P40~P56) Unit 1 Lesson 9 タウンの発展 Unit 1 Lesson 10 友達とディスカッション Unit 1 Lesson 11 比較的プレゼンテーション Unit 1 Lesson 12 新たな1職業	Lesson9【知識・技能】①依頼する、提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、依頼する、提案するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson9【思考・判断・表現】①場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、質問を答えながら依頼したり、提案したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson10【知識・技能】①肯定する、反対するときの表現の形・意味・用法を理解している。③学んだ知識を用いて、肯定する、反対するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson10【思考・判断・表現】①場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、さまざまな意見をしたり、理由を加えながら反対したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson11【知識・技能】①報告する、比較して説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、報告する、比較して説明するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson11【思考・判断・表現】①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、さまざまな意見をしたり、さまざまな視点で比較して説明したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson12【知識・技能】①説明する、理由を述べ、仮定するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、説明する、理由を述べ、仮定するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson12【思考・判断・表現】①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、詳細を説明したり、理由を述べたり、さまざまな仮定をしたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	3	5・6			
④ (P58~P69) Unit 2 Lesson 1 クラスデベーパー① Unit 2 Lesson 2 クラスデベーパー② Unit 2 Lesson 3 クラスデベーパー③	Lesson1【知識・技能】①推薦する、賛成・反対するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、推薦する、賛成・反対するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson1【思考・判断・表現】①場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、論理的に推薦したり、理由を説明したり、賛成・反対を表明したりして、自分の望みを伝えたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson2【知識・技能】①肯定する、推薦する、賛成・反対するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、肯定する、推薦する、賛成・反対するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson2【思考・判断・表現】①場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、自己を主張したり、論理的に推薦したり、理由を説明して賛成・反対を表明したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson3【知識・技能】①推薦する、説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、推薦する、説明するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson3【思考・判断・表現】①場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、論理的に推薦したり、相手を説得しようとして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	4	7・8	○		
⑤ (P70~P77) Unit 2 Lesson 4 商業的プレゼンテーション Unit 2 Lesson 5 社会問題についてのスピーチ	Lesson4【知識・技能】①報告する、望むときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、報告する、望むときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson4【思考・判断・表現】①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、さまざまな意見をしたり、自分の望みを伝えたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson5【知識・技能】①説明する、主張する、提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、説明する、主張する、提案するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson5【思考・判断・表現】①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、詳細を説明したり、自己を主張したり、提案したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	5	9・10	○		
⑥ (P78~P90) Unit 2 Lesson 6 仮定で議論する Unit 2 Lesson 7 比較して説明する Unit 2 Lesson 8 読み手を説得する	Lesson6【知識・技能】①肯定する、推薦するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、肯定する、推薦するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson6【思考・判断・表現】①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、仮定したり、論理的に推薦したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson7【知識・技能】①比較する、類似点と相違点を説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、比較する、類似点と相違点を説明するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson7【思考・判断・表現】①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、さまざまな視点から比較したり、類似点と相違点を説明したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson8【知識・技能】①勧告する、主張する、提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。②学んだ知識を用いて、勧告する、主張する、提案するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 Lesson8【思考・判断・表現】①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、論理的に主張したり、相手を説得したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	6	11・12			
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラスWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。						
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。						
3 各回の添削指導後、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクリュープ)】						
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。						
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数						
2 実施時期						
報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
外国語		論理・表現Ⅲ		2	6	2
面接指導			(1)-(2)-(3)			
規定回数(1)	メディアによる減免回数					
	Web(2)	放送視聴(3)				
8	4	0	4			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	東京書籍	論Ⅲ701	NEW FAVORITE English Logic and Expression Ⅲ			
副教材等	-	-	-			

学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】

(2)必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】

(3)日常的話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

(4)日常的話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。【知識・技能】

(5)日常的話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。【知識・技能】

以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
英語でよりよく表現するには～Lesson3(P6～31)	Lesson6～Lesson9(P44～67)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
					前期	後期
①	英語でよりよく表現するには (P6～P13) Lesson1 食糧問題についてディスカッションする (P14～P19)	<p>【知識・技能】</p> <p>①音の脱落や連結、同化という現象や書くときに注意すべきことを理解している。</p> <p>②議論する、提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>③音の脱落や連結、同化を正しく理解し、やり取りをよりよく行う技能、スピーチ・プレゼンテーションなどの心得や基本的な技能、書いたものを推敲する技能を身に付けている。</p> <p>④学んだ知識を用いて、議論する、提案するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを、相手を説得することができるよう、詳しく表現する技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①場面や状況を理解し、適切なリズム(音の強さ・弱さ・スピード)を用いたり、推敲を適切に行ったりすることで、情報や気持ちなどを表現することができる。</p> <p>②場面や状況を理解し、ある話題について、適切な表現を用いて、議論したり、提案したりして、自分の考えや気持ちなどを、相手を説得することができるよう、詳しく表現することができる。</p>	1	1・2	○	
②	Lesson2 メールで近況を伝える (P20～P25) Lesson3 学校新聞でアドバイスする (P26～P31)	<p>【知識・技能】</p> <p>①助言する、行動を促すときや主張する、仮定するときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>②学んだ知識を用いて、助言する、行動を促すときの表現を適切に運用し、相手に対するアドバイスを表現する技能を身に付けている。</p> <p>③学んだ知識を用いて、主張する、仮定するときの表現を適切に運用し、自分の考えや仮定・推測などを詳しく表現する技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、個人的なことについて書いたり、気持ちを伝えたりして、自分の近況について相手に共感してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。</p> <p>②相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、助言したり、行動を促したりして、相手にアドバイスの有効性を納得してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。</p>	2	3・4	○	
③	Lesson4 宇宙についてスピーチする (P32～P37) Lesson5 イベントなどを説明する (P38～P43)	<p>【知識・技能】</p> <p>①主張する、仮定するときや基本情報を伝える、詳細を伝えるときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>②学んだ知識を用いて、助言する、行動を促すときの表現を適切に運用し、相手に対するアドバイスを表現する技能を身に付けている。</p> <p>③学んだ知識を用いて、主張する、仮定するときの表現を適切に運用し、自分の考えや仮定・推測などを詳しく表現する技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、個人的なことについて書いたり、気持ちを伝えたりして、自分の近況について相手に共感してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。</p> <p>②相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、助言したり、行動を促したりして、相手にアドバイスの有効性を納得してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。</p>	3	5・6		

④	Lesson6 理想の場所や時間を描写する (P44~P49) Lesson7 日本の観光をプレゼンテーションする (P50~P55)	<p>【知識・技能】</p> <p>①見た目を描写する、イメージを伝えるときや特長を説明する、説得するときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>②学んだ知識を用いて、見た目を描写する、イメージを伝えるときの表現を適切に運用し、理想の場所や時間について詳しく表現する技能を身に付けている。</p> <p>③学んだ知識を用いて、特長を説明する、説得するときの表現を適切に運用し、日本の観光地について詳しく表現する技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、見た目を描写したり、イメージを伝えたりして、理想の場所や時間についての詳細やそれに対する自分の気持ちを、相手に理解してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。</p> <p>②相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、特長を説明したり、説得したりして、相手にぜひ知ってほしい、理解してほしいことについて詳しく表現することができる。</p>	4	7・8	○
⑤	Lesson8 趣味について書く (P56~P61) Lesson9 物事を分析して評論する (P62~P67)	<p>【知識・技能】</p> <p>①できごとについて物語る、読み手をひきつけるときや分析する、評論するときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>②学んだ知識を用いて、できごとについて物語る、読み手をひきつけるときの表現を適切に運用し、自分の趣味について詳しく表現する技能を身に付けている。</p> <p>③学んだ知識を用いて、分析する、評論するときの表現を適切に運用し、物事に対する自分なりの分析や評論を詳しく表現する技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、できごとについて物語ったり、読み手をひきつけたりして、自分の趣味について相手に理解してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。</p> <p>②相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、分析したり、評論したりして、物事に対する自分なりの分析や評論について相手に同意してもらうことができるよう、詳しく表現することができる。</p>	5	9・10	○
⑥	Lesson10 学習環境についてディベートする (P68~P79)	<p>【知識・技能】</p> <p>①立論する、反駁する、意見をまとめて再主張するときの表現の形・意味・用法を理解している。</p> <p>②学んだ知識を用いて、立論する、反駁する、意見をまとめて再主張するときの表現を適切に運用し、ディベートにおいて自分の考えや主張などを詳しく表現する技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①相手側の主張や反駁を理解し、ある話題について、適切な表現を用いて、立論したり、反駁したり、意見をまとめて再主張したりして、ディベートにおいて建設的な議論ができるよう、詳しく表現することができる。</p>	6	11・12	

#### 学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】

- 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
- 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
- 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。

【面接指導(スクーリング)】

- 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
- 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

【定期試験】

- 1 実施回数  
前期に1回、後期に1回実施する。
- 2 出題範囲  
報告課題の内容を中心とする。

#### 評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
家庭		家庭基礎		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	東京書籍	家基701	家庭基礎 自立・共生・創造			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実質的な態度を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる			第6章 食生活をつくる 第7章 衣生活をつくる 第8章 住生活をつくる			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	前期 後期
①	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる	【知識・技能】 ①人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、課題を解決する力を身に付けることができる。	1	1・2	○	
②	第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる	【知識・技能】 ①乳幼児期と高齢期の心身の特徴について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだすことができる。	2	3・4	○	
③	第5章 共に生き、共に支える 第6章 食生活をつくる	【知識・技能】 ①生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解することができる。 ②おいしさの構成要素について理解し、健康や環境に配慮した食生活について理解することができる。	3	5・6		
④	第6章 食生活をつくる 第7章 衣生活をつくる	【知識・技能】 ①健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理することができる。 【思考・判断・表現】 ①健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することができる。	4	7・8		○
⑤	第8章 住生活をつくる	【知識・技能】 ①ライフステージに応じた住生活の特徴について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定することができる。	5	9・10		○
⑥	第9章 経済生活を営む 第10章 生活を設計する	【知識・技能】 ①消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費行動における意思決定について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定できる。	6	11・12		
学習方法						
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</li> <li>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</li> <li>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</li> </ol> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</li> <li>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</li> </ol> <p>【定期試験】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</li> <li>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</li> </ol>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						



【2024年度】年間指導計画

教科等		科目		年時	授業時数	定期試験回数
家庭		家庭総合		4	12	2
間接指導						
規定回数(1)	メディアによる媒介回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
8	4	0	4			
授業時数科目名、教科書の編者、発行年次、発行所、教科書番号	教科書の編者、発行年次、発行所	教科書の記号、番号	書名			
教科書	東京書籍	家総701	家庭総合 自立・共生・創造			
副教材等	-	-	-			

学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向け、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資力・能力の向上を図ることを目指す。  
 (1)人々の「生き」生活、家族及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けていく。【知識・技能】  
 (2)「暮らし/地域及び社会における生活の営み」の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生活を見据えて課題を解決する力を身に付ける。【思考・判断・表現】  
 (3)「暮らし/地域及び社会」の現状や課題、よりよい社会の構築に向け、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を文化向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】  
 以上を踏まえ、「基礎的・基幹的な知識・技能」課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第1章 生活を見直す(p.12～17) 第2章 人生をつくる(p.20～41) 第3章 子どもと共に育つ(p.44～73)	第6章 食生活をつくる(p.104～157) 第7章 衣生活をつくる(p.160～199)

【添削指導(報告課題)】

学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	後期
① 第1章 生活を見直す(p.12～17)	【知識・技能】 ①人生のそれぞれの発達段階における課題や、現代の家族の特徴や機能について理解している。 【思考・判断・表現】 ①生活の営みに必要な金銭・生活時間などの生活資源について理解し、情報の収集・整理の仕方を用いて、情報を適切に整理することができる。 ②どんな自分になりたいか、どんな人生を送りたいか自分らしい生き方を想像するとともに、将来の家庭生活及び職業生活について考察することができる。	1	1・2	○	
② 第2章 人生をつくる(p.20～41)	【知識・技能】 ①近代的な観点から各ライフステージの特徴と課題について理解するとともに、青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解している。 【思考・判断・表現】 ①家族・家の歴史と家族関係、家・家族と法律、家庭生活と福祉などについて理解するとともに、家族・家の意義、家・家族と社会との関わり、家族・家を取り巻く社会環境の変化や課題について考察することができる。 ②どうすれば家族や地域、社会と協力・協働し、豊かな家庭生活や地域社会を創造していくことができるかを考えることができる。	2	3・4	○	
③ 第3章 子どもと共に育つ(p.44～73)	【知識・技能】 ①乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子供の発達に応じて適切に関与するための役割を学習している。 【思考・判断・表現】 ①子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について考察し、理解を深めている。 ②発達特性などの子供に対する配慮の仕方について理解するとともに、社会全体で乳幼児を育むことを支えていくことの重要性について考えることができる。	3	5・6	○	
④ 第4章 超高齢社会と共に生きる(p.76～91)	【知識・技能】 ①高齢者の心身の特性、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の健康と適切に関わるための生活支援に関する技能を学習している。 【思考・判断・表現】 ①高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について考察し、理解を深めている。 ②超高齢社会の現状と課題を学び、どのような高齢者を支えたいか、考えることができる。	4	7・8		
⑤ 第5章 共生に生きる(p.94～99)	【知識・技能】 ①共生を通して、家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 【思考・判断・表現】 ①地域と地域との関わりについて理解するとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共生を築いていくことの意味や価値について理解し、理解を深めている。 ②共に支え合って共生を実現するために、個人や集団がどう行動し、助け合ったらよいのかについて、人々のネットワークや社会的側面、さらにそれを支える社会環境の整備なども関係させて考えている。	5	9・10		
⑥ 第6章 食生活をつくる(p.104～125)	【知識・技能】 ①よりよい食習慣を身に付け、生活を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を営む意識の変化を学習している。 【思考・判断・表現】 ①どうすれば健康に過ごすのか考え、自分が食べている食べ物の献立を見直し、調理する場合には必要に応じて、食生活を取り巻く環境が変化している現状を理解し、食習慣やエネルギー、栄養に配慮した食品の購入、調理、保存などの技能を学習し、安全・健康・環境など広い視野からよりよい食生活について考えることができる。 ②食生活の営むに必要となる食文化・技術や技能を身に付けるために、調理や加工によりおいしく変化することを科学的に捉えることができる。 ③配膳や食事形式のメナージに関心をもち、考えることができる。	6	11・12		
⑦ 第6章 食生活をつくる(p.126～157)	【知識・技能】 ①ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己と家族の食生活の計画・管理を学習する。 【思考・判断・表現】 ①食品の生産や流通・販売の多様性、輸入食品の増大、食料自給率の低下、外食や中食への依存などにより、食生活を取り巻く環境が変化している現状を理解し、食習慣やエネルギー、栄養に配慮した食品の購入、調理、保存などの技能を学習し、安全・健康・環境など広い視野からよりよい食生活について考えることができる。 ②食生活の営むに必要となる食文化・技術や技能を身に付けるために、調理や加工によりおいしく変化することを科学的に捉えることができる。 ③配膳や食事形式のメナージに関心をもち、考えることができる。	7	13・14	○	
⑧ 第7章 衣生活をつくる(p.160～179)	【知識・技能】 ①自分や家族の着るにまつ、社会的・文化的背景や多様な機能や特徴について理解している。 ②繊維(天然繊維、化学繊維)、糸、布の代表的な種類とそれらの特性、性能について、実験や実験データ、デジタル教材等を活用するなどして理解し、適切な素材の選択と取扱いができる。 【思考・判断・表現】 ①繊維の生産や保存方法を科学的に理解し、環境に配慮した衣生活について考え、実践しようとしている。	8	15・16	○	
⑨ 第7章 衣生活をつくる(p.180～199)	【知識・技能】 ①繊維の機能、素材と管理の知識を応用しながら、目的に合った服を制作するために、服が身体の形に合わせてどのように構成されているか理解している。 【思考・判断・表現】 ①現代とつながる日本の伝統文化の工夫を継承し、日本の衣生活の発展や日本の文化に認められる知識や技術について知り、日本の民族衣装としての和装や世界の民族衣装など、服装と人の関わりについて考察し、理解を深めている。 ②2次世代に引き継ぐ衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の観点で自分の衣生活を見直すとともに、全ての人が健康、安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの裾野について考察し、理解を深めている。	9	17・18	○	
⑩ 第8章 住生活をつくる(p.202～225)	【知識・技能】 ①住生活を取り巻く環境、日本と世界の住文化など、住まいと人の関わりについて学ぶ。 ②ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を学習する。 【思考・判断・表現】 ①住居の機能、住空間の計画、住環境などについて科学的に理解し、住生活の文化に関心をもち、ともに、必要な知識と技術を習得して、安全に環境に配慮し、主体的に住生活を営むことができる。	10	19・20		
⑪ 第9章 経済生活をつくる(p.230～251)	【知識・技能】 ①家族の構造について理解するとともに生活における経済と社会との関わりについて学んでいる。 ②生活を見据えた生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、情報の収集・整理することができる。 【思考・判断・表現】 ①収入と支出の管理方法を多様化する中で、契約の重要性について理解を深め、自立した消費者として責任ある消費行動を取らうとしている。 ②収入の増加と消費生活を営むように、経済的自立の重要性や生活を見据えた働き方について考察し、理解を深めている。	11	21・22		
⑫ 第10章 持続可能な生活をおこす(p.252～259) 第11章 これからの生活をつくる(p.262～267)	【知識・技能】 ①生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画する意識を高めていくことができる。 【思考・判断・表現】 ①持続可能な社会を目指して主体的に行動できること、安全で安心な生活と消費及び生活文化について学べる。②ライフスタイルを変えていくことができる。 ③人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について寄り添りながら生活設計ができる。	12	23・24		

学習方法

- 【添削指導(報告課題)】
- 1 クラウドWebキャンパス(報告課題サポート)内の「課題受検(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
  - 2 教科書を見ながら報告課題に取り組む。
  - 3 各目的の添削指導後、疑問点などあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
- 【間接指導(スクリーニング)】
- 1 自主学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学習し理解すること。
  - 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
- 【定期試験】
- 1 実地試験
  - 2 前期(1回)、後期(1回)実施する。
  - 3 出題範囲
- 報告課題の内容を中心とする。

評価方法

添削指導、間接指導及び定期試験に基き、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
情報		情報 I		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書 名		
教科書	東京書籍	情 I 701	新編情報 I			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めている。【知識・技能】</p> <p>(2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用している。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験				学年末試験		
第1章 情報で問題を解決する 第2章 情報を伝える				第4章 データを活用する 第5章 活動して提案する		
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1章 情報で問題を解決する	【知識・技能】 ①知的財産や個人情報の取り扱いを理解し、情報モラルに対する意識が向上している。 【思考・判断・表現】 ①問題解決を行うに際して、プロセスを意識し、情報技術を活用してより良く解決することができる。		1	1・2	○
②	第2章 情報を伝える	【知識・技能】 ①インターネット上でのコミュニケーションの特徴を理解し、適切な情報発信や受け取った情報の信頼性を適切に判断することができる。 【思考・判断・表現】 ①UDなど、情報デザインの活用に触れ、効果的なコミュニケーションの活用方法を習得している。		2	3・4	○
③	第3章 コンピュータを活用する	【知識・技能】 ①アルゴリズムを理解し、問題解決のためのプログラミングの基礎的な技能を習得している。 【思考・判断・表現】 ①コンピュータの構成と処理の仕組みや論理回路を理解し、コンピュータに対して科学的な視点を持って対応することができる。		3	5・6	
④	第4章 データを活用する	【知識・技能】 ①情報セキュリティの基礎的な知識を習得するとともに、サイバー犯罪などの社会問題について理解している。 【思考・判断・表現】 ①インターネットの構成、データ伝送の仕組み、サーバの働きを理解し、ネットワークに対して科学的な視点で考えることができる。		4	7・8	○
⑤	第5章 活動して提案する	【知識・技能】 ①各種ソフトウェアの基本的な活用ができていない(表計算ソフト・Scratch・Pythonなど)。 【思考・判断・表現】 ①職業観を養い、勤労を重んずる態度を身に付けることができる。		5	9・10	○
⑥	<巻末> 各種ソフトウェアの操作 文字・色彩の基礎知識 プログラミングの基礎	【知識・技能】 ①情報に関する幅広い知識を習得している。 【思考・判断・表現】 ①情報技術を活用して、科学的な思考に基づいた表現ができる。		6	11・12	
学 習 方 法						
【添削指導(報告課題)】 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。 【面接指導(スクーリング)】 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。 【定期試験】 1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評 価 方 法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
情報		情報Ⅱ		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる視聴回数 Web(2)	放送視聴(3)	(1)-(2)-(3)			
4	2	0	2			
※規定教科書は、発行者の番号・題名・版数・発行年を記載し、教科書の記号・番号を記載		教科書の記号・番号		書名		
教科書	東京書籍	情Ⅱ701	情報Ⅱ			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めることができる。【知識・技術】</p> <p>(2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
P.1～P.52 実習編 1章 情報社会 2章 コンテンツ 3章 データサイエンス 4章 情報システム			P.76～P.131 論理編 3章 データサイエンス 4章 情報システム 活用編			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	P.1～P.29 実習編 1章 情報社会 2章 コンテンツ	<p>【知識・技術】</p> <p>①情報技術の発展の歴史を踏まえ、情報社会の進展や情報技術の発展によるコミュニケーションの多様化・人への知的活動への影響について理解している。</p> <p>②多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性とその関係について理解し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①情報技術の発展や情報社会の進展を踏まえ、将来の情報技術と情報社会の在り方について考察することができる。</p> <p>②コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツの創造と活用の意義について考察することができる。</p> <p>③人の知的活動が変化する社会における情報システムの創造やデータ活用の意義について考察することができる。</p> <p>④情報デザインに配慮したコンテンツの制作や、コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し、改善することができる。</p>	1	1・2	○	
②	P.30～P.52 実習編 3章 データサイエンス 4章 情報システム	<p>【知識・技術】</p> <p>①多量かつ大量のデータの存在やデータ活用の有用性、データサイエンスが社会に果たす役割について理解し目的に応じた適切なデータの収集と整理・整形について理解し技能を身に付けている。</p> <p>②データに基づく現象のモデル化やデータの処理を行い解釈・表現する方法およびデータ処理の結果をモデル化を評価することについて理解し技能を身に付けている。</p> <p>③情報システムにおける情報の流れや処理の仕組み、情報セキュリティを確保する方法や技術やソフトウェア開発のプロセスとプロジェクト・マネジメントについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①目的に応じて適切なデータを収集し、整理・整形することができる。</p> <p>②将来の現象を予測したり、複数の現象間の関連を明らかにしたりするために、適切なモデル化や処理、解釈・表現を行うことができる。</p> <p>③情報システム及びそれによって提供されるサービスについて、その在り方や社会に果たす役割と及ぼす影響について考察することができる。</p> <p>④情報システムの効率や運用の利便性などに配慮した設計、構成するプログラムの制作と、その過程を評価し、改善することができる。</p>	2	3・4	○	
③	P.53～P.75 論理編 1章 情報社会 2章 コンテンツ	<p>【知識・技術】</p> <p>①情報技術の発展の歴史を踏まえ、情報社会の進展や情報技術の発展によるコミュニケーションの多様化・人への知的活動への影響について理解している。</p> <p>②多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性とその関係について理解し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作することができる。</p> <p>③コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①情報技術の発展や情報社会の進展を踏まえ、将来の情報技術と情報社会の在り方について考察することができる。</p> <p>②コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツの創造と活用の意義について考察することができる。</p> <p>③人の知的活動が変化する社会における情報システムの創造やデータ活用の意義について考察することができる。</p> <p>④情報デザインに配慮したコンテンツの制作や、コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し、改善することができる。</p>	3	5・6		
④	P.76～P.106 論理編 3章 データサイエンス 4章 情報システム	<p>【知識・技術】</p> <p>①情報システムとそれを表現している情報の流れを理解することができる。</p> <p>②情報システムの活用と社会への影響を理解することができる。</p> <p>③情報システムにおける情報の流れや処理の仕組み、情報セキュリティを確保する方法や技術やソフトウェア開発のプロセスとプロジェクト・マネジメントについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①目的に応じて適切なデータを収集し、整理・整形することができる。</p> <p>②将来の現象を予測したり、複数の現象間の関連を明らかにしたりするために、適切なモデル化や処理、解釈・表現を行うことができる。</p> <p>③情報システム及びそれによって提供されるサービスについて、その在り方や社会に果たす役割と及ぼす影響について考察することができる。</p> <p>④情報システムの効率や運用の利便性などに配慮した設計、構成するプログラムの制作と、その過程を評価し、改善することができる。</p>	4	7・8	○	
⑤	P.107～P.131 活用編	<p>【知識・技術】</p> <p>①多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性とその関係について理解し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作することができる。</p> <p>②コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①目的に応じて適切なデータを収集し、整理・整形することができる。</p> <p>②情報デザインに配慮したコンテンツの制作や、コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し、改善することができる。</p>	5	9・10	○	
⑥	P.132～P.151 資料編	<p>【知識・技術】</p> <p>①多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性とその関係について理解し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作することができる。</p> <p>②コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解している。</p> <p>③情報システムにおける情報の流れや処理の仕組み、情報セキュリティを確保する方法や技術やソフトウェア開発のプロセスとプロジェクト・マネジメントについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①目的に応じて適切なデータを収集し、整理・整形することができる。</p> <p>②情報デザインに配慮したコンテンツの制作や、コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し、改善することができる。</p> <p>③情報システムの効率や運用の利便性などに配慮した設計、構成するプログラムの制作と、その過程を評価し、改善することができる。</p>	6	11・12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合的な探究の時間		総合学習 I		1	1	-	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	-	-	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名		教科書の記号・番号			
教科書		第一学習社		書名 現代を知るplus			
副教材等							
学習目標							
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	医療・看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「患者主体の医療」を実現するために重視されている考え方について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・脳死と臓器移植について、日本の現状について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・生活習慣病が増加した背景とその対策について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・「チーム医療」について、実現が求められている背景と、実現のために取り入れられている対策について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・患者のQOL(生活の質)を向上させる方法として考えられる事例を、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「平均寿命と健康寿命の推移(男女別)」(教科書p.81)について、適切にグラフを読み取り、健康寿命を延ばすための対策について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「健康格差」とは何か、その現状について自分なりに調べ、社会全体として求められる取り組みについて自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・科学技術の進展により可能になった医療技術を1つ挙げ、その医療技術を活用することでもたらされる影響と問題点を自分なりに調査してまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、健康長寿社会の実現及び医療技術の進歩に伴う安全面や倫理面に関する諸問題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1		
②							
学習方法							
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</li> <li>2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</li> </ol> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</li> <li>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</li> </ol>							
評価方法							
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。							

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合的な探究の時間		総合学習 I		1	1	-		
面接指導			(1)-(2)-(3)					
規定回数(1)	メディアによる減免回数							
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	-	-	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名					
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験			学年末試験					
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	科学技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化石燃料に代わる代替エネルギーについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・ES細胞とiPS細胞の共通点/異なる点について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・人工知能の発達によって起こると考えられる問題について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・原子力発電の利点と欠点について自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・再生可能エネルギーの現状と課題、普及のための方策について、自分なりに調べて考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・バイオテクノロジーの発達により今後期待されていることについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・ロボットを人間社会のなかで活用している具体的な事例を、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「人工知能(AI)が果たす役割・機能として期待すること」(教科書p.73)について、適切にグラフを読み取り、人工知能の導入が人間の仕事にどのような影響を与えるか、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、再生可能エネルギーの導入及び技術の進歩がもたらす倫理的課題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1			
②								
学習方法								
【添削指導(報告課題)】								
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</li> <li>2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</li> </ol>								
【面接指導(スクーリング)】								
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</li> <li>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</li> </ol>								
評価方法								
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。								

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間		総合学習 I		1	1	-
面接指導			(1)-(2)-(3)			
規定回数(1)	メディアによる減免回数					
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	-	-	2			
教科書	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	第一学習社		現代を知るplus			
副教材等						
学習目標						
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
					前期	後期
①	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs(持続可能な開発目標)とは何か、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・プラスチックごみ削減のために、世界と日本それぞれで進められている対策について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・地球温暖化の原因と、地球温暖化が気候や人々の生活にどのような影響をもたらすかについて正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・パリ協定とは何か、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・循環型社会を実現させるための身近な取り組みについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・地球規模で取り組む必要のある環境問題について1つテーマを絞り、自分なりに調査・分析して、考えられる対策をまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・地球温暖化を防ぐための具体的な対策と、その対策を実現させるために必要なことについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「主要国の発電電力量に占める再生可能エネルギー比率の比較」(p.17)について、適切にグラフを読み取り、日本で再生可能エネルギー導入を進めるための方法について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、持続可能な環境づくりに貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>	1			
②						
学習方法						
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <p>1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。						

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間		総合学習 I		1	1	-
面接指導			(1)-(2)-(3)			
規定回数(1)	メディアによる減免回数					
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	-	-	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	第一学習社		現代を知るplus			
副教材等						
学習目標						
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
					前期	後期
①	教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アクティブ・ラーニング」や「キャリア教育」の導入など、時代の変化に合わせて行われてきた教育の試みについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・「新学習指導要領の導入」「大学入試改革」「英語教育改革」など、現在進められている教育改革について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・教育現場が抱える課題に対して現在行われている取り組みについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大でより深刻化している「教育格差」について、現状とその是正に向けて考えられる対策を、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「不読者の推移」(p.39)について、適切にグラフを読み取り、高校生の読書離れを解決するための方策について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・国際学習到達度調査(PISA)の結果をふまえて、日本の生徒の課題を自分なりに調査・分析し、学力向上のために必要な取り組みについてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・いじめ・不登校や教員の長時間労働問題など、教育現場が抱えている課題を1つ挙げ、グラフなどを用いて自分なりに調査・分析し、考えられる対策をまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、現代の教育現場が抱える諸問題の解決に向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>	1			
②						
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。						

## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合的な探究の時間		総合学習 I		1	1	-		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	-	-	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称 または出版社名		書名				
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験			学年末試験					
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	国際問題・異文化理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文化相対主義」とはどのような考えか、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・外国人が日本で生活するうえで直面している問題について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・現代の国際社会が抱えている問題について、正しい知識を身に付ける。【知識・技能】</li> <li>・異文化理解が求められる背景と、異文化理解を促進させるために必要なことについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「産業別外国人労働者数の推移」(p.25)について、適切にグラフを読み取り、外国人労働者の受け入れに必要な対応について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大がグローバル化に与えた影響について、自分なりに調べてまとめる。【思考・判断・表現】</li> <li>・国際協力として、様々な立場(政府、非政府組織、市民など)からできることを、自分なりに調べてまとめる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、多文化共生社会の形成に貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1			
②								
学習方法								
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <p>1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>								
評価方法								
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。								



## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合的な探究の時間		総合学習 I		1	1	-		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	-	-	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書名					
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験			学年末試験					
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	情報・メディア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「IoT」と「ビッグデータ」について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・個人の情報発信が社会に影響を与えた事例について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・情報社会の進展によりもたらされた利点について、具体的な事例とともに正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・「高校生のネット利用の現状—スマートフォン利用開始により減った時間(複数回答)」(教科書p.65)について、適切にグラフを読み取り、高校生のスマートフォンとの付き合い方について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・情報格差(デジタル・デバイド)について、現状とその是正に向けて考えられる対策について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・SNSの特徴、SNSの利用によるメリット/デメリットについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・インターネットの普及がもたらした問題点について、具体的な事例を調べ、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、今後の情報社会の発展へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1			
②								
学習方法								
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</li> <li>2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</li> </ol> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</li> <li>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</li> </ol>								
評価方法								
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。								

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合的な探究の時間		総合学習 I		1	1	-		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	-	-	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名					
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験			学年末試験					
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	政治・経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民の「政治離れ」が起きた背景について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・司法制度改革が行われるようになった背景と、具体的な改革内容について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・自由貿易を進めることの利点と問題点について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・働き方改革によって、どのように労働環境が改善されているか、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・「衆議院議員総選挙における年代別投票率(抽出)の推移」(教科書p.55)について、適切にグラフを読み取り、若者の投票率を上げるための方法について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・地方選挙で起こっている問題について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・憲法改正について、賛成／反対両方の立場の文献を調査し、それに対する自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大により、日本経済にどのような影響が生じたか、また感染症対策と経済の再生とのバランスをどう取っていったらよいか、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・非正規雇用労働者が抱える問題点とその解決策について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、現代の日本社会が抱える政治・経済に関する諸問題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1			
②								
学習方法								
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</li> <li>2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</li> </ol> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</li> <li>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</li> </ol>								
評価方法								
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。								

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合的な探究の時間		総合学習 I		1	1	-	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数						(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	-	-	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名				
教科書	第一学習社		現代を知るplus				
副教材等							
学習目標							
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期		
①	生活・社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「少子化」の要因、社会に与える影響、日本での取り組みについて正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・日本で起きている様々な格差(経済格差、世代間格差、教育格差、情報格差)と、それぞれの格差が生じた原因について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・日本の自然災害と、「減災」のために必要な取り組みについて正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・食料自給率の低下や食品ロス、ゲノム編集食品の実用化など、食をめぐる問題について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・「日本の総人口および人口構造の推移と見通し」について、適切にグラフを読み取り、人口減少社会に対応するために必要なことについて自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・ダイバーシティの注目など、多様性を認め合う社会の実現に必要なことについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大により、日本社会の格差がどのように変化したか、またその是正に向けて考えられる対策について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・社会不安を増大させてきた事例についてテーマを1つに絞り、自分なりに調査・分析して、考えられる対策をまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・日本人の食のスタイルの変化がもたらした問題点を1つ考え、その対策を自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、現代の日本社会が抱える生活・社会分野の諸問題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>	1				
②							
学習方法							
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <p>1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>							
評価方法							
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。							

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合的な探究の時間		総合学習 I		1	1	-		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	-	-	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名					
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験			学年末試験					
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	日本語・日本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の乱れや変化として取り上げられている事例について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>世界から注目されている日本文化の特徴について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>「タテ社会」「恥の文化」「集団主義」など、日本社会の特徴とされている事柄について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>「とてもすばらしいという意味で『やばい』と言うことがある」(p.33)について、適切にグラフを読み取り、言葉の変化について肯定的意見と否定的意見の両方をふまえて、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大が文化活動に与えた影響とその対応について、海外と日本の違いを自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>海外や外国人から日本社会や日本人はどう見られているかを自分なりに調べ、それに対しての自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、未来の日本文化の形成に貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1			
②								
学習方法								
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <p>1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>								
評価方法								
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。								

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合的な探究の時間		総合学習 I		1	1	-		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	-	-	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名					
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験			学年末試験					
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーマライゼーションの考え方について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・日本の年金制度の仕組み、問題点について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・介護保険制度がスタートした背景について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・共生社会を実現するために、どのような考え方を生かして社会の制度や環境を整備していったらよいか、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・社会にとって「ユニバーサルデザイン」が持つ意義について、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・日本の医療保険制度を維持するためにどのような対策が考えられるか、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「要介護者等との統括別主な介護者の構成割合(2019年)」(p.47)について、適切にグラフを読み取り、介護をめぐる問題を解決するために必要なことについて自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、共生社会の実現に貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1			
②								
学習方法								
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <p>1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>								
評価方法								
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。								

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合的な探究の時間		総合学習		1	1	-		
面接指導			(1)-(2)-(3)					
規定回数(1)	メディアによる減免回数							
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	-	-	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名					
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験			学年末試験					
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	医療・看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「患者主体の医療」を実現するために重視されている考え方について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・脳死と臓器移植について、日本の現状について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・生活習慣病が増加した背景とその対策について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・「チーム医療」について、実現が求められている背景と、実現のために取り入れられている対策について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・患者のQOL(生活の質)を向上させる方法として考えられる事例を、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「平均寿命と健康寿命の推移(男女別)」(教科書p.81)について、適切にグラフを読み取り、健康寿命を延ばすための対策について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「健康格差」とは何か、その現状について自分なりに調べ、社会全体として求められる取り組みについて自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・科学技術の進展により可能になった医療技術を1つ挙げ、その医療技術を活用することでもたらされる影響と問題点を自分なりに調査してまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、健康長寿社会の実現及び医療技術の進歩に伴う安全面や倫理面に関する諸問題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1			
②								
学習方法								
【添削指導(報告課題)】								
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</li> <li>2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</li> </ol>								
【面接指導(スクーリング)】								
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</li> <li>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</li> </ol>								
評価方法								
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。								

## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合的な探究の時間		総合学習		1	1	-	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	-	-	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	第一学習社			現代を知るplus			
副教材等							
学習目標							
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	科学技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化石燃料に代わる代替エネルギーについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・ES細胞とiPS細胞の共通点/異なる点について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・人工知能の発達によって起こると考えられる問題について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・原子力発電の利点と欠点について自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・再生可能エネルギーの現状と課題、普及のための方策について、自分なりに調べて考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・バイオテクノロジーの発達により今後期待されていることについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・ロボットを人間社会のなかで活用している具体的な事例を、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「人工知能(AI)が果たす役割・機能として期待すること」(教科書p.73)について、適切にグラフを読み取り、人工知能の導入が人間の仕事にどのような影響を与えるか、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、再生可能エネルギーの導入及び技術の進歩がもたらす倫理的課題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1		
②							
学習方法							
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</li> <li>添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</li> </ol> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</li> <li>教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</li> </ol>							
評価方法							
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。							

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合的な探究の時間		総合学習		1	1	-		
面接指導			(1)-(2)-(3)					
規定回数(1)	メディアによる減免回数							
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	-	-	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名					
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験			学年末試験					
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs(持続可能な開発目標)とは何か、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・プラスチックごみ削減のために、世界と日本それぞれで進められている対策について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・地球温暖化の原因と、地球温暖化が気候や人々の生活にどのような影響をもたらすかについて正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・パリ協定とは何か、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・循環型社会を実現させるための身近な取り組みについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・地球規模で取り組む必要のある環境問題について1つテーマを絞り、自分なりに調査・分析して、考えられる対策をまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・地球温暖化を防ぐための具体的な対策と、その対策を実現させるために必要なことについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「主要国の発電電力量に占める再生可能エネルギー比率の比較」(p.17)について、適切にグラフを読み取り、日本で再生可能エネルギー導入を進めるための方法について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、持続可能な環境づくりに貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1			
②								
学習方法								
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <p>1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>								
評価方法								
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。								



## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合的な探究の時間		総合学習		1	1	-	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	-	-	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書名				
教科書	第一学習社		現代を知るplus				
副教材等							
学習目標							
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アクティブ・ラーニング」や「キャリア教育」の導入など、時代の変化に合わせて行われてきた教育の試みについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・「新学習指導要領の導入」「大学入試改革」「英語教育改革」など、現在進められている教育改革について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・教育現場が抱える課題に対して現在行われている取り組みについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大でより深刻化している「教育格差」について、現状とその是正に向けて考えられる対策を、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「不読者の推移」(p.39)について、適切にグラフを読み取り、高校生の読書離れを解決するための方策について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・国際学習到達度調査(PISA)の結果をふまえて、日本の生徒の課題を自分なりに調査・分析し、学力向上のために必要な取り組みについてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・いじめ・不登校や教員の長時間労働問題など、教育現場が抱えている課題を1つ挙げ、グラフなどを用いて自分なりに調査・分析し、考えられる対策をまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、現代の教育現場が抱える諸問題の解決に向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1		
②							
学習方法							
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <p>1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>							
評価方法							
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。							

## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合的な探究の時間		総合学習		1	1	-		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	-	-	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称 または出版社名		書名				
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	国際問題・異文化理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文化相対主義」とはどのような考え方が、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・外国人が日本で生活するうえで直面している問題について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・現代の国際社会が抱えている問題について、正しい知識を身に付ける。【知識・技能】</li> <li>・異文化理解が求められる背景と、異文化理解を促進させるために必要なことについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「産業別外国人労働者数の推移」(p.25)について、適切にグラフを読み取り、外国人労働者の受け入れに必要な対応について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大がグローバル化に与えた影響について、自分なりに調べてまとめる。【思考・判断・表現】</li> <li>・国際協力として、様々な立場(政府、非政府組織、市民など)からできることを、自分なりに調べてまとめる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、多文化共生社会の形成に貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1			
②								
学習方法								
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <p>1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>								
評価方法								
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。								

## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合的な探究の時間		総合学習		1	1	-		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	-	-	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書名					
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	情報・メディア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「IoT」と「ビッグデータ」について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・個人の情報発信が社会に影響を与えた事例について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・情報社会の進展によりもたらされた利点について、具体的な事例とともに正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・「高校生のネット利用の現状—スマートフォン利用開始により減った時間(複数回答)」(教科書p.65)について、適切にグラフを読み取り、高校生のスマートフォンとの付き合い方について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・情報格差(デジタル・デバイド)について、現状とその是正に向けて考えられる対策について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・SNSの特徴、SNSの利用によるメリット/デメリットについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・インターネットの普及がもたらした問題点について、具体的な事例を調べ、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、今後の情報社会の発展へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1			
②								
学習方法								
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</li> <li>添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</li> </ol> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</li> <li>教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</li> </ol>								
評価方法								
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。								

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間		総合学習		1	1	-
面接指導			(1)-(2)-(3)			
規定回数(1)	メディアによる減免回数					
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	-	-	2			
教科書	発行者の番号・略称、教科書の記号・番号に記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名		
教科書		第一学習社		現代を知るplus		
副教材等						
学習目標						
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験				学年末試験		
【添削指導(報告課題)】						
学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲		
				前期	後期	
① 政治・経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民の「政治離れ」が起きた背景について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・司法制度改革が行われるようになった背景と、具体的な改革内容について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・自由貿易を進めることの利点と問題点について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・働き方改革によって、どのように労働環境が改善されているか、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・「衆議院議員総選挙における年代別投票率(抽出)の推移」(教科書p.55)について、適切にグラフを読み取り、若者の投票率を上げるための方法について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・地方選挙で起こっている問題について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・憲法改正について、賛成/反対両方の立場の文献を調査し、それに対する自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大により、日本経済にどのような影響が生じたか、また感染症対策と経済の再生とのバランスをどう取っていったらよいか、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・非正規雇用労働者が抱える問題点とその解決策について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、現代の日本社会が抱える政治・経済に関する諸問題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>	1				
②						
学習方法						
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</li> <li>2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</li> </ol> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</li> <li>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</li> </ol>						
評価方法						
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。						

## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合的な探究の時間		総合学習		1	1	-		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	-	-	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名					
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	生活・社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「少子化」の要因、社会に与える影響、日本での取り組みについて正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・日本で起きている様々な格差(経済格差、世代間格差、教育格差、情報格差)と、それぞれの格差が生じた原因について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・日本の自然災害と、「減災」のために必要な取り組みについて正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・食料自給率の低下や食品ロス、ゲノム編集食品の実用化など、食をめぐる問題について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・「日本の総人口および人口構造の推移と見通し」について、適切にグラフを読み取り、人口減少社会に対応するために必要なことについて自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・ダイバーシティの注目など、多様性を認め合う社会の実現に必要なことについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大により、日本社会の格差がどのように変化したが、またその是正に向けて考えられる対策について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・社会不安を増大させてきた事例についてテーマを1つに絞り、自分なりに調査・分析して、考えられる対策をまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・日本人の食のスタイルの変化がもたらした問題点を1つ考え、その対策を自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、現代の日本社会が抱える生活・社会分野の諸問題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1			
②								
学習方法								
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <p>1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>								
評価方法								
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。								

## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合的な探究の時間		総合学習		1	1	-		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	-	-	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名		書名				
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	日本語・日本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の乱れや変化として取り上げられている事例について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・世界から注目されている日本文化の特徴について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・「タテ社会」「恥の文化」「集団主義」など、日本社会の特徴とされている事柄について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・「とても素晴らしいという意味で『やばい』と言うことがある」(p.33)について、適切にグラフを読み取り、言葉の変化について肯定的意見と否定的意見の両方をふまえて、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大が文化活動に与えた影響とその対応について、海外と日本の違いを自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・海外や外国人から日本社会や日本人はどう見られているかを自分なりに調べ、それに対する自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、未来の日本文化の形成に貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1			
②								
学習方法								
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <p>1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>								
評価方法								
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。								

## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合的な探究の時間		総合学習		1	1	-		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
2	-	-	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書名					
教科書	第一学習社		現代を知るplus					
副教材等								
学習目標								
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</p> <p>以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーマライゼーションの考え方について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・日本の年金制度の仕組み、問題点について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・介護保険制度がスタートした背景について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】</li> <li>・共生社会を実現するために、どのような考え方を生かして社会の制度や環境を整備していったらよいか、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・社会にとって「ユニバーサルデザイン」が持つ意義について、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・日本の医療保険制度を維持するためにどのような対策が考えられるか、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・「要介護者等との統柄別主な介護者の構成割合(2019年)」(p.47)について、適切にグラフを読み取り、介護をめぐる問題を解決するために必要なことについて自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> <li>・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、共生社会の実現に貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】</li> </ul>			1			
②								
学習方法								
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <p>1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <p>1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>								
評価方法								
添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。								

**【 2024年度 】 年間指導計画**

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業		ビジネス基礎		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	東法190	商業702	ビジネス基礎			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。【知識・技術】</p> <p>(2)ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
第1章 商業の学習とビジネス 第2章 ビジネスに対する心構え			第4章 企業活動 第5章 身近な地域のビジネス			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1章 商業の学習とビジネス 第2章 ビジネスに対する心構え	<p>『第1章 商業の学習とビジネス』 【知識・技術】 ①商業の学習及びビジネスの概要について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展と関連付けて見いだすことができる。</p> <p>『第2章 ビジネスに対する心構え』 【知識・技術】 ①ビジネスに対する心構えについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスにおいて他者に対応するとともに、情報を入手して活用し、評価・改善することができる。</p>		1	1・2	○
②	第3章 経済と流通 第1節～第2節	<p>【知識・技術】 ①経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案することができる。</p>		2	3・4	○
③	第3章 経済と流通 第3節	<p>【知識・技術】 ①経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案することができる。</p>		3	5・6	
④	第4章 企業活動	<p>【知識・技術】 ①企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案することができる。</p>		4	7・8	○
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技術」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						



【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業		ビジネス・コミュニケーション		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・題名、教科書の記号・番号を記載		教科書の記号・番号		書名		
教科書	7・実教	商業・704	ビジネス・コミュニケーション			
副教材等	-	-	-			

学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。  
 (1)ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。【知識・技術】  
 (2)ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。【思考・判断・表現】  
 (3)ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【主体的に学習に取り組む態度】  
 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
1編 ビジネスとコミュニケーション 1章 企業の組織と意思決定 2編 ビジネスマナー 2章 応対に関するビジネスマナー	3編 ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション 5章 コミュニケーションの役割と思考方法 6章 ビジネスにおけるコミュニケーション 7章 コミュニケーションスキルとビジネススキル

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
					前期	後期
①	1編 ビジネスとコミュニケーション 1章 企業の組織と意思決定	【知識・技術】 ①企業組織と意思決定の流れ、組織の一員として働く心構えを理解している。 ②業務の適切な進め方やスケジュール管理などの重要性を理解している。 ③社会人としての心構えと良好な人間関係を築く必要性や人的ネットワークの構築について理解している。 【思考・判断・表現】 ①上記の身に付けた知識・技術を基に、自身で課題を発見し、他者とコミュニケーションを図ることの意義について考察することができる。	1	1・2	○	
②	2編 ビジネスマナー 2章 応対に関するビジネスマナー	【知識・技術】 ①場面に応じた挨拶やお辞儀、身だしなみ・表情・身のこなしなどを理解している。 ②言葉遣いやコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを理解している。 ③電話対応における適切なコミュニケーションなど様々なビジネスマナーについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①上記の身に付けた知識・技術を基に、場面に応じたビジネスマナーを実践する。その中で、自身のビジネスマナーに対する知識・技術の習得度を理解し、何が不足しているかを発見することができる。	2	3・4	○	
③	2編 ビジネスマナー 3章 交際に関するビジネスマナー 4章 接客に関するビジネスマナー	【知識・技術】 ①コミュニケーションの役割や種類、場面や心遣いなどビジネスについて、コミュニケーションを図ることの重要性を理解している。 ②食事のマナーの基本、料理の種類や立食のスタイルでのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解している。 ③接客に必要な知識や態度について理解している。 【思考・判断・表現】 ①上記の身に付けた知識・技術を基に、場面に応じたビジネスマナーを実践し、自己表現が適切に行われているか考察することができる。	3	5・6		

(裏面に続く)

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
					前期	後期
④	3編 ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション 5章 コミュニケーションの役割と思考方法 6章 ビジネスにおけるコミュニケーション	【知識・技術】 ①ビジネスにおける様々なコミュニケーションの方法や場面に応じた技法について理解する。 ②ディスカッションの方法や意義を理解し、討論する力を身に付ける。 ③ソーシャルメディアによる情報発信の有用性と注意点について理解する。 【思考・判断・表現】 ①上記の身に付けた知識・技術を基に、ビジネスの場面を思考する。その過程において、場面を分析し、適切なコミュニケーションが何であるか検証し、評価・改善を行う。	4	7・8	○	
⑤	3編 ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション 7章 コミュニケーションスキルとビジネススキル	【知識・技術】 ①会議の目的と種類、基本的な進め方や会場設営などについて理解している。 ②ビジネス文書の種類と内容、作成方法、電子メールの利用、はがきや封筒の書き方や郵便物の様々なサービスなどについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①ビジネス文書の作成や様々なサービスについて、上記の身に付けた知識・技術を基にして表現することができる。	5	9・10	○	
⑥	4編 ビジネスと外国語	【知識・技術】 ①企業活動のグローバル化の進展とビジネスシーンで使用する英語について理解している。 ②市場・ビジネスシーンの国際化について理解している。 ③コミュニケーションツールとしての英語について理解している。 【思考・判断・表現】 ①上記の身に付けた知識・技術を基に、企業の海外進出の現状や課題を発見することができる。また、発見した課題にどのような解決策を取ることができるか具体的な事例をあげ検証している。	6	11・12		

学習方法

- 【添削指導(報告課題)】
- 1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
  - 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
  - 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
- 【面接指導(スクーリング)】
- 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
  - 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
- 【定期試験】
- 1 実施回数  
前期に1回、後期に1回実施する。
  - 2 出題範囲  
報告課題の内容を中心とする。

評価方法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技術」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業		マーケティング		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名		
教科書	東京法令出版	商業719	マーケティング			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【知識・技術】</p> <p>(2)マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
<p>指定教科書 p2～p69</p> <p>第1章 現代市場とマーケティング p2～p27</p> <p>第1節 総論①～③ 第2節 マーケティングの歴史と発展</p> <p>第3節 マーケティングの理念①②</p> <p>第4節 市場環境の変化とマーケティング①～⑦</p> <p>第5節 マーケティングのプロセス①～⑨</p> <p>第2章 消費者行動</p> <p>第1節 消費者行動①～④ 第2節 消費者関与</p> <p>第3節 購買意思決定プロセス①～③ 第4節 製品の普及過程</p> <p>第5節 購入後の満足とロイヤリティの形成</p>			<p>指定教科書 p108～p175</p> <p>第4章 製品政策(3節から)</p> <p>第3節 販売計画と販売予測①② 第4節 販売計画の立案</p> <p>第5節 生産計画①② 第6節 仕入計画①～④</p> <p>第7節 在庫管理①～④ 第8節 製品政策の動向</p> <p>第5章 価格政策</p> <p>第1節 価格政策の概要①～⑤ 第2節 価格政策の動向①②</p> <p>第3節 価格に関する法的規制</p> <p>第6章 チャネル政策</p> <p>第1節 チャネル政策の概要①～③ 第2節 チャネルの種類と特徴①～③</p> <p>第3節 チャネル政策の動向①②</p>			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1章 現代市場とマーケティング 第1節 総論①～③ 第2節 マーケティングの歴史と発展 第3節 マーケティングの理念①② 第4節 市場環境の変化とマーケティング①～⑦	【知識・技術】 ①日本における生産・流通・消費の動向、人口動態などマーケティングを取り巻く市場環境の変化について扱い、様々な分野でマーケティングが重要となっている現状について理解を深める。 【思考・判断・表現】 ①企業と顧客との関係、企業による提供価値、社会性といった視点からマーケティングに求められる範囲や考え方が拡大していること、顧客満足の実現や顧客価値の創造などを通じて顧客を創造し続けることの重要性を考察する。		1	1・2	○
②	第1章 現代市場とマーケティング 第5節 マーケティングのプロセス①～⑨ 第2章 消費者行動 第1節 消費者行動①～④ 第2節 消費者関与 第3節 購買意思決定プロセス①～③ 第4節 製品の普及過程 第5節 購入後の満足とロイヤリティの形成	【知識・技術】 ①環境分析、セグメンテーション、標的市場の選定、ポジショニング、マーケティング・ミックスの考え方やマーケティング管理の重要性について扱い、マーケティング計画の立案について理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①競争戦略及び消費者保護や環境問題への対応など企業の社会的責任を踏まえることへの重要性について考察することができる。		2	3・4	○
③	第3章 市場調査 第1節 市場調査の目的と方法①～⑥ 第2節 情報の分析①～③ 第4章 製品政策 第1節 製品政策の概要①～④ 第2節 製品企画①②	【知識・技術】 ①マーケティングにおける様々な市場調査の目的、仮説の構築からその検証までの手順、既存の資料による調査と実態調査の違いを理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①統計的手法を用いた情報の分析方法について扱い、市場調査で得られた情報などに基づいて仮説を立てることができる。		3	5・6	
④	第4章 製品政策 第3節 販売計画と販売予測①② 第4節 販売計画の立案 第5節 生産計画①② 第6節 仕入計画①～④ 第7節 在庫管理①～④ 第8節 製品政策の動向	【知識・技術】 ①製品政策の目的と重要性について扱い、ブランドの考え方、ブランドを構築することの重要性、受容性について扱い、具体的な事例と関連付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①顧客のニーズを解決する手段としての製品企画の立案の方法、アイデアや計画を具体的な製品にする過程を学習し、最適な計画の立案をすることができる。		4	7・8	○
⑤	第5章 価格政策 第1節 価格政策の概要①～⑤ 第2節 価格政策の動向①② 第3節 価格に関する法的規制 第6章 チャネル政策 第1節 チャネル政策の概要①～③ 第2節 チャネルの種類と特徴①～③ 第3節 チャネル政策の動向①②	【知識・技術】 ①価格政策の目的と重要性及び価格に関する法的な規制と法規に基づいて価格政策を立案して実施することの重要性について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①浸透価格、上澄価格、威光価格、端数価格などの価格の種類と目的にあった価格の選定方法、生産・流通・販売に関わるコスト、競合他社との関係、インターネットを活用して消費者が価格を比較することが容易になっていることなど価格決定に影響を及ぼす要因及びコスト志向、需要志向、競争志向、消費者志向の価格決定について考察することができる。		5	9・10	○
⑥	第7章 プロモーション政策 第1節 プロモーション政策の概要①② 第2節 プロモーションの方法①～⑩ 第3節 プロモーション政策の動向 第4節 プロモーションの法的な規制	【知識・技術】 ①チャネル政策の目的と重要性及びチャネル政策を立案し実施する際に販売データを活用することの重要性について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①商圏を踏まえて店舗を立地することの重要性について扱い、具体的な事例を用いて分析し、考察を深めることができる。		6	11・12	
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技術」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
商業		商品開発と流通		2	6	2	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
4	2	0	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	東京法令	商業733	商品開発と流通				
副教材等	-	-	-				
学習目標							
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、商品開発と流通に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【知識・技術】</p> <p>(2)商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに関わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
P4～P43 第1章 商品開発の基本 第1節 商品と商品開発 第2節 商品開発プロセス 第3節 商品開発とブランド 第2章 商品の企画 第1節 環境分析 第2節 開発方針とテーマの決定 第3節 探索的調査 第4節 アイデアの創出と評価 第5節 商品コンセプトの考案 第6節 検証的調査(コンセプト・テスト) 第7節 商品企画書の作成と承認			p68～p109 第3章 商品の開発 商品のネーミングとパッケージの制作・評価 第4節 商品のネーミングとパッケージの制作・評価 第5節 最終試作品テストと商品の完成 第6節 知的財産の登録 第4章 事業計画 第1節 事業計画の立案 第2節 マーケティング計画(価格) 第3節 マーケティング計画(流通経路)				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	教科書(P4～P29) 第1章 商品開発の基本 第1節 商品と商品開発 第2節 商品開発プロセス 第3節 商品開発とブランド 第2章 商品の企画 第1節 環境分析 第2節 開発方針とテーマの決定	【知識・技術】 ①商品や商品開発の考え方、有形財だけでなくサービスや権利なども含めて流通において商品として取引されていることについて理解することができる。 ②商品開発の手順に従って開発を進めるリア型開発、開発過程で商品価値の再発見が行われるノンリア型開発の過程について理解することができる。 ③流通におけるブランド化することの重要性について扱う。 【思考・判断・表現】 ①商品の多様化や顧客のニーズの変化が商品開発に影響を及ぼしていることを具体的な事例などを通して考察し、理解を深めている。			1	1・2	○
②	教科書(P30～P43) 第3節 探索的調査 第4節 アイデアの創出と評価 第5節 商品コンセプトの考案 第6節 検証的調査 (コンセプト・テスト) 第7節 商品企画書の作成と承認	【知識・技術】 ①開発商品の競合状況、消費実態や顧客のニーズ、消費者の生活行動や意識など商品開発に必要な情報の種類とそれを収集する市場調査の方法について理解することができる。 ②ブレインストーミングなどの技法を用いてアイデアを創出する方法について理解することができる。 ③流通の役割について、生活水準の向上や生産の高度化などによる生産と消費の隔たりの拡大と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①商品コンセプトを考案することの重要性及び市場調査などで得られた情報を踏まえることの重要性について扱い、具体的な事例と関連付けて分析し、商品コンセプトを考察することができる。 ②情報技術の進歩に伴う流通の効率化と最適化について、具体的な事例を考察することができる。			2	3・4	○
③	教科書(P50～P67) 第3章 商品の開発 第1節 商品仕様書の作成 第2節 プロダクトデザイン 第3節 試作品の作成と評価	【知識・技術】 ①商品本体、容器、包装などの商品仕様を決定して試作品を作り、評価の項目と基準を設定して試作品や試行結果を評価し、設計と仕様の変更を行う一連の流れについて理解することができる。 ②ビジネスにおけるマーケティングの重要性と基本的な流れについて、具体的な事例と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①商品デザインがマーケティングの中で果たしている役割、配色や構成などデザインに関する知識と技法、商品におけるグラフィックデザインの機能、グラフィックデザインの技法及びコンピュータを活用したデザインの技法を身に付けることができる。			3	5・6	
④	教科書(P68～P87) 第4節 商品のネーミングとパッケージの制作・評価 第5節 最終試作品テストと商品の完成 第6節 知的財産の登録	【知識・技術】 ①商標権、意匠権、著作権の概要とビジネスにおける知的財産の活用について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①商品におけるパッケージの機能、パッケージ資材の種類と特性、パッケージデザインの技法について扱う。さらに、グラフィックデザイン及びパッケージデザインの効果について扱い、具体的な事例と関連付けて分析し、考察することができる。 ②知的財産の保護の重要性について扱い、偽ブランドや偽キャラクター商品など知的財産権の侵害に関する具体的な事例と関連付けて分析し、考察することができる。			4	7・8	○
⑤	教科書(P92～P109) 第4章 事業計画9 第1節 事業計画の立案 第2節 マーケティング計画(価格) 第3節 マーケティング計画(流通経路)	【知識・技術】 ①生産計画、マーケティング計画、財務計画など事業の展開に必要な項目からなる事業計画書の作成について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①競争環境、需要予測、顧客の反応、費用、原価、利益などを踏まえた価格設定の方法について考察し、理解を深めている。 ②流通の動向・課題について、流通経路の多様化や情報システムの変化が流通に影響を及ぼしていることを具体的な事例などを通して考察し、理解を深めることができる。			5	9・10	○
⑥	教科書(P110～P137) 第4節 マーケティング計画(プロモーション) 第5節 事業計画書の作成と検証 第6節 事業計画の実践と修正 第5章 商品開発の動向と課題 第1節 商品開発の動向 第2節 商品開発の課題	【知識・技術】 ①会議で提案することを想定して、具体的な事業計画書を作成してプレゼンテーションを行い、改善を図る学習活動を行うことができる。 ②商品が生産者から消費者にわたる仕組みについて、具体的な商品の事例と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①商品の特性に応じた流通経路の開拓について扱い、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動及び事業計画に基づいた流通経路の開拓の具体的な方策を考察することができる。			6	11・12	
学習方法							
【添削指導(報告課題)】							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</li> <li>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</li> <li>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</li> </ol>							
【面接指導(スクリーニング)】							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</li> <li>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</li> </ol>							
【定期試験】							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</li> <li>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</li> </ol>							
評価方法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技術」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2024年度 】 年間指導計画

教 科 等			科 目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業			ビジネス・マネジメント		2	6	2
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
4	2	0	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載			教科書の記号・番号		書 名		
教科書	東京法令出版	商業707	ビジネス・マネジメント				
副教材等	-	-	-				
学習目標							
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるマネジメントに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解することができる。【知識・技術】  (2) ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】  (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるマネジメントに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】  以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
<p>第1章 ビジネスとマネジメント p2～p29  第1節 マネジメントの役割 第2節 イノベーションの重要性  第3節 創業者や経営者の理念 第4節 ビジネスにおける外部環境の知名度  第2章 組織のマネジメント p32～p53  第1節 組織の形態 第2節 経営理念と経営戦略  第3節 企業間連携と事業構造の再構築</p>				<p>第3章 経営資源のマネジメント p82～p99  第4節 財務的資源のマネジメント 第5節 情報的資源のマネジメント  第4章 企業の秩序と責任 p102～p139  第1節 企業統治(コーポレート・ガバナンス) 第2節 リスク・マネジメント  第3節 企業の社会的責任</p>			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1章 ビジネスとマネジメント 第1節 マネジメントの役割 第2節 イノベーションの重要性 第3節 創業者や経営者の理念 第4節 ビジネスにおける外部環境の知名度	<p>【知識・技術】  ① 企業の発展のためにマネジメントが果たす役割について、日本の伝統的経営が企業の発展にもたらした影響について理解することができる。  【思考・判断・表現】  ① 技術革新、新しい商品や市場の開拓、新しいビジネスの仕組みや経営組織の形成などが企業に新たな利益をもたらすことについて、具体的な事例を用いて分析し、考察することができる。</p>			1	1・2	○
②	第2章 組織のマネジメント 第1節 組織の形態 第2節 経営理念と経営戦略 第3節 企業間連携と事業構造の再構築	<p>【知識・技術】  ① 機能別組織、事業部制組織、マトリックス組織、ライン・アンド・スタッフ組織、カンパニー制組織の形態とその特徴、専門化の原則、権限と責任の一致、統制範囲の適正化、命令の統一性の確保について理解することができる。  【思考・判断・表現】  ① 経営理念及びそれに基づく経営目標、経営方針、経営行動基準、コーポレート・アイデンティティなどの意義について、具体的な事例と関連付けて考察することができる。</p>			2	3・4	○
③	第3章 経営資源のマネジメント 第1節 経営資源の種類と最適化 第2節 人的資源のマネジメント 第3節 物的資源のマネジメント	<p>【知識・技術】  ① 経営資源としての人的資源、物的資源、財務的資源、情報的資源などがあること及び経営資源を最適に組み合わせるための活用について理解することができる。  【思考・判断・表現】  ① 所得税の源泉徴収制度と住民税の特別徴収制度の概要及び医療保険、年金保険、労働保険など社会保険に関する企業の責任と負担について考察することができる。</p>			3	5・6	
④	第3章 経営資源のマネジメント 第4節 財務的資源のマネジメント 第5節 情報的資源のマネジメント	<p>【知識・技術】  ① 効率的な生産方式、調達ルートと販売ルートの確立など商品と施設・設備管理の方法及び物的資源をマネジメントする上での課題について理解することができる。  【思考・判断・表現】  ① 財務管理の考え方、財務的資源をマネジメントする上での課題について学ぶ。また、株式と社債の発行、金融機関からの借入れなど資金調達の方法、様々な金融商品が生み出されている現状、情報技術の進歩に伴う金融サービスなどの変化、金融商品の利点とリスク及び資金の調達と運用の現状・課題について、具体的な事例と関連付けることができる。</p>			4	7・8	○
⑤	第4章 企業の秩序と責任 第1節 企業統治(コーポレート・ガバナンス) 第2節 リスク・マネジメント 第3節 企業の社会的責任	<p>【知識・技術】  ① 環境の保護と保全、持続可能な社会の実現などが企業に求められている現状について、具体的な事例を用いて学ぶとともに、エンカド消費について理解することができる。  【思考・判断・表現】  ① 保険の意義と種類及び火災保険、賠償責任保険など企業において必要とされる各種保険の概要について考察することができる。</p>			5	9・10	○
⑥	第5章 ビジネスの創造と展開 第1節 ビジネスの創造の意義と課題 第2節 プロジェクト管理 第3節 起業の意義と手続き	<p>【知識・技術】  ① 日本におけるビジネスの創造の意義と課題について扱い、具体的な事例を用いて理解することができる。  【思考・判断・表現】  ① プロジェクト管理について、その目的を理解し、リスクの測定、必要な経営資源の見積り、業務の系統化と割り振りを行い、期限や予算など制約条件を考慮してプロジェクトを遂行し、完了させるための計画の立案と実行管理の方法について考察することができる。</p>			6	11・12	
学 習 方 法							
<p>【添削指導(報告課題)】  1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。  2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。  3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p> <p>【面接指導(スクリーニング)】  1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。  2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p> <p>【定期試験】  1 実施回数  前期に1回、後期に1回実施する。  2 出題範囲  報告課題の内容を中心とする。</p>							
評 価 方 法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技術」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
商業		簿記		2	6	2	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
4	2	0	2				
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名				
教科書	東法190	商業710	簿記				
副教材等	-	-	-				
学習目標							
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。【知識・技術】</p> <p>(2)取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
第Ⅰ編 簿記の基本 第Ⅱ編 各種取引の処理 第1章～第8章			第Ⅱ編 各種取引の処理 第1章～第8章 第Ⅵ編 決算(2)				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第Ⅰ編 簿記の基本	<p>【知識・技術】</p> <p>①簿記の原理について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①取引を記録することと決算の意義について、企業活動の展開と関連付けて見だすことができる。</p>			1	1・2	○
②	第Ⅱ編 各種取引の処理 第1章～第8章	<p>【知識・技術】</p> <p>①取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。</p>			2	3・4	○
③	第Ⅱ編 各種取引の処理 第9章～第10章 第Ⅲ編 決算(1)	<p>【知識・技術】</p> <p>①決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。</p>			3	5・6	
④	第Ⅳ編 会計帳簿 第Ⅴ編 特殊な取引	<p>【知識・技術】</p> <p>①取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。</p>			4	7・8	○
⑤	第Ⅵ編 決算(2)	<p>【知識・技術】</p> <p>①決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。</p>			5	9・10	○
⑥	第Ⅶ編 本支店会計 第Ⅷ編 会計ソフトウェア	<p>『本支店会計』</p> <p>【知識・技術】</p> <p>①本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。</p> <p>『会計ソフトウェア』</p> <p>【知識・技術】</p> <p>①記帳の効率化について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。</p>			6	11・12	
学習方法							

**【添削指導(報告課題)】**

- 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
- 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
- 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。

**【面接指導(スクーリング)】**

- 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
- 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

**【定期試験】**

- 1 実施回数  
前期に1回、後期に1回実施する。
- 2 出題範囲  
報告課題の内容を中心とする。

**評価方法**

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技術」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業		情報処理		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		教科書の記号・番号		書名		
教科書	7・実教	商業・715	最新情報処理 Advanced Computing			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1)企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。【知識・技術】</p> <p>(2)企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
1章 企業活動と情報処理 2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 第1節 コンピュータシステムの概要			3章 情報の集計と分析 4章 ビジネス文書の作成			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	1章 企業活動と情報処理	<p>【知識・技術】</p> <p>①情報システムの構成や処理方式の概要を理解している。</p> <p>②日常利用しているさまざまな情報システムに関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができる。</p> <p>③ビジネスにおける情報の役割を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①上記の身に付けた知識・技術を基に、企業活動における情報処理・技術の役割について検証し、自身の考えを発表することができる。</p>		1	1・2	○
②	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要	<p>【知識・技術】</p> <p>①コンピュータの基本的な機能と構成を理解している。</p> <p>②ビジネスに活用できるハードウェアとソフトウェアを適切に構成して、その機能を活用する力を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①上記の身に付けた知識・技術を基に、コンピュータシステムと情報通信ネットワークに関する課題を発見し、適切な情報収集を行い課題解決を行うことができる。</p>		2	3・4	○
③	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 3節 インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保	<p>【知識・技術】</p> <p>①電子メールのマナーなどについて興味を持ち、適切に利用するとともに、危険性などについて理解している。</p> <p>②個人が身に付けるべき方策や様々な問題点などについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①情報技術におけるセキュリティ管理について興味を持ち、対策などを考察することができる。</p> <p>②上記の身に付けた知識・技術を基に、情報セキュリティの重要性を認識し、具体的な事例を関連付け今後の対策を自身の考えを踏まえ発表することができる。</p>		3	5・6	
④	3章 情報の集計と分析	<p>【知識・技術】</p> <p>①情報の重要性について理解している。</p> <p>②グラフの特徴や構成要素を理解し、目的に応じた適切なグラフを作成する力を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①情報を分析して適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができる。</p> <p>②基本的な操作や関数等について理解し、表を作成する技術を身に付けるとともに、適切に表現することができる。</p>		4	7・8	○
⑤	4章 ビジネス文書の作成	<p>【知識・技術】</p> <p>①情報と文書の関係などについて興味を持ち、各種文書の役割や文書の構成要素などについて理解している。</p> <p>②ワードを利用した基本文書の作成に興味を持ち、様々な文書を適切に選択できる力を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①上記の身に付けた知識・技術を基に、表計算ソフトウェアと連携した文書を作成することができる。</p> <p>②とともに、データの差し込み機能などを使用し、自身の身に付けた知識・技術表現することができる。</p>		5	9・10	○
⑥	5章 プレゼンテーション	<p>【知識・技術】</p> <p>①プレゼンテーション活動の意義や役割を理解している。</p> <p>②情報収集や整理、内容構成など、プレゼンテーションの準備から評価改善に至るまでの一連の流れや基礎的な技法を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①上記の身に付けた知識・技術を基に、自身でビジネスの場面を想定し、目的や形態に応じた適切な方法を見いだし、資料作成を行うことができる。</p>		6	11・12	
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクリーニング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技術」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業		ソフトウェア活用		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	東京法令出版	商業737	ソフトウェア活用			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【知識・技術】</p> <p>(2)企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
<p>第一章 表計算ソフトウェアの活用</p> <p>第一節 情報の集計 第二節 情報の分析 第三節 シミュレーション</p> <p>第四節 オペレーションズリサーチ 第五節 手続きの自動化</p> <p>第二章 データベースソフトウェアの活用</p> <p>第一節 データベースの重要性</p> <p>第二節 リレーショナルデータベースの概要と設計</p>			<p>第三章 情報システムの開発</p> <p>第一節 表計算ソフトウェアによる情報システムの開発</p> <p>第二節 データベースソフトウェアによる情報システムの開発</p> <p>第四章 業務処理用ソフトウェアの活用</p> <p>第五章 情報システムの基礎</p> <p>第一節 情報通信ネットワークの導入と運用①</p> <p>①通信手段の変化～③ネットワークの運用</p>			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	前期 後期
①	<p>第一章 表計算ソフトウェアの活用</p> <p>第一節 情報の集計 第二節 情報の分析</p> <p>第三節 シミュレーション</p> <p>第四節 オペレーションズリサーチ</p> <p>第五節 手続きの自動化</p>	<p>【知識・技術】</p> <p>①グループ集計について理解しているとともに、表計算ソフトウェアでグループ集計をするための技術を習得することができる。</p> <p>②さまざまなシミュレーションの形態について理解しているとともに、表計算ソフトウェアでシミュレーションを行うための技術を習得することができる。</p> <p>③効率のよい処理を行うため、繰り返し実行する操作などを自動化するマクロを作成する方法について学習することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①情報の分析に関する知識・技術を活用し、表計算ソフトウェアによって課題を解決しようとするすることができる。</p> <p>②オペレーションズリサーチに関する知識・技術を活用し、表計算ソフトウェアによって課題を解決しようとするすることができる。</p>	1	1・2	○	
②	<p>第二章 データベースソフトウェアの活用</p> <p>第一節 データベースの重要性</p> <p>第二節 リレーショナルデータベースの概要と設計</p>	<p>【知識・技術】</p> <p>①データベースの概要について理解している。データの整合性を保つ技術について理解することができる。</p> <p>②データをもとにリレーショナルデータベースを設計する方法について、正規化などを踏まえて理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①データをもとにリレーショナルデータベースを設計する方法について考えようとするすることができる。</p>	2	3・4	○	
③	<p>第二章 データベースソフトウェアの活用</p> <p>第三節 データベースの作成と操作</p> <p>第四節 手続きの自動化</p>	<p>【知識・技術】</p> <p>①データベースソフトウェアの基本機能について理解することができる。</p> <p>②データベースソフトウェアを使ってデータベースを作成するための技術を身に付けることができる。</p> <p>③データベースソフトウェアにおけるマクロ機能に関する知識・技術を身に付けることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①データベースソフトウェアにおけるマクロ機能によって効率的な処理を行うための方法について考えようとするすることができる。</p>	3	5・6		
④	<p>第三章 情報システムの開発</p> <p>第一節 表計算ソフトウェアによる情報システムの開発</p> <p>第二節 データベースソフトウェアによる情報システムの開発</p>	<p>【知識・技術】</p> <p>①プログラミングとアルゴリズムの概要について理解することができる。</p> <p>②手続きの自動化とユーザーフォームを活用した情報システムの開発を、データベースソフトウェアの実習を通して学習することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①アルゴリズムやマクロ言語によるプログラミング、表計算ソフトウェアの機能などに関する知識・技術を活用して、課題を解決するための情報システムを開発しようとするすることができる。</p>	4	7・8	○	
⑤	<p>第四章 業務処理用ソフトウェアの活用</p> <p>第五章 情報システムの基礎</p> <p>第一節 情報通信ネットワークの導入と運用①</p> <p>①通信手段の変化</p> <p>②ネットワークの導入</p> <p>③ネットワークの運用</p>	<p>【知識・技術】</p> <p>①グループウェアの特徴について理解することができる。</p> <p>②通信手段がどのように変化してきたのか、理解している。ネットワークの導入と運用について理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①グループウェアを用いて、メンバーとのコミュニケーションにおける課題を解決する方法を考えようとするすることができる。</p>	5	9・10	○	
⑥	<p>第五章 情報システムの基礎</p> <p>第一節 情報通信ネットワークの導入と運用②</p> <p>④クラウドコンピューティング</p> <p>⑤安定したシステムの構築</p> <p>第二節 情報資産の保護</p>	<p>【知識・技術】</p> <p>①安定したシステムを構築するための方法について理解することができる。</p> <p>②情報資産を保護するための情報セキュリティについて理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①課題を解決するためにネットワークを活用するための方法について考えようとするすることができる。</p> <p>②どのようにすれば情報資産を保護することができるのか、考えようとするすることができる。</p>	6	11・12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数</p> <p>前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲</p> <p>報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技術」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						



【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業		プログラミング		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※指定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称 または出版社名		教科書の記号・番号		書名
教科書	東京法令出版	商業726	プログラミング			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【知識・技術】</p> <p>(2)企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
<p>指定教科書 P2～P101</p> <p>第1章 情報システムの重要性</p> <p>第2章 ハードウェアとソフトウェア</p> <p>第3章 アルゴリズムの表現技法とデータ構造</p> <p>第4章 手続き型言語のプログラミング</p> <p>第1節 プログラミングの手順</p>			<p>指定教科書 P141～P241</p> <p>第4章 手続き型言語のプログラミング</p> <p>第5章 プログラムと情報システムの開発</p> <p>第1節 情報システム開発の手順と手法</p>			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	前期 後期
①	第1章 情報システムの重要性 第1節 情報システムとプログラム 第2節 情報システムの利用 第2章 ハードウェアとソフトウェア 第1節 ハードウェアの機能と動作 第2節 ソフトウェアの体系と役割	【知識・技術】 ①企業における情報システムの重要性について扱い、情報システムを構築し、企業活動を改善している具体的な事例と関連付けて分析し、考察する力を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①コンピュータ内部の動きについてソフトウェアの実行と関連付けて考察し、ハードウェアが動作するためのソフトウェアの必要性を見いだすことができる。	1	1・2	○	
②	第3章 アルゴリズムの表現技法とデータ構造 第1節 アルゴリズムの表現技法 第2節 データ構造 第4章 手続き型言語のプログラミング 第1節 プログラミングの手順 第2節 データの入出力と演算	【知識・技術】 ①アルゴリズムについて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を処理する手順を見いだし、評価・改善することができる。 ②データの出力、演算、条件判定、繰り返し処理、配列とファイルの利用などを伴うプログラムと情報システムの開発について、プログラム言語の仕様に基づいて扱い、ビジネスに関する課題を設定して企業活動に有用なプログラムと情報システムを開発する力を身に付けることができる。	2	3・4	○	
③	第3節 条件判定と繰り返し	【知識・技術】 ①様々な条件により判定を行い、処理を選択するための技法、一定回数処理を繰り返すための技法及び条件に応じて処理を繰り返すための技法を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ②具体的に想定していないエラーが発生した際に適切な処理を行うための技法を身に付けることができる。	3	5・6		
④	第4節 配列の利用	【知識・技術】 ①実際にプログラムを作成して実行するまでの一連の手順を理解する。 【思考・判断・表現】 ①配列を利用する意義及び配列を利用して、集計、探索、順位付け、内部整理を行うための技法を身に付けることができる。	4	7・8	○	
⑤	第5章 プログラムと情報システムの開発 第1節 情報システム開発の手順と手法 第2節 プロジェクト管理	【知識・技術】 ①プログラムと情報システムの開発について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報システムを開発し、評価・改善することができる。 ②人的資源、物的資源などの確保、費用の見積り、進捗管理などプロジェクト管理の意義と手法を身に付けることができる。	5	9・10	○	
⑥	第5章 プログラムと情報システムの開発 第3節 情報システムの評価と改善 第4章 情報システム開発と法規等 第6章 手続き型言語を用いた情報システムの開発 第1節 情報システムの開発演習① 第2節 情報システムの開発演習② 第7章 オブジェクト指向型言語のプログラミング 第1節 オブジェクト指向型言語 第2節 UMLによる図解表現 第3節 オブジェクト指向型言語を使ったアプリ開発	【知識・技術】 ①アプリケーションソフトウェアの基本的な機能を理解することができる。 ②オブジェクト指向型言語の特徴を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①データの出力、演算、条件判定、繰り返し処理、配列とファイルの利用などを伴うプログラムと情報システムの開発について、オブジェクト指向の考え方を踏まえるとともに、プログラム言語の仕様に基づいて扱い、ビジネスに関する課題を設定して企業活動に有用なプログラムと情報システムを開発する力を身に付けることができる。 ②データの出力、演算、条件判定、繰り返し処理、配列とファイルの利用などを伴うプログラムと情報システムの開発について、オブジェクト指向の考え方を踏まえるとともに、プログラム言語の仕様に基づいて扱い、ビジネスに関する課題を設定して企業活動に有用なプログラムと情報システムを開発する力を身に付けることができる。	6	11・12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクリーニング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数</p> <p>前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲</p> <p>報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技術」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
家庭		フードデザイン		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	実教出版	家庭703	フードデザイン			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【知識・技術】</p> <p>(2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的に取り組む態度を身に付けようとしている。【主体的に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
第1章 食生活と健康 第2章 栄養素のはたらきと食事計画			第3章 食品の特徴・表示・安全 第4章 調理の基本			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	前期 後期
①	第1章 食生活と健康 1節 食事の意義と役割 2節 食ととりまく現状	【知識・技術】 ①望ましい食習慣形成に果たす日常の食生活の重要性について、地域の伝統食や郷土食などの食文化とも関連付けて、食事の意義と役割について理解している。 【思考・判断・表現】 ①食生活の現状と課題についてライフスタイルの多様化やグローバル化などと関連付け、食の安全や地球環境に配慮した食のあり方について考えることができる。	1	1・2	○	
②	第2章 栄養素のはたらきと食事計画 1節 栄養素のはたらき 2節 ライフステージと栄養 3節 食事摂取基準と食事計画	【知識・技術】 ①基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能を理解している。 【思考・判断・表現】 ①乳幼児期から高齢期までのライフステージごとの栄養の特徴、食生活上の留意事項、調理法の工夫などについて、身近な事例と関連付けて考えることができる。	2	3・4	○	
③	第3章 食品の特徴・表示・安全 1節 食品の特徴と性質	【知識・技術】 ①食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解している。 【思考・判断・表現】 ①調理上の性質について、食品の成分が、洗う、浸す、加熱するなどの調理操作によって変化し、食味に影響することや、調理による成分の変化については、無機質やビタミンの損失、色素の変化、酵素による褐変など身近な事例と関連付けて考えることができる。	3	5・6		
④	第3章 食品の特徴・表示・安全 2節 食品の生産と流通 3節 食品の選択と表示 4節 食品の衛生と安全	【知識・技術】 ①食品の生産、流通などの現状については、日本の食料自給率の向上や地産地消について理解している。 【思考・判断・表現】 ①食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示については、関連する各種制度を食品の安全性や食品産業の取組などの点から、目的に応じて適切な選択ができるよう身近な事例と関連付けて考えることができる。	4	7・8	○	
⑤	第4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作	【知識・技術】 ①安全性、栄養、嗜好、心身の健康、文化の伝承などの面から日常食、行事食、応用食など調理に必要な知識と技術を修得している。 【思考・判断・表現】 ①味、香り、色、外観、テクスチャー、温度などに関わっており、切り方、調味、加熱やその他の調理操作が料理のでき上がりに大きく影響することを理解し、適切な調理操作をすることができる。	5	9・10	○	
⑥	第5章 料理様式とテーブルコーディネート 1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート 第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 第7章 食育 1節 食育の意義と推進活動	【知識・技術】 ①目で見て楽しく、食べる人の五感を満足させ、会話のはずむ食卓づくりが大切であり、各季節や行事など、もてなしの時だけでなく普段の食卓づくりにも食卓を演出する必要があることを理解している。 【思考・判断・表現】 ①日本料理、西洋料理及び中国料理などの食器の種類や特徴、盛り付け方などを扱い、料理に応じた適切な選択ができる。	6	11・12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクリーニング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技術」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
情報		情報産業と社会		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行元の番号・題名・教科書の記号・番号を記載		発行元の番号・題名または出版社名		教科書の記号・番号		書名
教科書	実教出版	情報701	情報産業と社会			
副教材等	-	-	-			

学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報産業を通じ、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)情報産業と社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【知識・技術】

(2)情報産業と社会との関わりに関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】

(3)情報技術者に必要とされる情報活用能力の習得を目指して自ら学び、情報社会に主体的かつ協働的に参画し寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験

学年末試験

P.4～P.61

第1章 情報社会の発展と情報産業  
1節 情報社会の発展 2節 現代社会における問題解決  
3節 情報社会の将来と情報産業

第2章 情報産業が果たす役割

1節 情報セキュリティ

P.93～P.143

第3章 情報とコミュニケーション  
1節 情報の表現 2節 ICTを活用したコミュニケーション  
3節 情報の管理

第4章 コンピュータとプログラミング

1節 コンピュータの仕組み

【添削指導(報告課題)】

学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
				前期	後期
① P.4～P.27 第1章 情報社会の発展と情報産業 1節 情報社会の発展 2節 現代社会における問題解決	【知識・技術】 ①情報社会の進展と問題解決の方法、最新の情報と情報技術などについて基礎的な知識と技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①情報社会の進展によって生じている問題を発見し、最新の情報と情報技術などを適切かつ効果的に活用して創造的に解決するための考察ができる。	1	1・2	○	
② P.28～P.61 第1章 情報社会の発展と情報産業 3節 情報社会の将来と情報産業 第2章 情報産業が果たす役割 1節 情報セキュリティ	【知識・技術】 ①将来の情報技術、これからの情報社会のあるべき姿、情報社会が抱える問題を解決するために情報産業が果たすべき役割などについて理解している。 ②情報セキュリティに関する基礎的な知識、自らの社会生活や情報技術者としての職務を遂行する際に求められる業務上の責任及び情報セキュリティ対策やマネジメントなどについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①情報社会の進展によって生じている問題を発見し、最新の情報と情報技術などを適切かつ効果的に活用して創造的に解決するための考察ができる。	2	3・4	○	
③ P.62～P.92 第2章 情報産業が果たす役割 2節 情報産業の役割 3節 情報技術者の責務	【知識・技術】 ①社会生活を支える基礎を担う情報産業の業務内容の重要性について理解している。 【思考・判断・表現】 ①情報社会が抱える課題を解決するために情報産業が果たすべき役割、情報産業が抱えている課題などについて考察し、理解を深めている。 ②情報や情報技術が果たしている役割を理解し、情報技術者として求められる資質・能力について考察し、理解を深めている。	3	5・6		
④ P.93～P.117 第3章 情報とコミュニケーション 1節 情報の表現 2節 ICTを活用したコミュニケーション	【知識・技術】 ①情報の表現における多様な技術や技法などの基礎的な知識を理解している。 ②コミュニケーションに活用される多様な情報技術や技法及び情報を管理するために必要となる基礎的な知識と技術を理解し、身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①情報を適切に活用することの必要性や重要性、望ましいコミュニケーションを図るために必要な力について考察することができる。 ②対象や目的に応じて表現することの重要性を理解している。 ③情報の表現や管理に関する課題を発見し、コンテンツ、メディア、ドキュメント及びこれを管理する方法などを活用して創造的に解決するための考察ができる。	4	7・8		○
⑤ P.118～P.143 第3章 情報とコミュニケーション 3節 情報の管理 第4章 コンピュータとプログラミング 1節 コンピュータの仕組み	【知識・技術】 ①情報の共有や情報を整理・分類するなど、情報を管理するために必要となる基礎的な知識を身に付けている。 ②コンピュータやデータベース及びネットワークシステムの仕組みについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①コンピュータやネットワーク及びプログラミングに関する課題を発見し、情報技術を活用することで創造的に解決するための考察ができる。	5	9・10		○
⑥ P.144～P.182 第4章 コンピュータとプログラミング 2節 アルゴリズムとプログラミング 3節 ネットワークの活用	【知識・技術】 ①コンピュータやデータベース及びネットワークシステムの仕組みについて理解するとともに、情報社会を支えているアルゴリズムやプログラミングに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。 ②アルゴリズムとプログラムの作成過程について体系的・系統的に取り上げ、データ構造、アルゴリズム、モデル化やシミュレーションに関する基礎的な知識、プログラミングの有用性や重要性、課題解決のためにコンピュータを有効に活用する力を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①コンピュータやネットワーク及びプログラミングに関する課題を発見し、情報技術を活用することで創造的に解決するための考察ができる。	6	11・12		

学習方法

【添削指導(報告課題)】

- 1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
- 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
- 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。

【面接指導(スクーリング)】

- 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
- 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

【定期試験】

- 1 実施回数  
前期に1回、後期に1回実施する。
- 2 出題範囲  
報告課題の内容を中心とする。

評価方法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技術」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
情報		情報の表現と管理		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	実教	702	情報の表現と管理			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を行うことなどを通して、情報産業の維持と発展を支える情報の表現と管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1)情報の表現と管理について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。【知識・技術】</p> <p>(2)情報の表現と管理に関する課題を携わる者として合理的かつ創造的に解決することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)適切な情報の表現と管理を目指して自ら学び、情報産業の維持と発展に必要な情報の表現と管理に主体的かつ協働的に取り組む態度を理解しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
第1章 情報社会と情報の表現 第1節 メディアと情報の表現 第2節 情報社会における情報の表現 第2章 メディアの特性とその表現 第1節 文字・図解による表現 第2節 音による表現			第2章 メディアの特性とその表現 第5節 データサイエンスとデータの表現 第6節 情報の発信 第7節 コミュニケーションの基礎			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1章 情報社会と情報の表現 第1節 メディアと情報の表現 第2節 情報社会における情報の表現	【知識・技術】 ①情報社会における情報の表現することの重要性を取り上げ、表現の多様性や社会への影響、どのような情報が、どのようなメディアによって、どのように表現され、やりとりされているかについて自己の経験と関連付けて扱うことができる。 【思考・判断・表現】 ①携帯情報端末が普及し、コミュニケーション手段や表現手段が多様化していること、携帯情報端末の特徴として小型化、個別化及び移動性の高さなどがあること、携帯情報端末のカメラや各種センサなどの機能を生かした情報の表現方法などについて理解することができる。		1	1-2	○
②	第2章 メディアの特性とその表現 第1節 文字・図解による表現 第2節 音による表現	【知識・技術】 ①様々な条件、目的によって用いられる文字、音・音楽、静止画、動画などのメディアの特性や役割を取り上げ、情報の構造や順序を整理すること、図解して表現すること、コンピュータやソフトウェアを活用した音や静止画及び動画のデジタル化と編集、目的に応じた書体の選択などの情報を表現するための知識と技術を理解している。 【思考・判断・表現】 ①文字のデジタルデータは、利用者の特性や機器に応じて文字サイズやレイアウトを可変的に表現できること、図形においては言語や文章を使わずに情報を表現、伝達するピクトグラムを扱い表現することができる。		2	3-4	○
③	第2章 メディアの特性とその表現 第3節 静止画による表現 第2節 動画による表現	【知識・技術】 ①静止画、動画などのメディアの特性と役割、効果的な表現について理解している。 【思考・判断・表現】 ①生徒や地域の実態及び学科の特色等に応じ、静止画、動画では写真や映像作品の制作をはじめ、色彩の特性、コンピュータグラフィックスやアニメーション、3Dモデルの作成、音・音楽では効果音の特性、合成音声などを含むコンピュータを用いた音楽などを扱い表現することができる。		3	5-6	
④	第2章 メディアの特性とその表現 第5節 データサイエンスとデータの表現	【知識・技術】 ①データから有益な情報を見いだしたり、主張の根拠を示したり、可視化して分かりやすく表現するためのデータ活用の有用性を取り上げ、データの収集、整理、整形、分析、解釈、表現などの基礎的な知識と技術、可視化、集計、要約、モデル化、予測などのデータサイエンスの手法を理解している。 ②情報産業や社会において、多様かつ大量のデータから異なる事象の関連性を見いだしたり、将来を測りたりするなど、データ活用の重要性が増していることについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①大学や企業などと連携し、実際の業務や研究にデータがどのように活用されているかに触れたり、自治体や各種団体から公開されている統計データなどを活用したりするなど、実践的・体験的な学習活動を行うことができる。		4	7-8	○
⑤	第2章 メディアの特性とその表現 第6節 情報の発信 第7節 コミュニケーションの基礎	【知識・技術】 ①ブレインストーミングなどの発想法や情報を整理する方法について取り上げ、個人やグループの考えをまとめる方法、目的や対象を意識して情報を発信したり、コミュニケーションしたりするための基礎的な知識と技術を習得することができる。 【思考・判断・表現】 ①プレゼンテーションを取り上げ、資料の作成や提示、発表や質疑応答の技法について扱う。その際、発表内容を構成する際に演繹法や帰納法に触れるなど論理的に考えたり、プレゼンテーション後に、自己評価や相互評価を行い、感想や評価を集め分析したりするなど、準備、振り返り及び改善に向けた学習活動を行うことができる。		5	9-10	○
⑥	第3章 情報の管理 第1節 情報の管理とドキュメンテーション 第2節 コンピュータによる情報の管理と活用 第3節 情報の保護とセキュリティ	【知識・技術】 ①不適切な情報発信、情報流出の問題について取り上げ、組織的、体系的な情報管理の重要性について学ぶ。情報セキュリティマネジメント、情報の管理に関する法規、情報のバックアップや暗号化の基礎的な知識などから、情報を安全かつ適正に管理、共有、活用する方法について扱う。個人における情報管理の重要性に加え、産業においては不適切な情報の管理は金銭や信用などを失い、組織としての責任を問われることについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①適切に情報を整理し管理するドキュメンテーションについて学ぶ。情報産業で作成、管理される様々なドキュメントとして、通知文、企画書、報告書及び仕様書などについて取り上げ、それぞれのドキュメントの作成方法について扱う。その際、規程などがある場合にはそれに則って、必要な情報を整理し分かりやすく作成することに留意することができる。 ②コンピュータを使ってドキュメントを有効かつ適正に管理し、活用するための手法を取り上げ、情報の構造を考慮したフォルダ構成や階層化、ファイルの命名規則や分類規則、パージョン管理、ネットワーク上の情報共有などについて学ぶ。その際、コンピュータを用いた適切な情報の管理が情報を活用するために有効であることを体系的に理解することができる。		6	11-12	
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクリーニング)】						
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技術」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
情報		情報デザイン		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名		
教科書	実教出版	情報705	情報デザイン			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報デザインの構築に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)情報伝達やコミュニケーションと情報デザインとの関係について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【知識・技術】</p> <p>(2)情報デザインの手法、構成、活用に関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)情報デザインによる効果的な情報伝達やコミュニケーションの実現を目指して自ら学び、コンテンツやユーザーインタフェースのデザインなどの構築に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
P.5～P.43 第1章 デザイン・情報・造形の基礎 第1節 デザインって何だろう A・B・C 第2節 何をデザインするのか A・B 第2章 デザインと表現 第1節 デザインの造形要素 A・B			P.68～P.111 第2章 デザインと表現 A・B 第3節 造形要素の構成 A・B 第3章 デザインの実際 第1節 デザインの検討 A・B・C			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	P.5～P.25 第1章 デザイン・情報・造形の基礎 第1節 デザインって何だろう A・B・C 第2節 何をデザインするのか A	【知識・技術】 ①社会における情報デザインの役割と対象について理解し、情報デザインの考え方を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①社会における情報伝達やコミュニケーションについての課題を発見し、情報デザインの考え方を活用して創造的に解決するための考察ができる。		1	1・2	○
②	P.26～P.43 第1章 デザイン・情報・造形の基礎 第2節 何をデザインするのか B 第2章 デザインと表現 第1節 デザインの造形要素 A・B	【知識・技術】 ①形態や色彩の特性について理解するとともに、それらを情報デザインに活用するための技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①社会における情報伝達やコミュニケーションについての課題を発見し、情報デザインの考え方を活用して創造的に解決するための考察ができる。 ②利用者への情報の提示や行動の誘導における課題を発見し、形態や色彩が人間の心理に与える影響を利用して創造的に解決するための考察ができる。		2	3・4	○
③	P.44～P.67 第2章 デザインと表現 第1節 デザインの造形要素 C 第2節 観察と表現 A・B	【知識・技術】 ①形態や色彩の特性について理解するとともに、それらを情報デザインに活用するための技術を身に付けることができる。 ②対象を観察する方法、観察の結果を表現するときの考え方、造形するための手法を理解している。 【思考・判断・表現】 ①利用者への情報の提示や行動の誘導における課題を発見し、形態や色彩が人間の心理に与える影響を利用して創造的に解決するための考察ができる。 ②観察の方法、表現するときの考え方、造形の手法の選択について考察することや同じ対象を観察した上で別のデザインを考えることなど、対象の観察を基に情報デザインを考察することができる。		3	5・6	
④	P.68～P.84 第2章 デザインと表現 第3節 造形要素の構成 A・B	【知識・技術】 ①情報デザインを具体化する一連の手順について理解するとともに、情報の収集、整理、構造化の方法を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①収集した情報から情報デザインによって解決すべき課題を発見し、目的を明確にして創造的にコンセプトを考え、情報デザインを構築するための考察ができる。 ②情報を観点別に整理し、その関係性を読み取り、組み合わせ構造化することができる。		4	7・8	○
⑤	P.85～P.111 第3章 デザインの実際 第1節 デザインの検討 A・B・C	【知識・技術】 ①情報デザインを具体化する一連の手順について理解するとともに、情報の収集、整理、構造化の方法を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①収集した情報から情報デザインによって解決すべき課題を発見し、目的を明確にして創造的にコンセプトを考え、情報デザインを構築するための考察ができる。		5	9・10	○
⑥	P.112～P.157 第3章 デザインの実際 第2節 デザインの活用 A・B・C 総合演習1 情報の理解を助けるデザイン 総合演習2 シヨップをデザインする 資料 空想デザイン会社	【知識・技術】 ①情報産業における情報デザインの役割について理解するとともに、具体的な情報デザインを構築するための総合的な技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①地域や社会における情報伝達やコミュニケーションの具体的な課題を発見し、情報デザインについての総合的な実践力を活用して創造的に解決するための考察ができる。		6	11・12	
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</li> <li>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</li> <li>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</li> </ol>						
【面接指導(スクーリング)】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</li> <li>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</li> </ol>						
【定期試験】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</li> <li>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</li> </ol>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技術」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
理数		動物看護学		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書 名			
教科書	緑書房		ビジュアルで学ぶ 動物看護学「第2版」臨床につなげる基礎知識			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>獣医師と連携して動物を看護する動物医療の実践能力を身に付けるため、動物に関する幅広い基礎知識を次のとおり育成する事を目指す。</p> <p>(1)社会との関連を図りながら、動物の生態や病気・感染症や減菌法・消毒法や、動物の保護管理方法などを理解している。【知識・技能】</p> <p>(2)実際に生態に触れ、観察し、科学的に探究する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上(1)から(3)を踏まえ、生徒の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成する事を目指す。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験				学年末試験		
第1章-2 運動器系(骨格と筋肉)(p20~p39) 第1章-4 感覚器系(舌)(p50) 第1章-4 感覚器系(耳)(p51) 第1章-4 感覚器系(眼)(p57~p65)				第2章-1 感染症の基礎と予防(p180~p187) 第2章-2 感染症①ウイルス(p188~p193) 第2章-2 感染症②細菌・真菌(p194~p195) 第2章-2 感染症③寄生虫(p196~p211) 第3章-1 栄養学(p220~p238)		
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1章-2 運動器系(骨格と筋肉)(p20~p39)	【知識・技能】 ①犬の骨格と筋肉のしくみとはたらきを理解している。 ②代表的な疾患についての原因を理解し、観察と予防法・対処法について理解している。 【思考・判断・表現】 ①生態の観察を通して探究し、犬種によって起こりやすい運動器系・整形外科疾患を見いだして表現することができる。		1	1・2	○
②	第1章-4 感覚器系(舌)(p50) 第1章-4 感覚器系(耳)(p51) 第1章-4 感覚器系(眼)(p57~p65)	【知識・技能】 ①舌、耳、眼のしくみとはたらきをそれぞれ学び、人間と犬の感覚器の違いを理解している。 【思考・判断・表現】 ①感覚器に起こる代表的な疾患についての原因、対処法を理解し、予防法を考え表現することができる。		2	3・4	○
③	第1章-5 循環器系(心臓、血液循環)(p66~p74) 第1章-5 循環器系(リンパ循環、胸腺)(p75~p78)	【知識・技能】 ①心臓、血液循環、リンパ循環、胸腺のしくみとはたらきを理解している。 ②循環器に起こる代表的な疾患についての原因、対処法・予防法を理解している。 【思考・判断・表現】 ①循環器に起こる代表的な疾患についての検査を学び、生態に触れ一般身体検査を行い、犬の健康状態を知り、表現することができる。		3	5・6	
④	第2章-1 感染症の基礎と予防(p180~p187) 第2章-2 感染症①ウイルス(p188~p193) 第2章-2 感染症②細菌・真菌(p194~p195) 第2章-2 感染症③寄生虫(p196~p211)	【知識・技能】 ①感染源、感染症の検査、しくみを理解するとともに、犬・猫それぞれのウイルス感染症を学び、それらの感染ルートや検査、管理方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ①減菌と消毒の方法とそれぞれの利点・欠点を理解し、状況に応じて適切な判断をすることができる。		4	7・8	○
⑤	第3章-1 栄養学(p220~p238)	【知識・技能】 ①栄養素のはたらきと摂取源を理解するとともに、犬・猫の栄養状態の評価法(ボディコンディションスコア)を理解している。 【思考・判断・表現】 ①ペットフードの種類や犬・猫にとっての有害な食事・成分を理解し、ライフステージや疾患別の食事の特徴を表現することができる。		5	9・10	○
⑥	第3章-2 行動管理・健康管理学(p240~p253)	【知識・技能】 ①犬・猫の祖先や年齢、行動発達やコミュニケーションを理解している。 【思考・判断・表現】 ①動物の学習のしくみを理解し、誘導法やクリックカー等を活用してしつけ・トレーニングをすることができる。 ①平常時の体温、心拍数、脈拍数、呼吸数を把握し、生態を観察し健康チェックをすることができる。		6	11・12	
学習方法						

**【添削指導(報告課題)】**

- 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
- 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
- 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。

**【面接指導(スクーリング)】**

- 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
- 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

**【定期試験】**

- 1 実施回数  
前期に1回、後期に1回実施する。
- 2 出題範囲  
報告課題の内容を中心とする。

**評価方法**

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
理数		海洋学		2	6	2		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
4	2	0	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名		教科書の記号・番号		書名		
教科書		講談社 サイエンスフィク		生物海洋学入門第2版				
副教材等		-		-				
学習目標								
<p>水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、海洋生物を水産業や海洋関連産業において活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 海洋生物について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2) 海洋生物を取り巻く課題を発見し、海洋生物に関わる者として合理的かつ創造的に解決することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 水産資源の管理や有効利用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
第1章 はじめに(p1~p12) 第2章 非生物的環境(p13~p28) 第3章 植物プランクトンと一次生産(p29~p53) 第4章 動物プランクトン(p54~p84)				第6章 ネクトンと水産海洋学(p113~p136) 第7章 底生生物(ベントス)(p138~p153) 第8章 底生生物群集(p154~p194) 第9章 海洋生物相への人間の影響(p195~p208)				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	第1章 はじめに(p1~p12) 第2章 非生物的環境(p13~p28)	【知識・技能】 ①すべての生物門は海に起源があり、現在でも陸よりも海の方が生物門数が多いことから、生物の共通性と多様性について理解している。 ②海洋環境(光、温度、圧力など)について理解し、環境要因の鉛直勾配により、環境特性の異なる深度帯が形成されることを理解している。 【思考・判断・表現】 ①海流の形成について、観察、実験などを通して探究し、海洋が持つ特性について見いだして表現することができる。			1	1・2	○	
②	第3章 植物プランクトンと一次生産(p29~p53)	【知識・技能】 ①海洋の植物プランクトン群集は、多様な藻類グループで構成されており、独立栄養を営み、海洋食物連鎖の起点になっていることを理解している。 ②植物プランクトン生産の鉛直分布が季節や緯度によって異なることを理解している。 【思考・判断・表現】 ①植物プランクトンの特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な植物プランクトンがもつ共通の特徴を見いだして表現することができる。			2	3・4	○	
③	第4章 動物プランクトン(p54~p84)	【知識・技能】 ①海洋動物プランクトン群集には、微視的な小型の原生動物から数メートルにも達する大型の種類まで存在することを理解するとともに、浮遊生活の2様式について理解している。 【思考・判断・表現】 ①固有の幼生名を持つ一時プランクトンの特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な幼生がもつ共通の特徴を見いだして表現することができる。			3	5・6		
④	第6章 ネクトンと水産海洋学(p113~p136)	【知識・技能】 ①多様な種から構成されるネクトンについて、その共通性と多様性について理解している。 ②海産哺乳類である鯨類、鳍脚類、海牛類について、その特徴と現状について理解している。 ③深海魚類について、浅海魚類との比較を通じ、その特徴と共通性について理解している。 【思考・判断・表現】 ①水産業と海洋生物について、漁業管理の観点から課題を見いだして、提案することができる。			4	7・8	○	
⑤	第7章 底生生物(ベントス)(p138~p153) 第8章 底生生物群集(p154~p194)	【知識・技能】 ①水柱に比べ物理的条件で多様性に富んでいる底生環境における海洋生物について、底生植物・底生動物それぞれの特徴を理解している。 ②底生生物群集について、その特徴と多様性について理解している。 【思考・判断・表現】 ①底生生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な底生生物がもつ共通の特徴を見いだして表現することができる。			5	9・10	○	
⑥	第9章 海洋生物相への人間の影響(p195~p208)	【知識・技術】 ①海洋環境に対するヒトの産業活動の影響について理解している。 【思考・判断・表現】 ①海洋環境について、観察、実験などを通して探究し、今後の海洋利用について表現することができる。			6	11・12		
学習方法								



**【添削指導(報告課題)】**

- 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
- 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
- 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。

**【面接指導(スクーリング)】**

- 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
- 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

**【定期試験】**

- 1 実施回数  
前期に1回、後期に1回実施する。
- 2 出題範囲  
報告課題の内容を中心とする。

**評価方法**

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
理数科		ロボット数学 I		2	6	2	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
4	2	0	2				
※検定教科書は、発行者の番号・題名、教科書の記号・番号を記載 発行者の番号・題名または出版社名 教科書の記号・番号				書名			
教科書	※クラウド作成の①パワーポイント、②テキスト(ロボット数学 I)						
副教材等	-						
学習目標							
<p>数学・理科・プログラミングに関する見方・考え方を働かせ、問題の発見・解決に向けてこれらの知識・技術を適切かつ効果的に活用し、主体的に社会に参画するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 数学を学ぶ意味や目的、また数学の有用性についてをロボットを目的合わせて動かすための数学的思考やそのプログラミングを通して深めることができる【知識・技能】  (2) 数学と理科の横断的な学びを通して様々な事象とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて数学・理科を適切かつ効果的に活用することができる【思考・判断・表現】  (3) 課題解決のために、ロボットを動かす数学・理科・プログラミングの知識・技術を適切かつ効果的に活用しようとしている【主体的に学習に取り組む態度】  以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
単元1:移動ロボットを動かす(数直線・正負の数・1次関数) 単元2:ロボットシュート(1次関数、媒介変数) 単元3:色でボールを見つける(光の三原色・1次不等式)			単元6:2次関数とロボットの運動軌道生成(2次関数) 単元7:棒を倒さないロボットの移動(力と運動・2次関数) 単元8:イライラ棒(絶対値を含む不等式) 単元9:滑らかな軌道生成(2次関数)				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	単元1:移動ロボットを動かす 単元2:ロボットシュート	『単元1』 【知識・技能】 ①数直線、正負の数、文字式、座標系、1次関数について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ②1次関数を関連させて座標平面上を動くロボットを表現することができる。 『単元2』 【知識・技能】 ①1次関数、媒介変数について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ②ロボットシュートについて数学・物理学を関連させて表現することができる。			1	1・2	○
②	単元3:色でボールを見つける	『単元3』 【知識・技能】 ①不等式の解法を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①光の三原色とロボットの視覚を、RGBと不等式を用いて正確に表現することができる。			2	3・4	○
③	単元4:ロボットの衝突 単元5:ロボットに多角形を描かす	『単元4』 【知識・技能】 ①連立方程式、2点間の距離について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①2点間の距離を関連させてロボットの衝突を表現することができる。 『単元5』 【知識・技能】 ①実数、原点からの距離、三角比と回転角度について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①回転角度を関連させてロボットを正多角形に動かす指示を表現することができる。			3	5・6	
④	単元6:2次関数とロボットの運動軌道生成 単元7:棒を倒さないロボット移動 単元8:イライラ棒	『単元6』 【知識・技能】 ①1次関数、2次関数について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①2次関数を関連させてロボットの動きから等加速度直線運動を表現することができる。 『単元7』 【知識・技能】 ①力と運動について理解する。 【思考・判断・表現】 ①物理学を関連させて実社会でのロボットの運動を表現することができる。 『単元8』 【知識・技能】 ①絶対値と不等式、関数について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①領域を絶対値を用いた不等式と関連させてイライラ棒を表現することができる。			4	7・8	○
⑤	単元9:滑らかな軌道生成	『単元9』 【知識・技能】 ①2次関数の決定について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①滑らかな軌道生成と2次関数を関連させて、障害物が動く軌跡・ロボットが運んだものが描く軌跡を表現することができる。			5	9・10	○
⑥	単元10:パレタイジング作業	『単元10』 【知識・技能】 ①2次関数の最大値・最小値について理解することができる。 ②2次不等式の解法を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①慣性の法則と2次関数を関連させて、パレタイジング作業における滑らかな曲線で軌道を表現することができる。			6	11・12	
学習方法							
【添削指導(報告課題)】							
1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 名前の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。							
【面接指導(スクーリング)】							
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。							
【定期試験】							
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。							
評価方法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
体育		スポーツ概論		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・題名、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・題名または出版社		教科書の記号・番号		書名
教科書	第一学習社	保体703 保体704	高等学校 保健体育 Textbook 高等学校 保健体育 Activity			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。【知識・技能】</p> <p>(2) スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
第1章第1～3節(教科書p.6～23) 第1章第4～5節、第2章第1節(教科書p.26～51)			第3章第2節、第4章第1節(教科書p.78～101) 第4章第2節、第5章(教科書p.102～133)			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	第1章第1～3節(教科書p.6～23)	<p>【知識・技能】</p> <p>①健康的な食生活のための栄養素の働きや食事摂取基準について、正しく理解することができる。</p> <p>②健康を保持・増進するとともに、生活習慣病を予防するために、基本的な生活習慣である「食事」の意義や役割についての理解を深める。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①生活習慣病とのかかわり、健康的な生活習慣としての「食事」のあり方を考えることができる。</p> <p>②食事の重要性を理解し、「食べること」の意義や食事の文化について調べることができる。</p>	1	1・2	○	
②	第1章第4～5節 第2章第1節(教科書p.26～51)	<p>【知識・技能】</p> <p>①人間の行動や精神活動などの全てをコントロールしている、脳・神経系・内分泌系の各部の働きについての理解を深める。</p> <p>②脳の各部の働きによる行動、精神活動に関する正しい知識をもつことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①自らの行動と、そのときの脳の働きについて、関連づけて考えることができる。</p> <p>②脳を中心とした身体の機能調節についての情報を積極的に収集し、学習することができる。</p>	2	3・4	○	
③	第2章第2節 第3章 第1節(教科書p.52～77)	<p>【知識・技能】</p> <p>①心肺蘇生法の手法について、正しい知識と技能を身に付けることができる。</p> <p>②日常おこるけがなどに対する手当の方法について知るとともに、熱中症への対策・予防についての理解を深める。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①傷病者を救命するために行う胸骨圧迫・AEDの使用法・気道の確保・人工呼吸について、実習などを通じて確実に身に付けようとするができる。</p> <p>②けがの状態に応じた応急手当の手法について、自らが経験したことなどと照らし合わせて、積極的に学習できる。</p>	3	5・6		
④	第3章第2節、第4章第1節(教科書p.78～101)	<p>【知識・技能】</p> <p>①食品による健康被害の種類を知り、このような被害を防止するために行われている施策についての理解を深める。</p> <p>②食品による健康被害と、その予防のために行われている対策について、正しい知識をもつことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①自らの食生活において、健康被害に遭わないために必要な行動を、適切に選択することができる。</p> <p>②食品によって起こる健康被害や、防止のための対策などについて、積極的に調べることができる。</p>	4	7・8	○	
⑤	第4章第2節 第5章(教科書p.102～133)	<p>【知識・技能】</p> <p>①世界でのスポーツの歴史を知るとともに、わが国から世界に普及し、発展しているスポーツがあることについての理解を深める。</p> <p>②スポーツに対する考え方の変化を知るとともに、スポーツも時代とともに変わり続けており、その変化には様々な功罪もあることについての理解を深める。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①現在、自らが行ったことのあるスポーツについて調べるなど、身近なものとして考えることができる。</p> <p>②現代社会におけるスポーツの捉えられ方や、スポーツの発展、スポーツ環境の変化などについての情報を積極的に収集できる。</p>	5	9・10	○	
⑥	第6章、第7章(教科書p.138～163)	<p>【知識・技能】</p> <p>①運動技能の上達のためには、客観的な評価とともに適切な運動課題の設定が必要であることや、具体的な運動技能を高めるための方法について理解を深める。</p> <p>②運動の実施にあたっては、スポーツ外傷・障害などを引き起こさないために、様々な配慮が必要であることについての理解を深める。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①技能を高めるための方法について、自らの経験に当てはめて考えることができる。</p> <p>②スポーツ外傷・障害を起こさないためには、どのような配慮が必要であるのかを積極的に学習できる。</p>	6	11・12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
体育		スポーツⅡ		2	6	2		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
4	2	0	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書 名					
教科書	大修館		ステップアップ高校スポーツ					
副教材等	-	-	-					
学習目標								
<p>球技の専門的な理解と高度な技術の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。</p> <p>(1)球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けることができる。【知識・技能】</p> <p>(2)球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、障害を通じてスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
バスケットボール ハンドボール サッカー ラグビー				テニス ソフトテニス 卓球 バドミントン				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
							前期	後期
①	ゴール型球技の理解とその実践ⅠⅡ バスケットボール・ハンドボール	<b>【知識・技能】</b> ①バスケットボール、ハンドボールへの「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けようとしている。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①バスケットボール、ハンドボールにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。			1	1・2	○	
②	ゴール型球技の理解と実践ⅢⅣ サッカー・ラグビー	<b>【知識・技能】</b> ①サッカー、ラグビーへの「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けようとしている。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①サッカー、ラグビーにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。			2	3・4	○	
③	ネット型球技の理解と実践Ⅰ バレーボール	<b>【知識・技能】</b> ①バレーボールへの「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けようとしている。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①バレーボールにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。			3	5・6		
④	ネット型球技の理解と実践ⅡⅢ テニス・ソフトテニス	<b>【知識・技能】</b> ①テニス、ソフトテニスへの「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けようとしている。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①テニス、ソフトテニスにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。			4	7・8		○
⑤	ネット型球技の理解と実践ⅣⅤ 卓球・バドミントン	<b>【知識・技能】</b> ①卓球、バドミントンへの「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けようとしている。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①卓球、バドミントンにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。			5	9・10		○
⑥	ベースボール型球技の理解と実践Ⅰ ソフトボール	<b>【知識・技能】</b> ①ソフトボールへの「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けようとしている。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①ソフトボールにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。			6	11・12		
学 習 方 法								

**【添削指導(報告課題)】**

- 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
- 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
- 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。

**【面接指導(スクーリング)】**

- 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
- 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

**【定期試験】**

- 1 実施回数  
前期に1回、後期に1回実施する。
- 2 出題範囲  
報告課題の内容を中心とする。

**評価方法**

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
美術		素描		2	6	2	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
4	2	0	2				
※検定教科書は、発行者の番号・題名、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・題名または出版社名		教科書の記号・番号		書名	
教科書	光村図書	美I 701	美術1				
副教材等	-	-	-				
学習目標							
<p>素描の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2) 対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 造形表現を追求しようとしている。【主体的に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
報告課題1・2回目 (身近なものを描く・鉛筆で描く、静物画)			報告課題4・5回目 (風景画・水墨画)				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	身近なものを描く・鉛筆で描く (p80～83、p6・7、p23、p114)	<p>【知識・技能】</p> <p>①形や色、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをともに、身近なものやそれらを描いた作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>②意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や質感などの表現を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①身近なものを見つめ、感じ取った特徴やものに対する自分の思いなどから主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>②身近なものを描いた作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>			1	1・2	○
②	静物画 (p8・9、p21、p78・79、p82・83、p86～95、p108～110、p118)	<p>【知識・技能】</p> <p>①形や色、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをともに、身近なものやそれらを描いた作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>②意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や質感などの表現を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①身近なものを見つめ、感じ取った特徴やものに対する自分の思いなどから主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>②身近なものを描いた作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>			2	3・4	○
③	人物画 (p8・9、p21、p78・79、p82・83、p86～95、p108～110、p118)	<p>【知識・技能】</p> <p>①形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをともに、自己をあらわした作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>②意図に応じて材料や用具を選択し、その特性を生かすとともに、表現の形態や方法を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①自己を見つめ、感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、単純化や省略、強調、材料の質感や墨感を生かした表現などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>②自己をあらわした作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>			3	5・6	
④	風景画 (p20～27a、p84、85、p107、p108～110、p117)	<p>【知識・技能】</p> <p>①形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、光や陰影、奥行きなどの造形的な特徴などをともに、風景や風景を描いた作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>②意図に応じて材料や用具を選択し、その特性を生かすとともに、表現を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①心ひかれる風景を見つめ感じ取ったことや、その風景に対する自分の思いなどから主題を生成し、形や色、光や陰影、構図や奥行きなどについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>②描かれている風景の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者が作品に込めた思いや意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>			4	7・8	○
⑤	水墨画 (p12～19、p90、91、p108～110)	<p>【知識・技能】</p> <p>①墨の性質や筆致の勢いなどが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをともに、墨で描かれた作品を、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。</p> <p>②意図に応じて墨や筆の特性を生かすとともに、表現方法を工夫して創造的にあらわしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①墨による表現のさまざまな効果などから主題を生成し、墨の特性を生かした表現方法などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>②墨のにじみや濃淡による表現の豊かさなどの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図や工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>			5	9・10	○
⑥	習作・下描き・構想のための素描 (p38・39、p48～65、p75・76、p96・97、p103・104)	<p>【知識・技能】</p> <p>①形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをともに、自己をあらわした作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>②意図に応じて材料や用具を選択し、その特性を生かすとともに、表現の形態や方法を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①自己を見つめ、感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、単純化や省略、強調、材料の質感や墨感を生かした表現などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>②自己をあらわした作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</p>			6	11・12	
学習方法							
<p>【添削指導(報告課題)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 クラークWebキャンパス(報告課題サポート)内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</li> <li>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</li> <li>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</li> </ol> <p>【面接指導(スクーリング)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</li> <li>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</li> </ol> <p>【定期試験】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</li> <li>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</li> </ol>							
評価方法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
英語		総合英語 I		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名		教科書の記号・番号		書名
教科書	東京書籍	C1・703	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くことや読むこと、話すこと〔やり取り〕、自分の考えやチームの意見を話すこと〔発表〕、書くこと等の五つの領域別の言語活動及びこれらをつなぐ統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを旨とする。</p> <p>(1)英語の文法や構文、その他特徴などを理解し、実践的なコミュニケーションで活用するためのスキルを身に付けることができる【知識・技能】  (2)英語を用いる場面や状況に応じて、適切に判断し表現することができる【思考・判断・表現】  (3)身に付けた知識や表現を適切に用いるために、身近な場面を想定しながら情報を整理し、伝えようとしている【主体的に学習に取り組む態度】  以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
報告課題1・2回目 Unit 1 ~ Unit 3			報告課題4・5回目 Unit 6 ~ Unit 7			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	p8~ Unit 1 p22~ Unit 2	<b>【Unit1】</b> <b>【知識・技能】</b> ①学校新聞や科学雑誌の記事の語彙や重要表現を理解することができる。 ②受け身、不定詞、動名詞、つなぎ言葉について正しく理解している。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①記事の論点や論証を読み取り、適切な表現で自分の考えを伝えることができる。 <b>【Unit2】</b> <b>【知識・技能】</b> ①織内誌やブログ記事での語彙や重要表現を理解することができる。 ②助動詞、受け身、現在完了進行形、伝聞の表現について正しく理解している。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①記事の具体例を読み取り、適切に理解し、自分の考えを伝えることができる。		1	1・2	○
②	p38~ Unit 3	<b>【Unit3】</b> <b>【知識・技能】</b> ①Eメールや地方新聞の記事での語彙や重要表現を理解することができる。 ②分詞の形容詞用法、関係代名詞について正しく理解できる。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①Eメールでの質問と回答、記事の主題を読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。		2	3・4	○
③	p52~ Unit 4 p68~ Unit 5	<b>【Unit4】</b> <b>【知識・技能】</b> ①博物館のパンフレットや展示物のパネルでの語彙や重要表現を理解することができる。 ②現在完了形の受け身、過去完了形について正しく理解できる。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①パンフレットや展示パネルの概要、年表、解説を読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。 <b>【Unit5】</b> <b>【知識・技能】</b> ①ウェブの記事、イベントリーフレットでの語彙や重要表現を理解することができる。 ②SOVCでの分詞、関係副詞how、助動詞の過去形について正しく理解できる。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①ウェブ記事でポイントとなる秘訣や、案内の流れを読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。		3	5・6	
④	p82~ Unit 6	<b>【Unit6】</b> <b>【知識・技能】</b> ①オンライン百科事典の伝記やウェブ記事の語彙や重要表現を理解することができる。 ②分詞構文や関係副詞where(when/why)について正しく理解できる。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①伝記での経歴や記事の要素を読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。		4	7・8	○
⑤	p98~ Unit 7	<b>【Unit7】</b> <b>【知識・技能】</b> ①英字新聞の記事やエッセイでの語彙や重要表現を理解することができる。 ②原形不定詞、仮定法過去完了、過去完了進行形について正しく理解できる。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①記事での心情の変化やエッセイでの理由を読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。		5	9・10	○
⑥	p112~ Unit 8 p128~ Optional Reading 1 p134~ Optional Reading 2	<b>【Unit8】</b> <b>【知識・技能】</b> ①ウェブの記事や雑誌の記事での語彙や重要表現を理解することができる。 ②関係代名詞what、関係代名詞の非制限用法について正しく理解できる。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①記事での類似点や相違点、またアドバイスをを読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。 <b>【Option Reading1】</b> <b>【思考・判断・表現】</b> ①登場人物の行き違いを読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。 <b>【Option Reading2】</b> <b>【思考・判断・表現】</b> ①登場人物の心情を読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。		6	11・12	
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクリーニング)】						
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とする。こと。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

**【 2024年度 】 年間指導計画**

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
英語		総合英語Ⅱ		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名		
教科書	東京書籍	CⅡ703	ENRICH LEARNING English COMMUNICATION Ⅱ			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(2)必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>(4)日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。【知識・技能】</p> <p>(5)日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。【知識・技能】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験				学年末試験		
Unit1 ~ Unit4				Unit7 ~ Unit10		
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標		報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	Unit 1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct?  Unit 2 Which sports can really be called sports?	<p>『Lesson1』 【知識・技能】</p> <p>①助動詞+完了形、不定詞の意味上の主語を用いた文の形・意味・用法を理解している。絶滅危惧種の生息地や見た目の特徴などについて説明するための適切な表現や方法を理解している。</p> <p>②特定の絶滅危惧種について、参照した情報を基に、生息地や見た目の特徴などを話して伝える技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①特定の絶滅危惧種について知ってもらうために、参照した情報を基に、生息地や見た目の特徴などといった重要な点を簡潔に整理して、聞き手にわかりやすく詳細を話して伝えている。</p> <p>『Lesson2』 【知識・技能】</p> <p>①受け身の不定詞、助動詞doによる強調を用いた文の形・意味・用法を理解している。興味を示したり断ったり、主張と根拠を伝え合ったりするための適切な表現や方法を理解している。</p> <p>②部活動について興味を示したり断ったり、eスポーツをスポーツとみなすかについて主張と根拠を伝え合ったりしながら、自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①部活動についての勧誘の場面で興味を示したり断ったり、ディベートの場面で、eスポーツをスポーツとみなすかについて主張と根拠を伝え合ったりしながら、自分の考えを即興で話して、詳細を伝え合っている。</p>		1	1・2	○
②	Unit 3 How do we choose what we eat?  Unit 4 How have inventions changed history?	<p>『Lesson3』 【知識・技能】</p> <p>①先行詞を含む関係副詞、否定語の倒置を用いた文の形・意味・用法を理解している。レストランのレビューで用いられる語いや表現、評価づけしたり、感想を述べたりする適切な方法を理解している。</p> <p>②レストランをお勧めするかどうかについて、自分の体験・経験を基に、情報を伝えたり評価づけしたり、感想を述べたりしながら、詳細を書く技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①友達にレストランを紹介するために、お勧めするかどうかについて、自分の体験・経験を基に、情報を伝えたり評価づけしたり、感想を述べたりしながら、事実と意見を区別して、詳細を整理して書いている。</p> <p>『Lesson4』 【知識・技能】</p> <p>①強調構文、関係副詞の非制限用法を用いた文の形・意味・用法を理解している。発明品について、事実と意見を説明するための適切な表現や方法を理解している。</p> <p>②発明品の世の中への影響について、見聞した情報を基に、事実と意見を区別しながら話して伝える技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①特定の発明品について知ってもらうために、それが世の中へのどの程度影響を与えたのかについて、見聞した賛成・反対の立場の意見や情報を基に、聞き手に納得してもらえるよう、事実と意見を区別しながら、詳細をわかりやすく話して伝えている。</p>		2	3・4	○



③	Unit 5 What can we learn from traveling?  Unit 6 How do people's personalities affect their behavior?	『Lesson5』 【知識・技能】 ①接続詞・分詞、完了不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。利点と欠点を踏まえたうえで、自分の意見を書くための適切な方法を理解している。 ②ギャップ・イヤーの普及について、利点と欠点を踏まえたうえで、つなぎ言葉を用いながら、自分の意見を複数のパラグラフで書く技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①ギャップ・イヤーの普及について、自分の意見を伝えるために、利点と欠点を踏まえたうえで、つなぎ言葉を用いながら、構成を意識して、複数のパラグラフで論理的に書いている。 『Lesson6』 【知識・技能】 ①部分否定を用いた文の形・意味・用法を理解している。アンケート結果について、分析結果を伝えるための適切な表現や方法を理解している。 ②性格に関するアンケートについて、クラスメートの回答結果を基に、割合を表したり解釈を付け加えたりして、話して伝える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】	3	5・6		
④	Unit 7 Who should we celebrate on our money?  Unit 8 How can we find out if news is real or fake?	『Lesson7』 【知識・技能】 ①受け身の進行形、be動詞＋不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。相手の意見に応じるための適切な表現や方法を理解している。 ②紙幣に取り上げるべき人物について、相手の意見に適切に応じながら、自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①紙幣に取り上げるべき人物について、グループの意見をまとめるために、相手の意見に適切に応じながら、自分の考えを即興で話し、詳細を伝え合っている。 『Lesson8』 【知識・技能】 ①複合関係副詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。事実と意見を分けて伝えるための適切な表現や方法を理解している。 ②ある記事を読んで分析した内容について、事実と意見を区別しながら、情報や自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①ニュースの真偽を判断するために、ある記事を読んで分析した内容について、事実と意見を区別しながら、情報や自分の考えを即興で話して、詳細を伝え合っている。	4	7・8		○
⑤	(p.128～157) Unit 9 What is important when choosing a job?  Unit 10 How can we improve our school?	『Lesson9』 【知識・技能】 ①過去の習慣を表す表現を用いた文の形・意味・用法を理解している。長所や経験を伝え合ったり、情報を詳しく聞き出したりするための適切な表現や方法を理解している。 ②仕事をするうえでの長所や経験について、情報や自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①就職面接を想定した場面で、仕事をするうえでの長所や経験について、情報や自分の考え、評価を即興で話して、詳細を伝え合っている。 『Lesson10』 【知識・技能】 ①未来進行形、未来完了形を用いた文の形・意味・用法を理解している。自分の考えを理由とともに伝え合うための適切な表現や方法を理解している。 ②学校の改善について、自分の考えを理由とともに、即興で話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①学校の改善について互いの意見を共有するために、自分の考えを理由とともに、即興で話して詳細を伝え合っている。	5	9・10		○
⑥	Active Reading 1 The Wolf's Tale  Active Reading 2 Emergency Landing	『Lesson11』 【知識・技能】 ①語や句、文における強勢、イントネーションや区切りを意識して音読している。物語で用いられている語、句、文の意味を理解している。 ②語、句、文の理解を基に、物語の内容を読み取る技能に加え、背景知識を生かしながら、異なる視点から物語を読み取る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①物語の核心を捉えることができるように、その概要や詳細、根拠を読み取ったり、背景知識を生かしながら異なる視点から読み取ったりしている。 『Lesson12』 【知識・技能】 ①語や句、文における強勢、イントネーションや区切りを意識して音読している。物語で用いられている語、句、文の意味を理解している。 ②語、句、文の理解を基に、物語の内容や登場人物の感情の動きを読み取る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①物語の展開・結末を理解し、続きを考えられるように、その概要や詳細、登場人物の感情の動きを読み取ったり、話の展開を予想・想像しながら物語を読み取ったりしている。	6	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】

- 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
- 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
- 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。

【面接指導(スクーリング)】

- 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
- 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

【定期試験】

- 1 実施回数  
前期に1回、後期に1回実施する。
- 2 出題範囲  
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【2024年度】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
英語		総合英語Ⅲ		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数	放送視聴(3)	(1)-(2)-(3)			
4	2	0	2			
<small>当該教科書は、発行元の番号・題名、教科書の記号・番号を記載</small> <small>発行元の番号・題名または出版社名</small> <small>教科書の記号・番号</small>		書名				
教科書	東京書籍	CⅢ703	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION Ⅲ			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの高語活動及びこれらをつなげた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】 (2)必要な情報を聞き取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】 (3)日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話し合ったり取り合ったりし、会話を発展させようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 (4)日常的な話題について、使用する語句や文、事柄の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話し合ったり取り合ったりし、会話を発展させることができる。【知識・技能】 (5)日常的な話題について、使用する語句や文、事柄の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落からなる文章で読み取ったり取り合ったりし、会話を発展させることができる。【知識・技能】 以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
Unit1~Unit4(P8~73)			Unit7~Active Writing(P110~151)※P142~145はのぞく			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web探索回数	定期試験範囲 前期	後期
①	Unit1 What thinking and study habits can help us succeed? (P8~P23) Unit2 How can we use AI to improve education? (P24~P47)	【知識・技能】 ①共通の気持ちを示したり、助言を伝え合ったりするための適切な表現や方法を理解している。 ②接続詞を用いた複数の段落からなる論説文の形式や、自分の意見や考えを理由や根拠を示しながら書いて伝える方法を理解している。 ③よくある勉強の悩みについて、共通の気持ちを示したり、助言を伝え合ったりするための適切な表現や方法を用いて、情報を詳しく話し合ったり取り合ったりし、会話を発展させる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ④知識が教壇にもたらす利点について、接続詞を用いた複数の段落からなる論説文の形で、理由や根拠を示しながら、自分の意見や考えを論理的に詳しく書いて伝える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①問題を解決するために、よくある勉強の悩みについて、共通の気持ちを示したり、助言を伝え合ったりして、情報を詳しく話し合ったり取り合ったりし、会話を発展させることができる。 ②人工知能が教壇にもたらす利点について、自分の考えを知ってもらうために、聞いたか読んだか、話を聞き、理由や根拠を示しながら、意見や考えを論理的に詳しく書いて伝えることができる。	1	1-2	○	
②	Unit3 What do folktales tell us about human values? (P42~P57) Unit4 What items would you place in a time capsule? (P58~P73)	【知識・技能】 ①民話の内容を効果的に伝える方法と民話で使われる文の形・意味・用法を理解している。 ②賛成・反対したり、選択を伝え合ったり結論を得たりするための適切な表現や方法を理解している。 ③民話で使われる文の理解を基に、聞き手にわかりやすく民話の内容を伝えたり、変更した民話の内容を詳しく話して伝えたりする技能を身に付けている。 ④タイムカプセルで残したいものについて、賛成・反対したり、選択を伝え合ったり結論を得たりするための適切な表現や方法を用いて、意見や考えを理由とともに詳しく話し合ったり取り合ったりし、会話を発展させる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①民話を読み取ったり、解釈して考えを深めるために、聞いたか読んだか、話を聞き、聞き手にわかりやすく民話の内容を伝えたり、変更した民話の内容を詳しく話して伝えたりすることができる。 ②互いが納得できる結論を得るために、タイムカプセルで残したいものについて、賛成・反対したり、選択を伝え合ったりし、理由や根拠を示しながら、意見や考えを理由とともに詳しく話し合ったり取り合ったりし、会話を発展させることができる。	2	3-4	○	
③	Unit5 What are the rewards and challenges of living in a different culture? (P76~P91) Unit6 How can art be made accessible to all? (P92~P107)	【知識・技能】 ①2つの意見を対比しながら自分の意見を述べる論説文の構成や表現を理解している。 ②芸術作品を描写したり、作品の感想を述べ合ったりするための適切な表現や方法を理解している。 ③異文化の中で暮らすことの長所・短所について、2つの観点を対比しながら意見を述べる論説文の構成や表現を用いて、論理的に詳しく書いて伝える技能を身に付けている。 ④芸術作品について、作品を描写したり、作品の感想を述べ合ったりするための適切な表現や方法を用いて、情報や考えを即興で詳しく話し合ったり取り合ったりし、会話を発展させる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①異文化の中で暮らすことの長所・短所について、自分の考えを知ってもらうために、2つの観点を対比しながら、長所や考えを論理的に詳しく書いて伝えることができる。 ②芸術作品を楽しみ、それぞれの感じ方の違いに気付くために、作品の描写や感想を即興で詳しく話し合ったり取り合ったりし、会話を発展させることができる。	3	5-6		
④	Unit7 How can we preserve life below water? (P110~P125) Unit8 Is there anything money can't buy? (P126~P141)	【知識・技能】 ①問題と解決策を説明する論説文の構成や表現を理解している。 ②提案や賛成を述べたり、相手に配慮しながら意見を伝え合ったり、話し合いを継続させたりするための適切な表現や方法を理解している。 ③問題と解決策を説明する論説文の構成や表現の知識を基に、身近な魚の現状について、論理的に詳しく書いて伝える技能を身に付けている。 ④提案や賛成を行うための賛成理由や条件を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ⑤意見を伝え合うための適切な表現や方法を用いながら、学校の命名権について、情報や考えを論理的に詳しく話し合ったり取り合ったりし、会話を発展させる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①身近な魚の現状について知ってもらうために、聞いたか読んだか、話を聞き、聞き手に問題、解決策を明らかにしながら、英文を推敲するなどして、情報や考えを論理的に詳しく書いて伝えることができる。 ②話し合いを継続させるために、学校の命名権について、聞いたか読んだか、話を聞き、相手の主張を正確に把握しながら、情報や考えを論理的に詳しく話し合ったり取り合ったりし、会話を発展させることができる。	4	7-8		○
⑤	Active Writing1~3 (P146~P151) Active Writing2 Responding to a prompt Active Writing2 Describing graphs Active Writing3 Writing an opinion essay	【知識・技能】 ①つなぎ言葉やディスコース・マーカーの形・意味・用法を理解している。 ②図表で示された内容を伝えるための傾向や比較を表す表現を理解している。 ③図表や図表を行うための賛成理由や条件を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ④数値を伴う資料について、図表で示された内容を伝えるための傾向や比較を表す表現などを用いて、読み取れる内容を詳しく書いて伝える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①読み手の意思決定を促すために、条件の異なる複数の選択肢について、事前に得られた情報を活用しながら、理由を示すなどして、論理的に詳しく書いて伝えることができる。 ②数値を伴う資料について、図表で示された内容を伝えるための傾向や比較を表す表現などを用いて、読み取れる内容を詳しく書いて伝える技能を身に付けている。	5	9-10		○
⑥	Reading Enrichment1~2(P152~P159) Reading Enrichment1 Nineteen Eighty-Four Reading Enrichment2 Dead Men's Path	【知識・技能】 ①登場人物のセリフを含んだ物語文の構成を理解している。 ②登場人物のセリフを含んだ物語文の構成の理解を基に、社会的な問題提起を含む架空の世界についての物語の内容を読み取る技能を身に付けている。 ③登場人物のセリフを含んだ物語文の構成の理解を基に、過去のナイジェリアにおける教育の内実についての物語の内容を読み取る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①社会的な問題提起に対して自分の考えをまとめるために、架空の世界を描いた物語から必要な情報を読み取り、物語の展開や書き手の意図、含意などを的確に捉えることができる。 ②過去のナイジェリアにおける教育の内実について、物語を読み、背景知識を活用しながら、物語の展開や書き手の意図を的確に捉えることができる。	6	11-12		
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
1 クラスWebページ(「報告課題レポート」内の「課題視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。						
【面接指導(スクーリング)】						
1 自己学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力しながら学習に取り組むこと。						
【定期試験】						
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

【2024年度】年間指導計画

教科等		科目		年次	単元	時間	学期
英語		ディベート・ディスカッションⅠ		2	6	2	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる演説回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
4	2	0	2				
3年度教科書、発行元(教科書)番号、教科書の名称・発行元(教科書)番号	発行元(教科書)番号、教科書の名称・発行元(教科書)番号	教科書の名称・発行元	書名				
教科書	いっげな書店	論Ⅰ-716	Harmony English Logic and Expression Ⅰ				
副教材等	-	-	-				
学習目標							
<p>日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いた話にだいたいの内容を理解しながら、基本的な内容や文法を用いて、意見や主張などを論理的構成や表現を工夫して伝えることができる。</p> <p>① 外国語の音や発音、発音、文法、会話の場面などの理解を深めることができる。これらの知識を、聞くこと、読むこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける。【知識・技能】</p> <p>② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、適切な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合うことができる。【思考・判断・表現】</p> <p>③ 外国語の音に耳を慣らすための発音の練習、聞き手、話し手、話し手、書き手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験				学年末試験			
Unit1 ~ Unit4 (p.19~34, p.41~48)				Unit7 ~ Unit8 (p.65~72, p.77~84, p.89~99)			
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	本邦/海外時間	前期	後期
①	(p.19~30) Lesson 1 Meeting New People Lesson 2 Last Weekend Lesson 3 Weekend Plans	<p>FLesson1【知識・技能】</p> <p>① 単語や文法について、内容を整理し、現在進行形などを用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。</p> <p>② 内容を要約し適切な位置に記述して、正しく英文を書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 話し手の意図(目的)をめぐり、クラスメイトに対し、語りかけるようにあいさつを送ることができる。</p> <p>② 実際のしたこと(事実)と、それをして思ったこと(感想)を区別して伝えることができる。</p> <p>③ 過去進行形を用いて、正しく英文を書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 単語や文法について、内容を整理し、過去形・過去進行形などを用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。</p> <p>FLesson3【知識・技能】</p> <p>① 相手の発言に対し、適切な疑問詞を用いて、くわしくたずねることができる。</p> <p>② 単語や文法について、内容を整理し、未来の表現を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、週末の予定について話すことができる。</p>	1	1-2			○
②	(p.31~34, p.41~48) Lesson 4 A Short Trip Lesson 5 School Rules Lesson 6 Are You All Right?	<p>FLesson4【知識・技能】</p> <p>① あるトピックに沿って、相手に質問を投げかけて、会話のきっかけをつくることのできる。</p> <p>② 現在完了形を正しく用いて、これまでに経験したことについて書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、特別な経験について話すことができる。</p> <p>FLesson5【知識・技能】</p> <p>① 話し手に、してほしくないこと、してほしくないことなど伝えることができる。</p> <p>② 単語や文法について、内容を整理し、助動詞を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、してほしくないことについて話すことができる。</p> <p>FLesson6【知識・技能】</p> <p>① ある出来事についての推測を述べることができる。</p> <p>② 疑問詞must、shouldを用いて、推測していることや推測していることについて英文を正しく書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、ある出来事の推測について話すことができる。</p>	2	3-4			○
③	(p.51~54, p.57~64) Lesson 7 Things Japanese Lesson 8 Talking about Dreams Lesson 9 To Keep Fit	<p>FLesson7【知識・技能】</p> <p>① 相手からきたあるものについての質問に対し、素材や形など詳しく説明することができる。</p> <p>② &lt;be+過去分詞+with/at/to/of+もの&gt;の構文を用いて正しく書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、あるものの説明することができる。</p> <p>FLesson8【知識・技能】</p> <p>① 話し手のことや、したいと考えていることについて、伝えることができる。</p> <p>② 不定詞(名詞用法)を用いて正しく書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、将来の夢について話すことができる。</p> <p>FLesson9【知識・技能】</p> <p>① 何かをする、しないと言ったときに、その理由を説明することができる。</p> <p>② 否定形を用いて、健康維持のコツについて書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、「~するために」という説明を加えて話すことができる。</p>	3	5-6			
④	(p.65~72, p.77~80) Lesson 10 Our Future Devices Lesson 11 Talking about Likes and Dislikes Lesson 12 Reporting Something Unusual	<p>FLesson10【知識・技能】</p> <p>① 誰かにさせる、誰かができるようにすると伝えることができるようにする。</p> <p>② 動詞の活用を用いて許可、依頼、強制の意味を表す英文を正しく書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、誰かにさせる、誰かができるようにすると話すことができる。</p> <p>FLesson11【知識・技能】</p> <p>① 単語や文法について、内容を整理し、動名詞を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。</p> <p>② 動名詞(目的語)を用いて何かをして楽しんだり、何かをするに意味があるという英文を書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、実際にしていることについて話すことができる。</p> <p>FLesson12【知識・技能】</p> <p>① あるものことに情報を加えて話すことができる。</p> <p>② 関係詞(when)を用いてものごとによって引き起こされた喜びや驚きなどを表す説明を正しく書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、あるものことに情報を加えたり、それによって引き起こされた驚きについて話すことができる。</p>	4	7-8			○
⑤	(p.81~84, p.89~99) Lesson 13 Being in Trouble Lesson 14 Great Achievements Lesson 15 What's SDGs?	<p>FLesson13【知識・技能】</p> <p>① 感情・気持ちは伝えることができる。</p> <p>② (be+ing+動詞+分詞)を用いて見たり聞いたりした一場面についての説明を正しく書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、トラブルを報告してきた相手に寄り添ったコメントを交えて話すことができる。</p> <p>FLesson14【知識・技能】</p> <p>① 相手が何を求めたり、確認したりすることができる。</p> <p>② 関係詞(when)を用いて正しく英文を書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、ある人・ものについてより詳しい情報を追加しながら相手に話すことができる。</p> <p>FLesson15【知識・技能】</p> <p>① 驚き、喜び、楽しみなどの気持ちを伝えることができる。</p> <p>② 関係詞(when)を用いてある時どういった時々のことを正しく書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、プロジェクト学習のためにSDGsについての説明をすることができる。</p>	5	9-10			○
⑥	(p.110~118) Lesson 16 Climate Change Lesson 17 Food Waste Lesson 18 Water Problem	<p>FLesson16【知識・技能】</p> <p>① あるもの(存在)するものについて伝えることができる。</p> <p>② (倍数/分数+as...as)を用いて2つのもの、2人を比べて程度を倍数で説明したり分数で説明したりできる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① 正しく書くことができる。</p> <p>FLesson17【知識・技能】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、ある日の寒さについて話すことができる。</p> <p>② 内容を要約することができる。</p> <p>③ 文章上部を要約表現を用いて正しく書くことができる。</p> <p>④ モデル会話の人物になりきって、新聞記事を見て気が付いたことについて話すことができる。</p> <p>FLesson18【知識・技能】</p> <p>① 会話相手や相手にやりたいと思っている願望について伝えることができる。</p> <p>② (wish/if only+仮定法)を用いて実現しづらい願望や願望について書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>① モデル会話の人物になりきって、世界の水問題についてのプレゼン準備をすることができる。</p>	6	11-12			
学習方法							
【添削指導(報告課題)】							
<p>1. フォーラムやチャット(「報告課題サポート」内の「課題相談」チャット)での学習を終えること。</p> <p>2. 教科書を見ながら報告課題に取り組み、形質に提出すること。</p> <p>3. 各々の活動記録を、指導員から、授業メールの添削指導を活用してそれらの解決に努めること。</p>							
【面接指導(スクリーニング)】							
<p>1. 1学期末、必要に応じて、基本的な知識・技能を学ぶ機会を設けること。</p> <p>2. 教員から直接指導を受けた後、他の生徒と議論や協力しながら学習に取り組むこと。</p>							
【定期試験】							
<p>1. 定期試験</p> <p>前期1回、後期1回実施する。</p> <p>2. 定期試験</p> <p>報告課題の内容を中心とする。</p>							
評価方法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
英語		ディベート・ディスカッションⅡ		2	6	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
4	2	0	2			
※検定教科書は、発行者の番号・題名・発行年・版・巻・号を記載		発行者の番号・題名または出版社		教科書の記号・番号		書名
教科書	いっすな書店	論Ⅱ 715	Harmony English Logic and Expression Ⅱ			
副教材等	-	-	-			

学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。【思考・判断・表現】

(2)必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。【思考・判断・表現】

(3)日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けようとする。【主体的に学習に取り組む態度】

(4)日常的話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。【知識・技能】

(5)日常的話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。【知識・技能】

以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
Lesson1～Lesson5(P15～38)	Lesson9～Lesson13(P55～87)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
					前期	後期
①	Lesson1 During Spring Vacation (P15～P18) Lesson2 My favorite Star (P19～P22)	【知識・技能】 ①現在形・過去形・未来の表現を適切に用いて、会話・説明・英作文ができる。 ②現在完了形・過去完了形を適切に用いて、会話・説明・英作文ができる。 【思考・判断・表現】 ①事柄や話題について、内容を整理し、適切な動詞の時制を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。 ②事柄や話題について、内容を整理し、現在完了形・過去完了形などを用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。	1	1・2	○	
②	Lesson3 My Career Path (P23～P26) Lesson4 Talking about Japanese Culture (P27～P31) Lesson5 Disaster Prevention (P35～P38)	【知識・技能】 ①助動詞を適切に用いて、会話・説明・英作文ができる。 ②受動態を適切に用いて、会話・説明・英作文ができる。 ③不定詞(名詞用法・形容詞用法・副詞用法)を適切に用いて、会話・説明・英作文ができる。 【思考・判断・表現】 ①事柄や話題について、内容を整理し、適切な助動詞・受動態・不定詞を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。	2	3・4	○	
③	Lesson6 Town Planning (P39～P42) Lesson7 Foods and People (P43～P46) Lesson8 ICT and Universal Design (P47～P51)	【知識・技能】 ①不定詞を使った表現を適切に用いて、会話・説明・英作文ができる。 ②動名詞・分詞を適切に用いて、会話・説明・英作文ができる。 【思考・判断・表現】 ①事柄や話題について、内容を整理し、適切な不定詞・動名詞・分詞を使った表現を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。	3	5・6		

(裏面に続く)

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
					前期	後期
④	Lesson9 Toward World Peace (P55～P59) Lesson10 Volunteering Abroad (P60～P65) Lesson11 Health and Lifespan (P66～P71)	【知識・技能】 ①関係代名詞・関係副詞・比較を適切に用いて、会話・説明・英作文ができる。 【思考・判断・表現】 ①事柄や話題について、内容を整理し、適切な関係代名詞・関係副詞・比較を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。	4	7・8		○
⑤	Lesson12 If the world were... (P72～P79) Lesson13 Culture and Perception (P83～P87)	【知識・技能】 ①仮定法、疑問・否定文を適切に用いて、会話・説明・英作文ができる。 【思考・判断・表現】 ①事柄や話題について、内容を整理し、適切な仮定法、疑問・否定文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。	5	9・10		○
⑥	Lesson14 World Report (P88～P93) Lesson15 Be Yourself (P94～P99)	【知識・技能】 ①時制の一致・語法を適切に用いて、会話・説明・英作文ができる。 ②要求・提案の表現・無生物主語・強調構文を適切に用いて、会話・説明・英作文ができる。 【思考・判断・表現】 ①事柄や話題について、内容を整理し、適切な時制の一致・語法を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。 ②事柄や話題について、内容を整理し、適切な要求・提案の表現・無生物主語・強調構文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。	6	11・12		

学習方法

【添削指導(報告課題)】

- 1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
- 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
- 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。

【面接指導(スクーリング)】

- 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
- 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

【定期試験】

- 1 実施回数  
前期に1回、後期に1回実施する。
- 2 出題範囲  
報告課題の内容を中心とする。

評価方法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2024年度 】年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数	
総合		論理 I		1	3	2	
面接指導							
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)				
	Web(2)	放送視聴(3)					
2	1	0	1				
※検定教科書は、発行者の番号・題名、教科書の記号・番号を記載		発行者の番号・題名または出版社		教科書の記号・番号		書名	
教科書	水王舎		-	論理 I			
副教材等	-		-	-			
学習目標							
<p>高大接続の場面において「小論文」をはじめ、一般入試における記述式問題の改善等を含めて、論理的に考え、表現する力の重視が進んでいる。論理は「思考・判断・表現」の根源であることから、これらについて学ぶことで「論理的思考力」を身に付けることを目的とする。</p> <p>(1) 社会の変化に臨機応変に対応できる「論理的思考力」を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 意識して「論理的思考力」を活用しようとし、「書く・話す・読む・聞く」に「論理的思考力」を当てはめて表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 社会で長く活躍する人材になるべくさまざまな場面で「論理的思考力」を活用しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>							
定期試験範囲							
一学期末試験			学年末試験				
<p>第1講 現代文で最も大切なこと ～本書を学ぶ皆さんに</p> <p>第2講 一文の構造</p> <p>第3講 言葉のつながり</p> <p>第4講 文の作成</p>			<p>第5講 文と文との論理的関係</p> <p>第6講 指示語と論理的展開</p> <p>第7講 文章の論理的読解 I 具体例・体験</p> <p>第8講 文章の論理的読解 II 体験・引用・比喩</p> <p>第9講 文章の論理的読解 III 対立関係・因果関係</p>				
【添削指導(報告課題)】							
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期
①	第1講 現代文で最も大切なこと ～本書を学ぶ皆さんに	<p>【知識・技能】</p> <p>①論理を学ぶ意義について知り、「論理」＝「すじ道」であることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①情報を整理する方法を学び、活用することができる。</p>			①	1	○
②	第2講 一文の構造	<p>【知識・技能】</p> <p>①文の構造についての知識を確実に身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①文を大別すると「要点(＝主語と述語)」と「飾り」になること、および「要点」「飾り」がどういふものなのかを知り、区別することができる。</p>			①	1	○
③	第3講 言葉のつながり	<p>【知識・技能】</p> <p>①言葉のつながりについて改めて確実に認識している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①「なんとなく」「ぼんやり」で終わらせず、仕組みや本質を汲み取りしっかり認知することができる。</p>			①	2	○
④	第4講 文の作成	<p>【知識・技能】</p> <p>①文の構造を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①第1講～第3講で学習したことをすべて用いれば文は作れるということを理解し、その理解をもとに文を作成することができる。</p>			①	2	○
⑤	第5講 文と文との論理的関係	<p>【知識・技能】</p> <p>①文と文がどのような関係になっているかを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①接続語の持つ性質を理解し、接続語のつながりに論理的関係があることを理解し活用することができる。</p>			②	3	○
⑥	第6講 指示語と論理的展開	<p>【知識・技能】</p> <p>①指示語が文をどう関連付けるのか、そのはたらきについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①指示語のはたらきを理解したうえで読解に役立てることができる。</p>			②	4	○
⑦	第7講 文章の論理的読解 I 具体例・体験	<p>【知識・技能】</p> <p>①これまで学習し、身に付けてきた日本語能力をすべて使って、「考えながら読む」ことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①なぜ「具体例」や「体験談」を文章に盛り込むのかを考え理解し、読解に役立てることができる。</p>			③	5	○
⑧	第8講 文章の論理的読解 II 体験・引用・比喩	<p>【知識・技能】</p> <p>①これまで学習し、身に付けてきた日本語能力をすべて使って、「考えながら読む」ことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①なぜ「体験」や「引用」「比喩」を文章に盛り込むのか、そのはたらきは何かを考え理解し、読解に役立てることができる。</p>			③	5	○
⑨	第9講 文章の論理的読解 III 対立関係・因果関係	<p>【知識・技能】</p> <p>①これまで学習し、身に付けてきた日本語能力をすべて使って、「考えながら読む」ことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①「対立関係」「因果関係」それぞれの特徴と文章内での用いられ方を理解し、読解に役立てることができる。</p>			③	6	○
学習方法							
【添削指導(報告課題)】							
<p>1 クラウドWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>							
【面接指導(スクーリング)】							
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とする。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>							
【定期試験】							
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>							
評価方法							
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。							

**【 2024年度 】 年間指導計画**

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合		論理Ⅱ		1	3	2
面接指導						
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)			
	Web(2)	放送視聴(3)				
2	1	0	1			
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名			
教科書	水王舎	-	論理Ⅱ			
副教材等	-	-	-			
学習目標						
<p>高大接続の場面において「小論文」をはじめ、一般入試における記述式問題の改善策を含めて、論理的に考え、表現する力の重視が進んでいる。論理は「思考・判断・表現」の根源であることから、これらについて学ぶことで「論理的思考力」を身に付けることを目的とする。「論理Ⅰ」で身に付けた「論理的思考力」を、教科科目横断型で活用させることで、文章の形態にこだわらずさまざまな場面で「論理的思考力」の確実な定着を目指す。</p> <p>(1) 社会の変化に臨機応変に対応できる「論理的思考力」を理解している。【知識・技能】</p> <p>(2) 意識して「論理的思考力」を活用しようとし、「書く・話す・読む・聞く」に「論理的思考力」を当てはめて表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3) 社会で長く活躍する人材になるべくさまざまな場面で「論理的思考力」を活用しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>						
定期試験範囲						
一学期末試験			学年末試験			
第1講 一文の要点と飾り(p6~11)・第2講 文と文との論理的関係(p12~17) 第3講 イコールの関係(p18~25)・第4講 対立関係と因果関係(p26~33)			第5講 文章の論理的読解(p34~43)・第6講 客観的分析力(p44~51) 第7講 作文力の基礎(p52~58)・第8講 要約問題(p59~63) 第9講 科目横断型問題(p64~71)・第10講 思考力問題(p72~78)			
【添削指導(報告課題)】						
	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
					前期	後期
①	第1講 一文の要点と飾り(p6~11) 第2講 文と文との論理的関係(p12~17) 第3講 イコールの関係(p18~25) 第4講 対立関係と因果関係(p26~33)	【知識・技能】 ①文構造(単文・複文・重文)を正しく理解できる。 ②文と文の論理的関係を作る語(接続語・指示語)を正しく理解できる。 【思考・判断・表現】 ①得た知識を基に正しく情報の論理的関係を把握し、理解できる。 ②対立関係と因果関係の実際例をもとに、適切に情報を把握し、対応できる。	1	1・2	○	
②	第5講 文章の論理的読解(p34~43) 第6講 客観的分析力(p44~51) 第7講 作文力の基礎(p52~58)	【知識・技能】 ①論理Ⅰで学習した知識を踏まえ、文章の構造を適切に判断できる。 ②作文の基本ルールを理解し、それを適切に使用して作文できる。 【思考・判断・表現】 ①得た知識を正しく利用した上で、文章を論理的に読解できる。 ②感覚的な把握ではなく、テキストを客観的に分析し、必要十分な情報を得ることができる。	2	3・4		○
③	第8講 要約問題(p59~63) 第9講 科目横断型問題(p64~71) 第10講 思考力問題(p72~78)	【知識・技能】 ①要約の方法(技術)を正しく理解し、適切に使用できる。 ②これまでの学習を踏まえ、適切なソースの選択、正しい調査を行い、必要な情報をまとめられる。 【思考・判断・表現】 ①論理Ⅰ・Ⅱを通じて学んだ思考を正しく利用して、科目横断型の問題に適切な対応ができる。 ②これまでの学習をもとに、論理的な思考をもって問題にあたり、適切な解を得ることができる。	3	5・6		○
学習方法						
【添削指導(報告課題)】						
<p>1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。</p> <p>2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。</p> <p>3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。</p>						
【面接指導(スクーリング)】						
<p>1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。</p> <p>2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。</p>						
【定期試験】						
<p>1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。</p> <p>2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。</p>						
評価方法						
添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。						

## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合		ピアアシスタント I		2	6	2		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
4	2	0	2					
*検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書 名					
教科書	公益財団法人こども教育支援財団	—	ピアアシスタント養成講座「基礎課程」					
副教材等	—	—	—					
学習目標								
<p>仲間を支援する知識や技術を得得し、学校生活において相談者として行動ができ、社会に出てからも周囲と調和できるための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)コミュニケーション技術や心理学の理論について理解することができる。【知識・技能】</p> <p>(2)コミュニケーション技術や心理学の理論を適切に応用し、自己や他者の問題解決に役立てることができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)グループワークに主体的に参加し、積極的にコミュニケーションをとろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」及び「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
<p>第Ⅰ章 ピアアシスタントについて知ろう</p> <p>第Ⅱ章 ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう</p> <p>1. 自分を知る(自己理解):自分を知り、自己紹介しよう</p>				<p>第Ⅱ章 ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう</p> <p>3. 自分の言いたいこと・気持ちを伝える話し方、伝え方を学ぼう</p> <p>4. 相手の言いたいこと・気持ちを受け取る聴き方を学ぼう</p> <p>5. 相手を支援する方法を学ぼう</p>				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲	
							前期	後期
①	第Ⅰ章 ピアアシスタントについて知ろう	<p>【知識・技能】</p> <p>①ピアアシスタントの成立や定義・役割、行動理論を理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①理想のピアアシスタント像を描くことができる。</p>			1	1・2	○	
②	第Ⅱ章 ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう	<p>【知識・技能】</p> <p>①ジョハリの窓やエゴグラムを用いた自己分析の方法を理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①自己分析を行い、自己理解を深めることができる。</p>			2	3・4	○	
③	第Ⅱ章 ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう	<p>【知識・技能】</p> <p>①質問の種類や精神分析理論など相手を知る方法を理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①相手や状況に合わせて質問を使い分けることができ、相手を知ることができる。</p>			3	5・6		
④	第Ⅱ章 ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう	<p>【知識・技能】</p> <p>①言語コミュニケーションと非言語的コミュニケーションなど相手への伝え方、アンガーマネジメントを理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①言語コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを適切に使い分け、他者に自分の伝えたいことを円滑に伝えることができる。</p> <p>②自分の怒りをコントロールすることができる。</p>			4	7・8		○
⑤	第Ⅱ章 ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう	<p>【知識・技能】</p> <p>①FELORやリフレーミングなど聴き方の技法、自己理論を理解することができる。</p> <p>②問題を解決する5つのステップやAL'Sの方式など相手を支援する技法を理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①FELORを意識した聴き方や、ネガティブなワードをポジティブに変換することができる。</p> <p>②「おせっかい」と「支援」を区別することができる、問題解決や対立を解消する「手助け」ができる。</p>			5	9・10		○
⑥	第Ⅱ章 ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう	<p>【知識・技能】</p> <p>①守秘義務やソーシャルボンド理論、社会的欲求理論、オペラント条件付け、愛着理論を理解することができる。</p> <p>②ストレスの対処方法やアサーティブな断り方を理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>①守るべき秘密と、守ってはいけない秘密を区別することができる。</p> <p>②自分に適したストレス対処法や断り方を見つけ、自分を守ることができる。</p>			6	11・12		
学習方法								

**【添削指導(報告課題)】**

- 1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
- 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
- 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。

**【面接指導(スクーリング)】**

- 1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
- 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

**【定期試験】**

- 1 実施回数  
前期に1回、後期に1回実施する。
- 2 出題範囲  
報告課題の内容を中心とする。

**評価方法**

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。



## 【 2024年度 】 年間指導計画

教科等		科目		単位数	報告課題回数	定期試験回数		
総合		eスポーツ I		2	6	2		
面接指導								
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)					
	Web(2)	放送視聴(3)						
4	2	0	2					
※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書名					
教科書	フォレスト出版		コミュニケーションの教科書 相手と心が通じ合う3つの力					
副教材等	-	-	-					
学習目標								
<p>eスポーツを通じて、ゲームの技術を身に付けるだけでなく、チームメンバーによる協議を通して、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、世界の経済や異文化を理解するとともに、礼儀や礼節、スポーツマンシップを身に付けることを目指す。</p> <p>(1)eスポーツのルールや技術、特性や魅力、eスポーツの大会やイベントの企画・運営の仕方、eスポーツを楽しむための合意形成の意義などについて理解するとともに、eスポーツの推進及び発展に向けた多様な関わり方に関する技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)eスポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、文化的、社会的、経済的側面など多角的な視点から、課題の解決に向けて思考し判断するとともに、自らの考えを仲間などに筋道を立てて論理的に伝えることができる。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)将来eスポーツを様々な側面から支えることができるよう、eスポーツの大会やイベントの企画・運営の仕方などの基盤となる学習に主体的に取り組んでいる。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。</p>								
定期試験範囲								
一学期末試験				学年末試験				
part1 「関わる力」				part2 「聞く力」28～33 part3 「伝える力」				
【添削指導(報告課題)】								
	学習範囲	単元目標			報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期 後期	
①	part1 「関わる力」	<b>【知識・技能】</b> ①人と関わるときの正しい姿勢を取ることができる。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①多様な人と関わっていくために必要な気の持ちようで人と接することができる。			1・2	1・2	○	
②	part2 「聞く力」22～27	<b>【知識・技能】</b> ①相手に「話したい」と思わせる話の聞き方について理解している。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①相手の心を開くために必要な質問をすることができる。			3	3・4		
③	part2 「聞く力」28～33	<b>【知識・技能】</b> ①断られた時の気持ちの持ち方について理解している。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①「指示待ち人間」との接し方について学び、実際の場面でも実践することができる。			4	5・6		○
④	part3 「伝える力」	<b>【知識・技能】</b> ①相手が不快な思いにならないお辞儀をすることができる。 <b>【思考・判断・表現】</b> ①声の出し方でも相手への印象が変わることを理解し、普段の生活でも実践することができる。			5・6	7・8		○ (5)
学習方法								
【添削指導(報告課題)】								
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。 2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。 3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。								
【面接指導(スクーリング)】								
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。 2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。								
【定期試験】								
1 実施回数 前期に1回、後期に1回実施する。 2 出題範囲 報告課題の内容を中心とする。								

## 評価方法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

## 【2024年度】年間指導計画

特別活動				時間数	
特別活動 I				10時間	
活動目標					
<p>集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1)多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解するとともに、行動の仕方を身に付けている。【よりよい生活を築くための知識・技能】</p> <p>(2)集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができる。【集団や社会の形成者としての思考・判断・表現】</p> <p>(3)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養おうとしている。【主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度】</p> <p>以上を踏まえ、「よりよい生活を築くための知識・技能」「集団や社会の形成者としての思考・判断・表現」及び「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」の伸長を図る。</p>					
【活動内容】※変更があった場合は、実施報告書にて変更内容を記載すること					
活動内容				月	時間数
①	活動項目	ホームルーム活動	行事名等	例)クラス目標決め	
	指導項目				
	使用教材				
	活動内容			校外実施の場合 施設名	
②	活動項目	学校行事	行事名等	例)体育祭	
	指導項目				
	使用教材				
	活動内容			施設実施の場合 施設名	例)〇〇体育館
③	活動項目	行事名等			
	指導項目				
	使用教材				
	活動内容			校外実施の場合 施設名	
④	活動項目	行事名等			
	指導項目				
	使用教材				
	活動内容			校外実施の場合 施設名	

(裏面に続く)

施設名	#REF!
スクーリング会場	#REF!
課程区分	#REF! 属性 #

【 2024年度 】年間指導計画②

活動内容					月	時間数
⑤	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容			校外実施の場合 施設名		
⑥	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容			校外実施の場合 施設名		
⑦	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容			校外実施の場合 施設名		
⑧	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容			校外実施の場合 施設名		
⑨	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容			校外実施の場合 施設名		
⑩	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容			校外実施の場合 施設名		

## 【2024年度】年間指導計画

特別活動				時間数	
特別活動Ⅱ				10時間	
活動目標					
<p>集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1)多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解するとともに、行動の仕方を身に付けている。【よりよい生活を築くための知識・技能】</p> <p>(2)集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができる。【集団や社会の形成者としての思考・判断・表現】</p> <p>(3)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養おうとしている。【主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度】</p> <p>以上を踏まえ、「よりよい生活を築くための知識・技能」「集団や社会の形成者としての思考・判断・表現」及び「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」の伸長を図る。</p>					
【活動内容】※変更があった場合は、実施報告書にて変更内容を記載すること					
活動内容				月	時間数
①	活動項目	ホームルーム活動	行事名等	例)クラス目標決め	
	text-align: center;">指導項目				
	使用教材				
	活動内容			校外実施の場合 施設名	
②	活動項目	学校行事	行事名等	例)体育祭	
	text-align: center;">指導項目				
	使用教材				
	活動内容			施設実施の場合 施設名	例)〇〇体育館
③	活動項目	行事名等			
	text-align: center;">指導項目				
	使用教材				
	活動内容			校外実施の場合 施設名	
④	活動項目	行事名等			
	text-align: center;">指導項目				
	使用教材				
	活動内容			校外実施の場合 施設名	

(裏面に続く)

施設名	#REF!
スクーリング会場	#REF!
課程区分	#REF! 属性 #

【 2024年度 】年間指導計画②

活動内容					月	時間数
⑤	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容		校外実施の場合 施設名			
⑥	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容		校外実施の場合 施設名			
⑦	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容		校外実施の場合 施設名			
⑧	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容		校外実施の場合 施設名			
⑨	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容		校外実施の場合 施設名			
⑩	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容		校外実施の場合 施設名			

## 【2024年度】年間指導計画

特別活動				時間数	
特別活動Ⅲ				10時間	
活動目標					
<p>集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1)多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解するとともに、行動の仕方を身に付けている。【よりよい生活を築くための知識・技能】</p> <p>(2)集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができる。【集団や社会の形成者としての思考・判断・表現】</p> <p>(3)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養おうとしている。【主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度】</p> <p>以上を踏まえ、「よりよい生活を築くための知識・技能」「集団や社会の形成者としての思考・判断・表現」及び「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」の伸長を図る。</p>					
【活動内容】※変更があった場合は、実施報告書にて変更内容を記載すること					
活動内容				月	時間数
①	活動項目	ホームルーム活動	行事名等	例)クラス目標決め	
	text-align: center;">指導項目				
	使用教材				
	活動内容			校外実施の場合 施設名	
②	活動項目	学校行事	行事名等	例)体育祭	
	text-align: center;">指導項目				
	使用教材				
	活動内容			施設実施の場合 施設名	例)〇〇体育館
③	活動項目	行事名等			
	text-align: center;">指導項目				
	使用教材				
	活動内容			校外実施の場合 施設名	
④	活動項目	行事名等			
	text-align: center;">指導項目				
	使用教材				
	活動内容			校外実施の場合 施設名	

(裏面に続く)

施設名	#REF!
スクーリング会場	#REF!
課程区分	#REF! 属性 #

【 2024年度 】年間指導計画②

活動内容					月	時間数
⑤	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容		校外実施の場合 施設名			
⑥	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容		校外実施の場合 施設名			
⑦	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容		校外実施の場合 施設名			
⑧	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容		校外実施の場合 施設名			
⑨	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容		校外実施の場合 施設名			
⑩	活動項目		行事名等			
	指導項目					
	使用教材					
	活動内容		校外実施の場合 施設名			